

## 6. 敷地前面海域の断層評価(概ね30kmまで) 6.1 個別の断層評価

1. 地質構造に関する調査	..... 1-1	8. 沿岸の隆起傾向に関する調査	..... 8-1
2. 敷地極近傍の断層評価	..... 2-1	9. 内陸の隆起傾向に関する調査	..... 9-1
3. 敷地周辺の断層評価に係る基礎資料	..... 3-1	10. 完新世の海岸侵食地形に関する調査	.....10-1
4. 周辺陸域の断層評価(30kmまで)	..... 4-1	11. 海域の変動履歴の評価	.....11-1
5. 周辺陸域の断層評価(30km以遠)に係る基礎資料	..... 5-1	12. 地質構造発達史の評価	.....12-1
6. 敷地前面海域の断層評価(概ね30kmまで)	..... 6-1	13. 隆起のメカニズム評価	.....13-1
6.1 個別の断層評価	..... 6-1		
6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価	..... 6-69		
6.3 連続性のない断層	..... 6-77		
7. 外側海域の断層評価(概ね30km以遠)	..... 7-1		

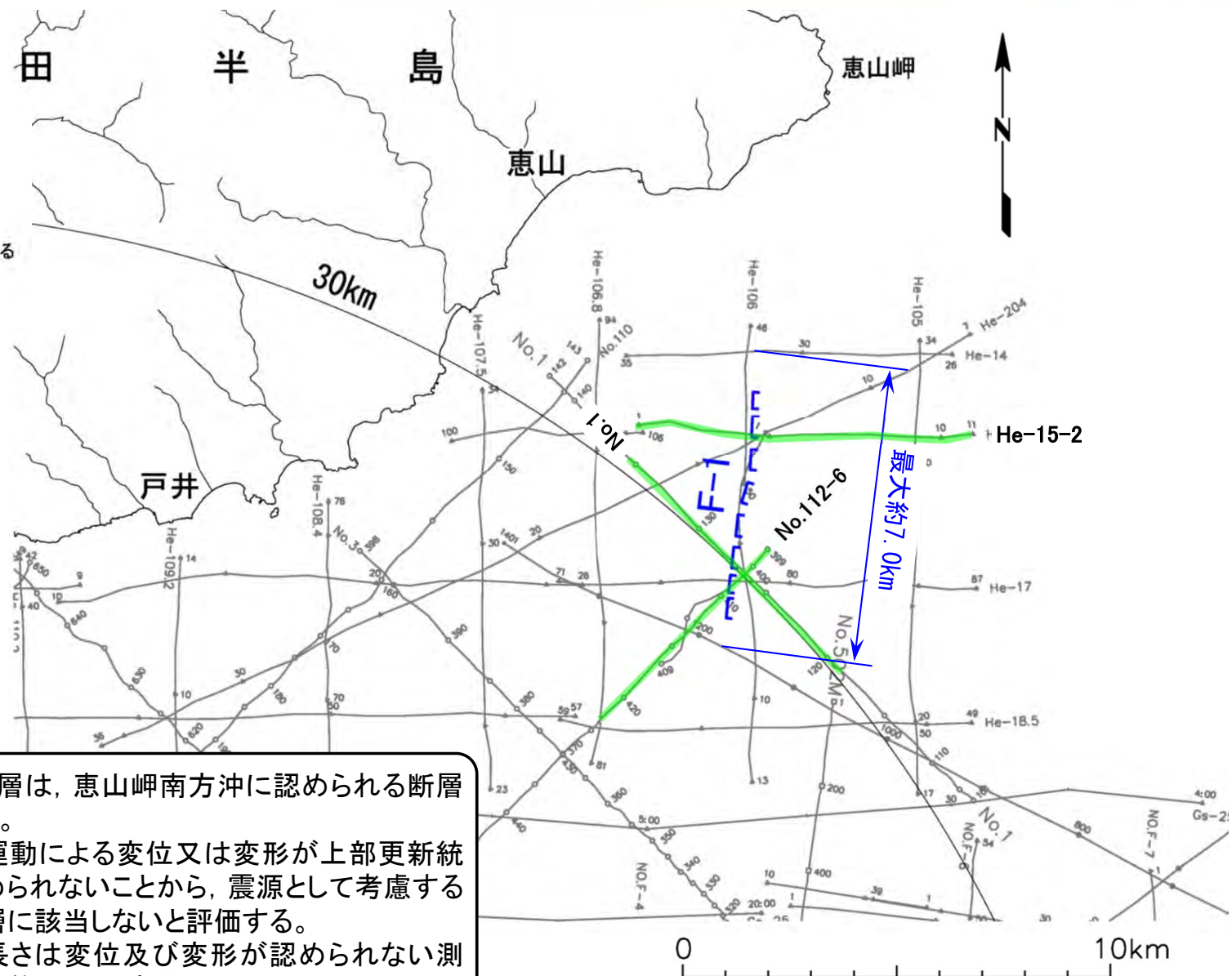
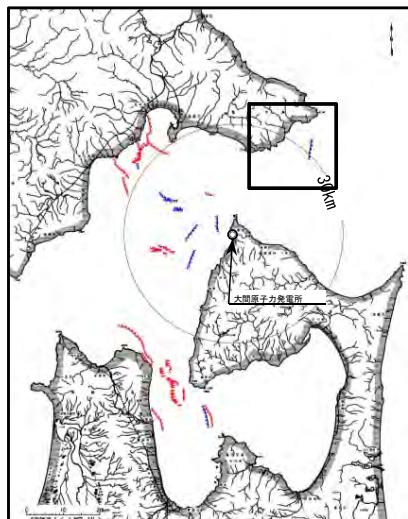
# 6.1 個別の断層評価(1/61)

## F-1断層:断層位置及び評価長さ

解析断層

F-7  
 断層 (伏在断層) 及び断層番号  
 断層 } 連続性のない断層  
 伏在断層 }  
 F-2  
 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層 (伏在断層) 及び断層番号

音波探査記録の添付範囲

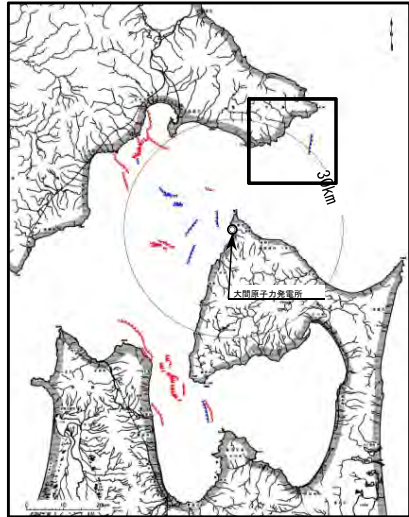
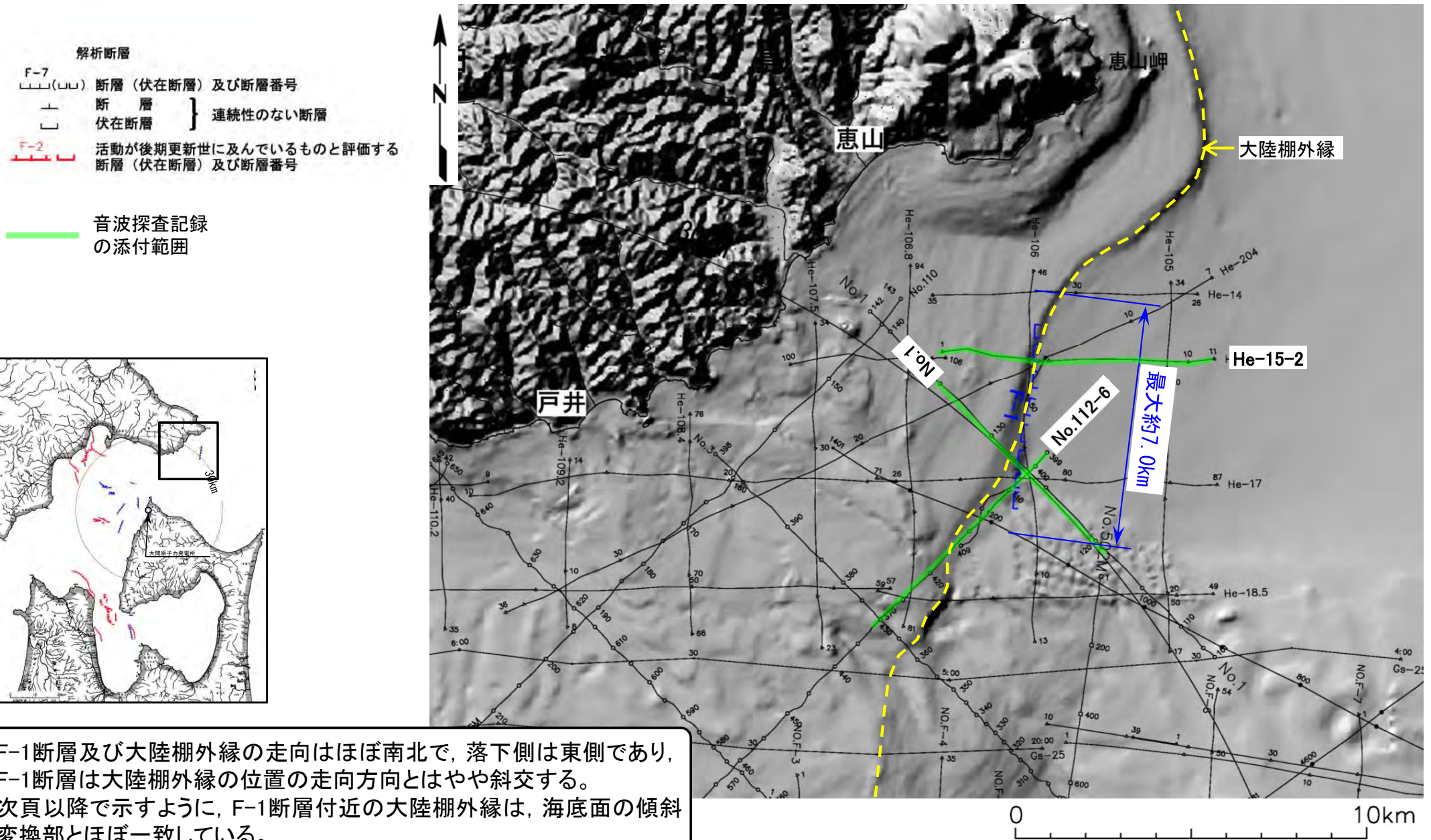


- F-1断層は、恵山岬南方沖に認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形が上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約7.0kmとする。



# 6.1 個別の断層評価(2/61)

## F-1断層：断層位置と大陸棚外縁との位置関係



- F-1断層及び大陸棚外縁の走向はほぼ南北で、落下側は東側であり、F-1断層は大陸棚外縁の走向方向とはやや斜交する。
- 次頁以降で示すように、F-1断層付近の大陸棚外縁は、海底面の傾斜変換部とほぼ一致している。



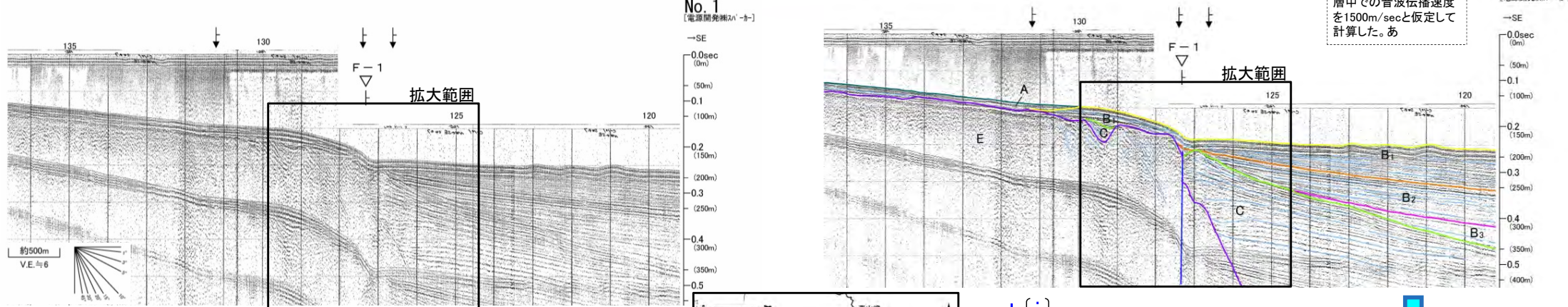
# 6.1 個別の断層評価(3/61)



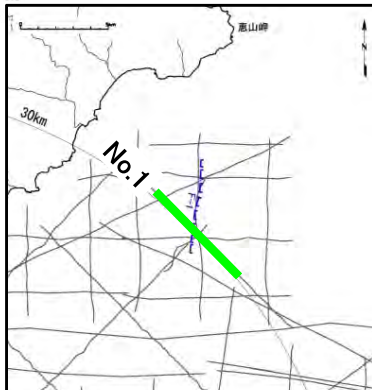
## F-1断層(主部): No.1測線 (断層位置と大陸棚外縁との位置関係)

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。あ

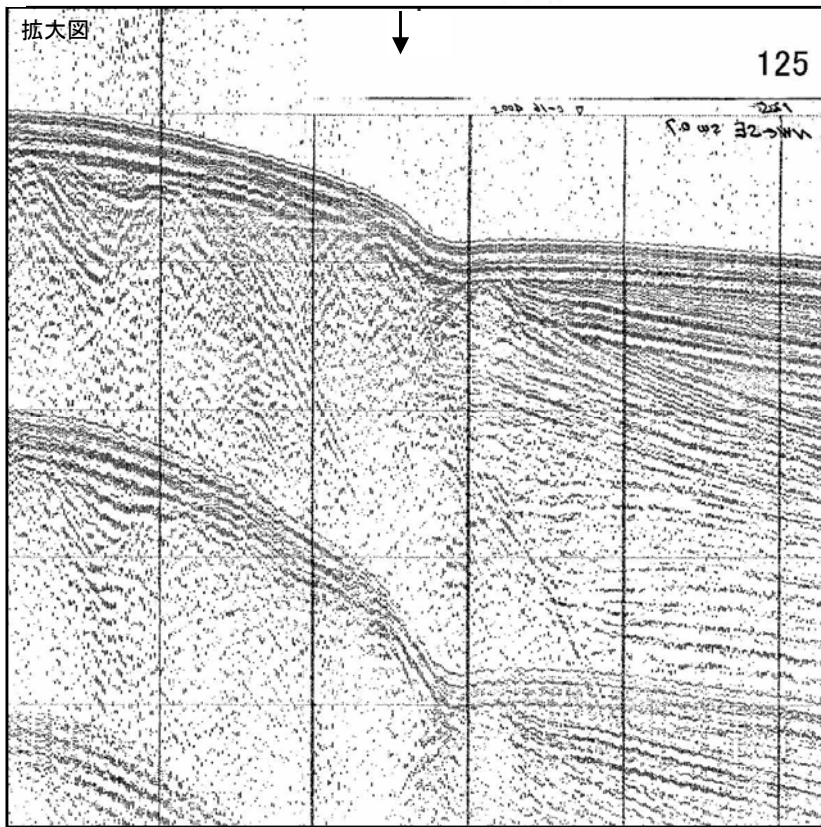
No. 1  
[電源開発株式会社]



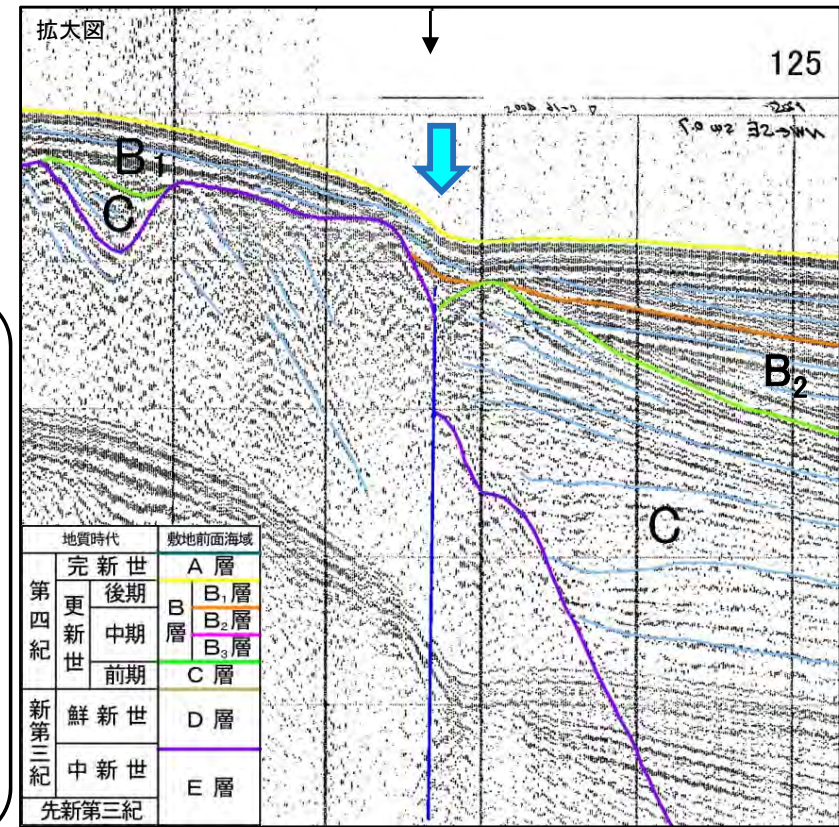
解析結果による当該断層位置及び落下側 ( ) は他の断層  
文献による断層(撓曲)位置及び落下側



上部更新統には変位(変形)が及ばない断層  
大陸棚外縁の位置



- F-1断層による変位がE層及びC層に、変形がB<sub>2</sub>層下部に認められるが、B<sub>2</sub>層上部及びB<sub>1</sub>層には変位・変形は認められない。また、B<sub>2</sub>層上部以上では、上位の反射面ほど段差が大きくなっている。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。
- なお、大陸棚外縁は海底面の傾斜変換部とほぼ一致している。



地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層
	中新世	D層
先新第三紀		E層



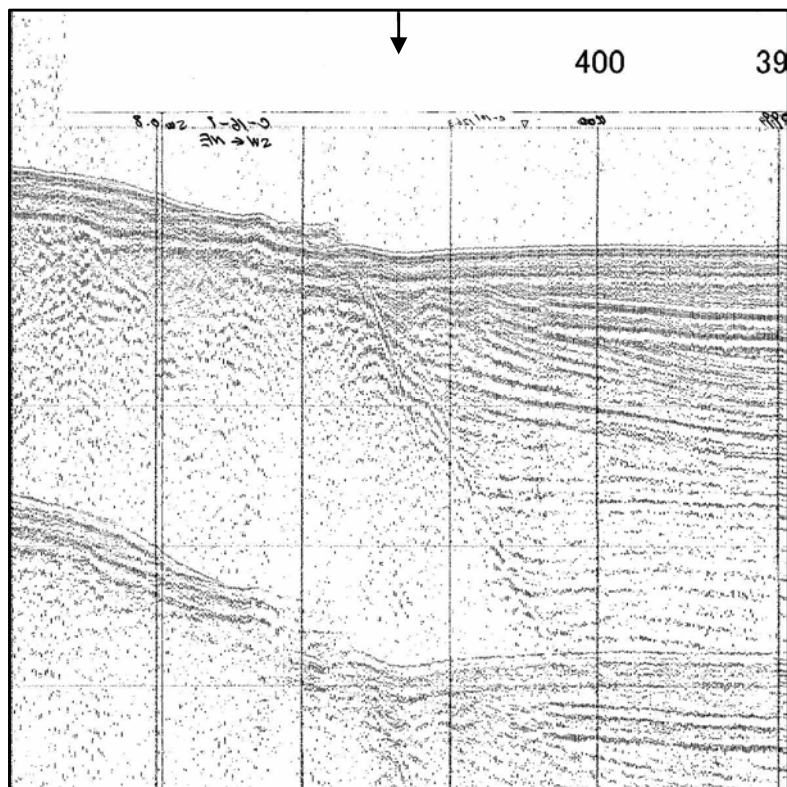
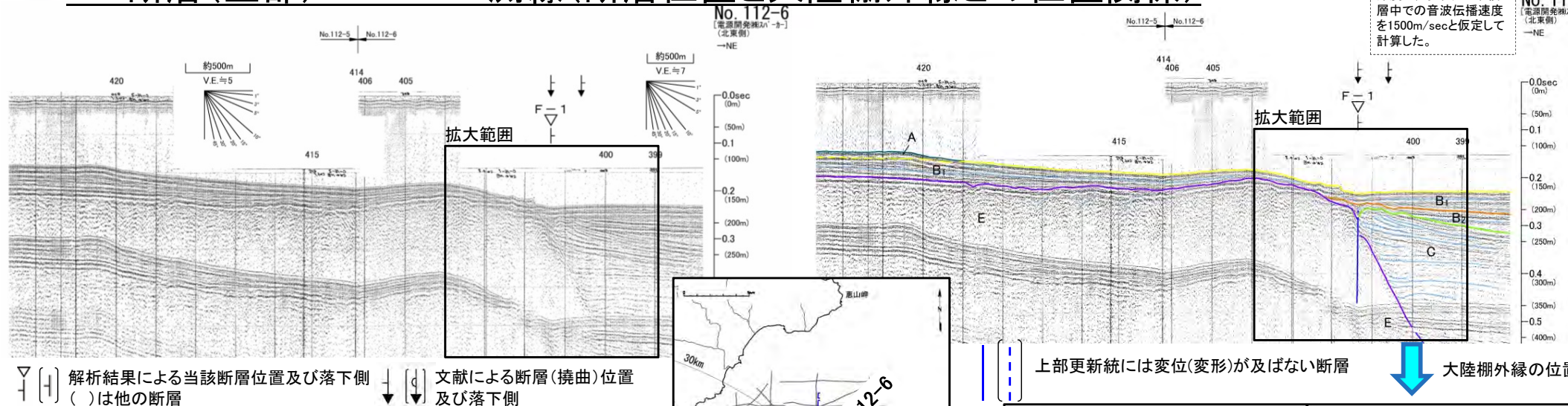
# 6.1 個別の断層評価(4/61)



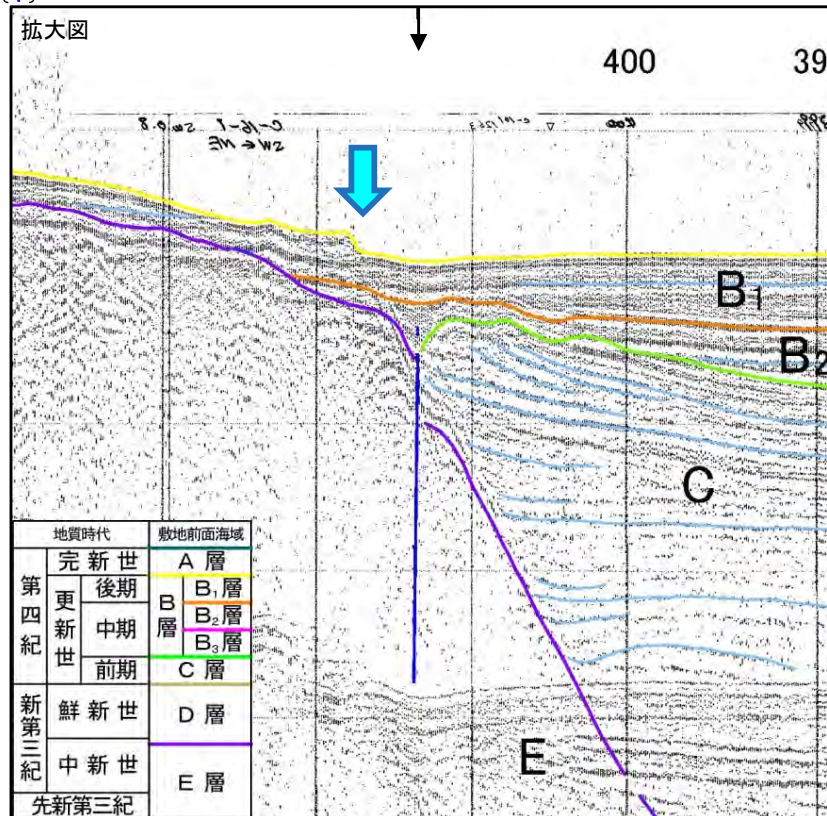
## F-1断層(主部): No.112-6測線(断層位置と大陸棚外縁との位置関係)

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

No. 112-6  
(北東側)  
→NE



- No.112-6測線において、F-1断層による変位がE層及びC層に、変形がB<sub>2</sub>層下部に認められるが、B<sub>2</sub>層上部及びB<sub>1</sub>層には変位・変形は認められない。また、B<sub>2</sub>層上部以上では、上位の反射面ほど段差が大きくなっている。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。
- なお、大陸棚外縁は海底面の傾斜変換部とほぼ一致している。

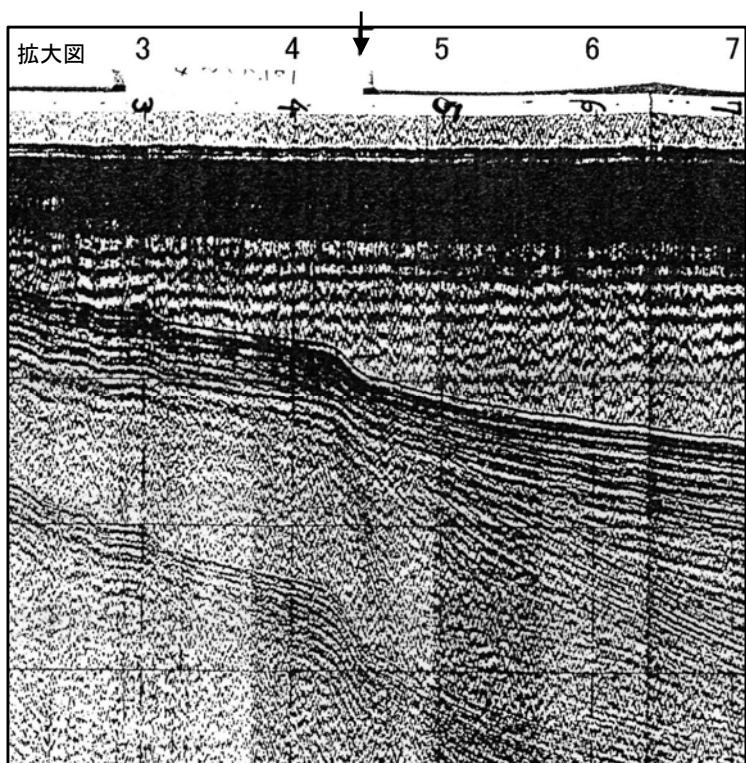
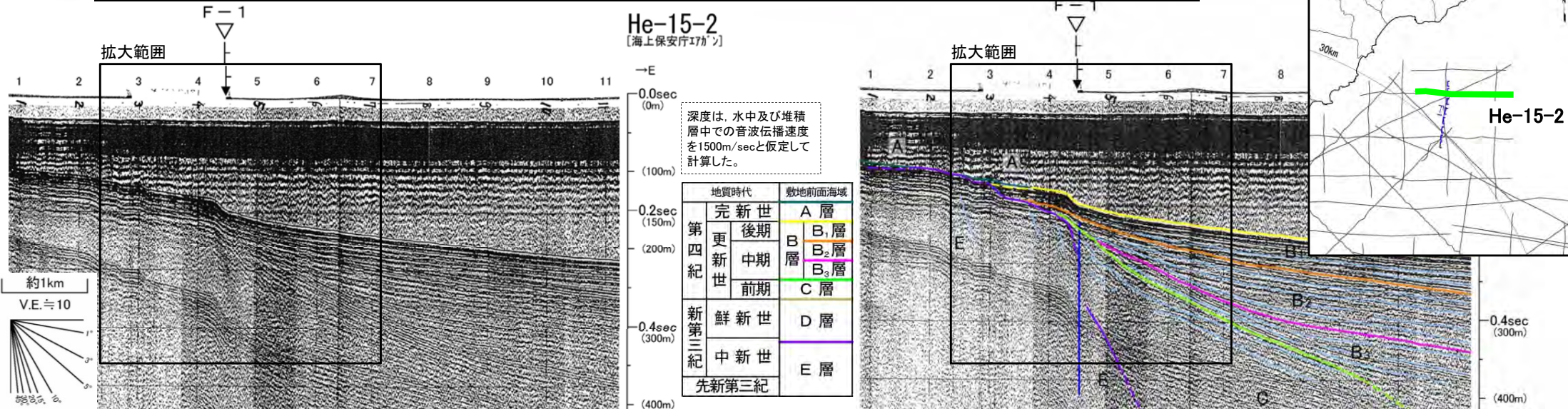




# 6.1 個別の断層評価(5/61)



## F-1断層(主部): He-15-2測線 (断層位置と大陸棚外縁との位置関係)



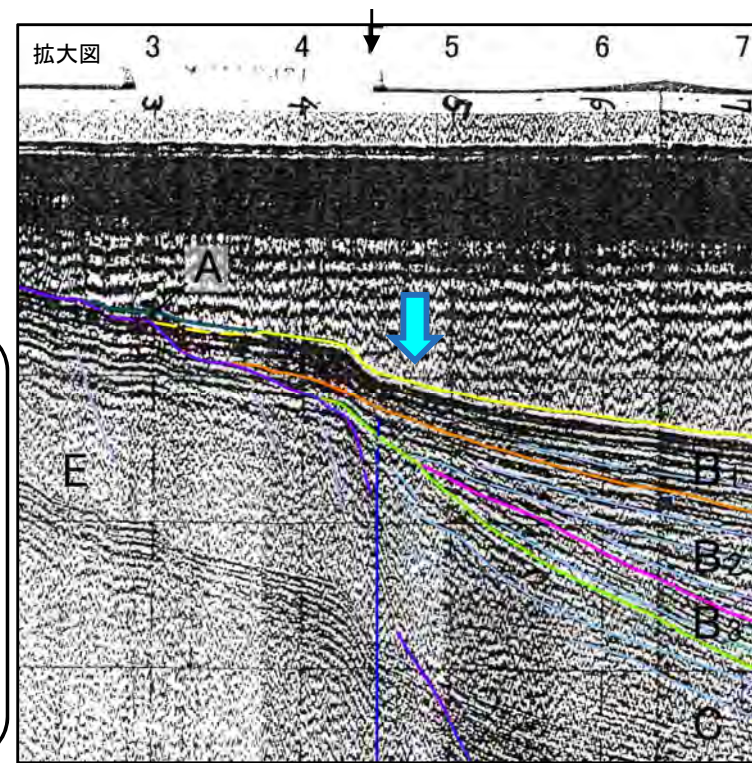
大陸棚外縁の位置

- ▽ ( ) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層
- ↓ ( ) 文献による断層(撓曲)位置及び落下側
- || ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

• He-15-2測線において、F-1断層による変位がE層及びC層に、変形がB<sub>2</sub>層下部に認められるが、B<sub>2</sub>層上部及びB<sub>1</sub>層には変位・変形は認められない。また、B<sub>2</sub>層上部以上では、上位の反射面ほど段差が大きくなっている。

• 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

• なお、大陸棚外縁は海底面の傾斜変換部とほぼ一致している。

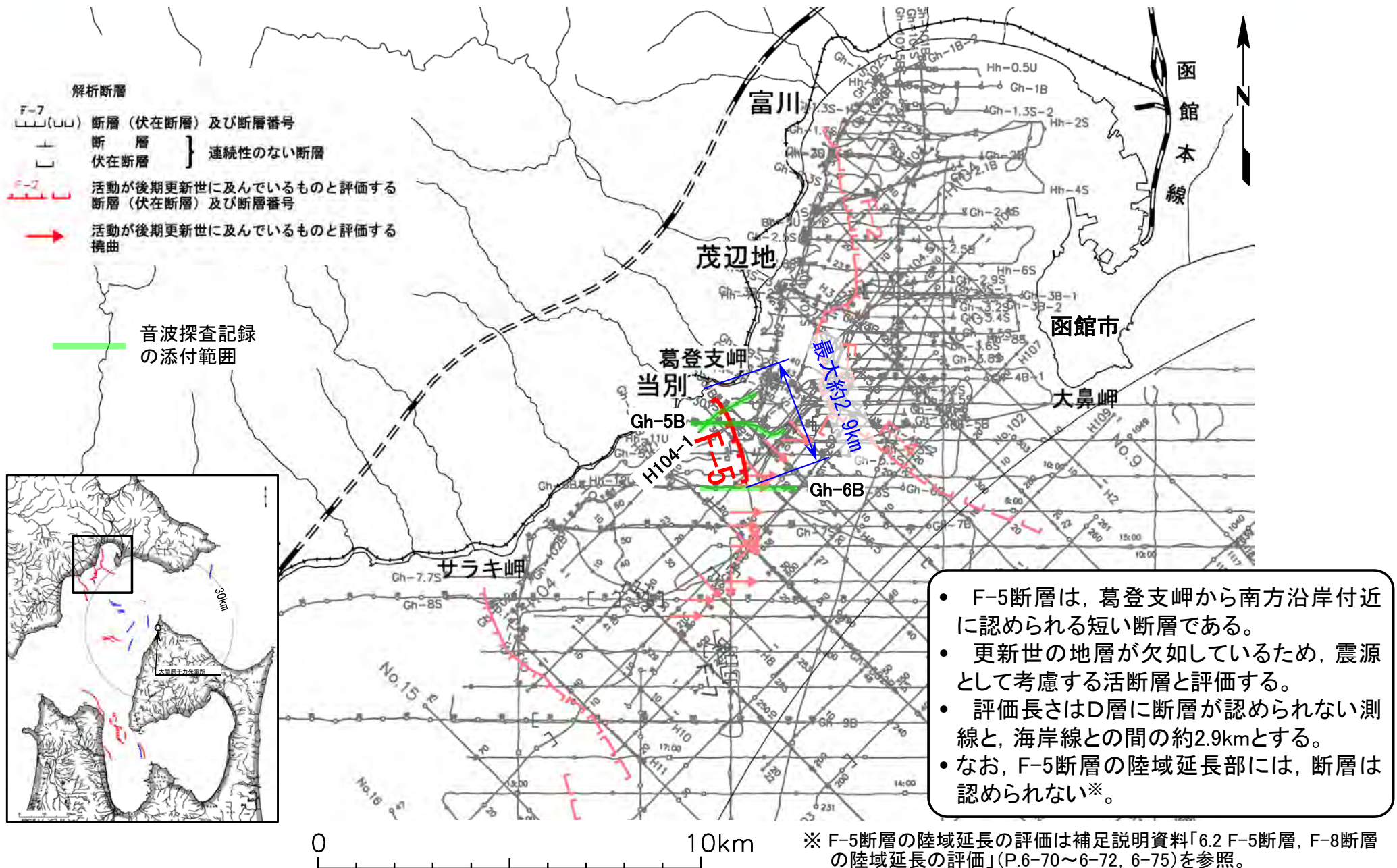




# 6.1 個別の断層評価(6/61)



## F-5断層: 断層位置及び評価長さ

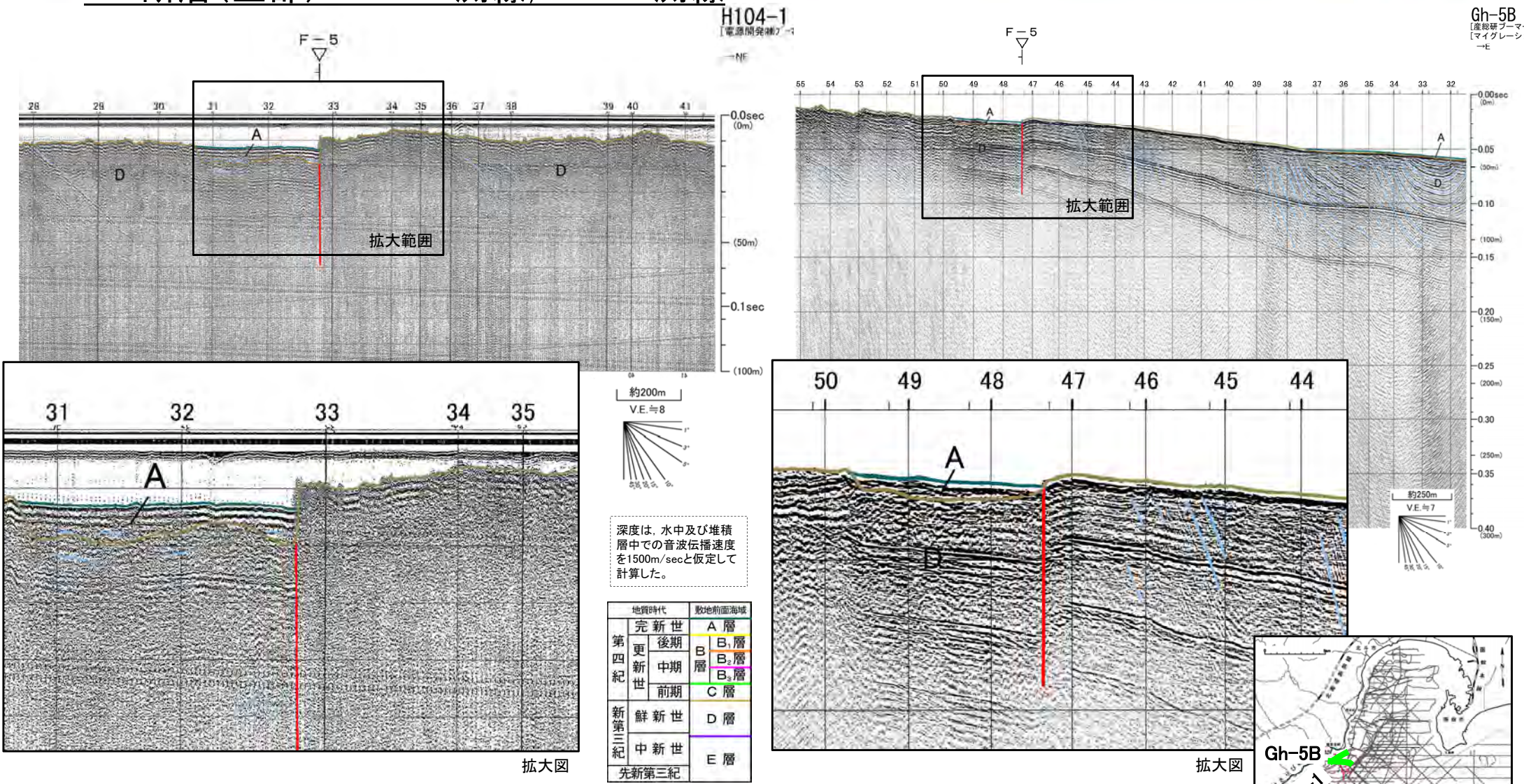


- F-5断層は、葛登支岬から南方沿岸付近に認められる短い断層である。
- 更新世の地層が欠如しているため、震源として考慮する活断層と評価する。
- 評価長さはD層に断層が認められない測線と、海岸線との間の約2.9kmとする。
- なお、F-5断層の陸域延長部には、断層は認められない※。



# 6.1 個別の断層評価(7/61)

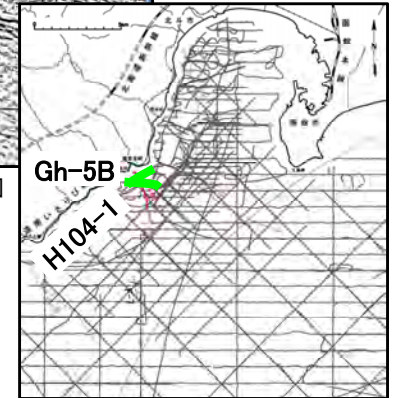
## F-5断層(主部): H104-1測線, Gh-5B測線



- F-5断層による変位がD層内部に認められる。
- C層からB<sub>1</sub>層が分布せず、最終活動時期の判断ができないため、後期更新世以降の活動が否定できない。

▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( )は他の断層

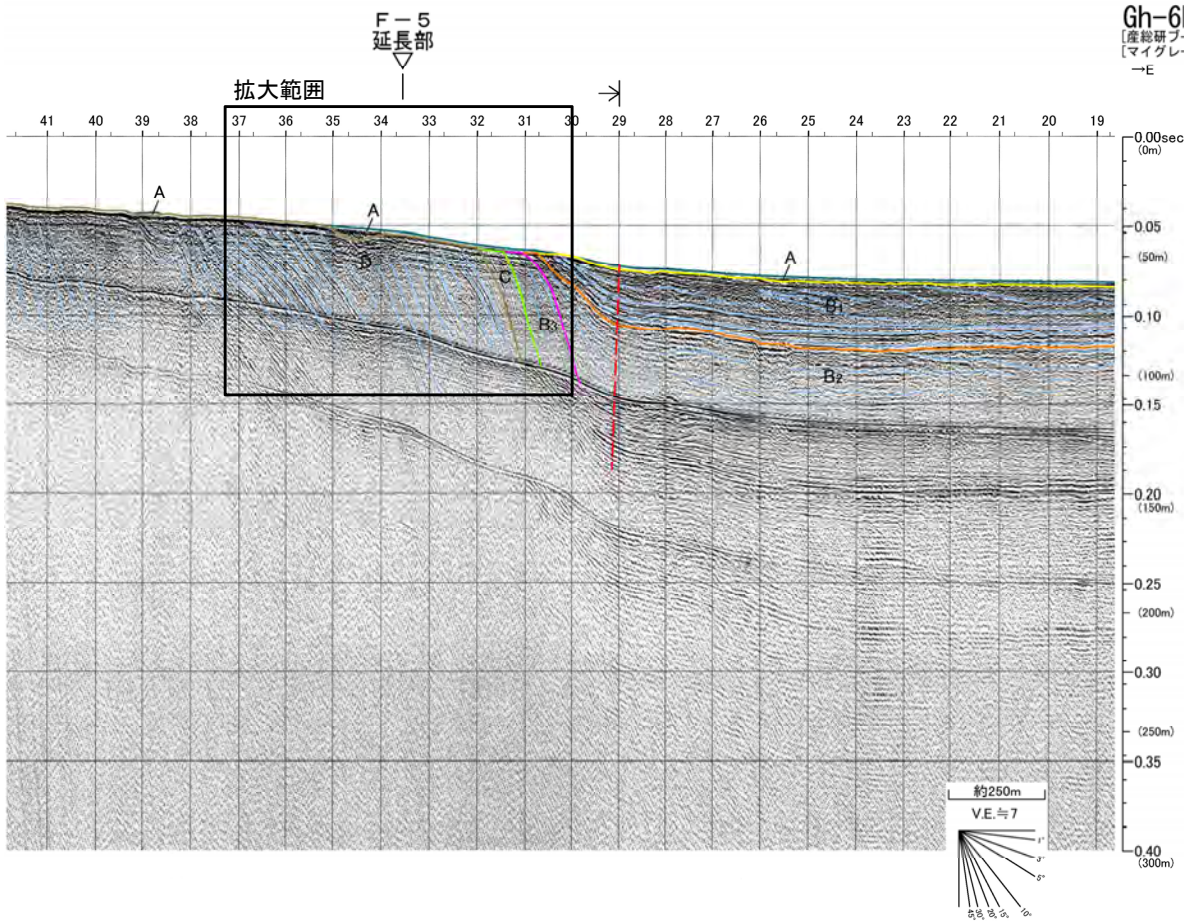
— (---) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層



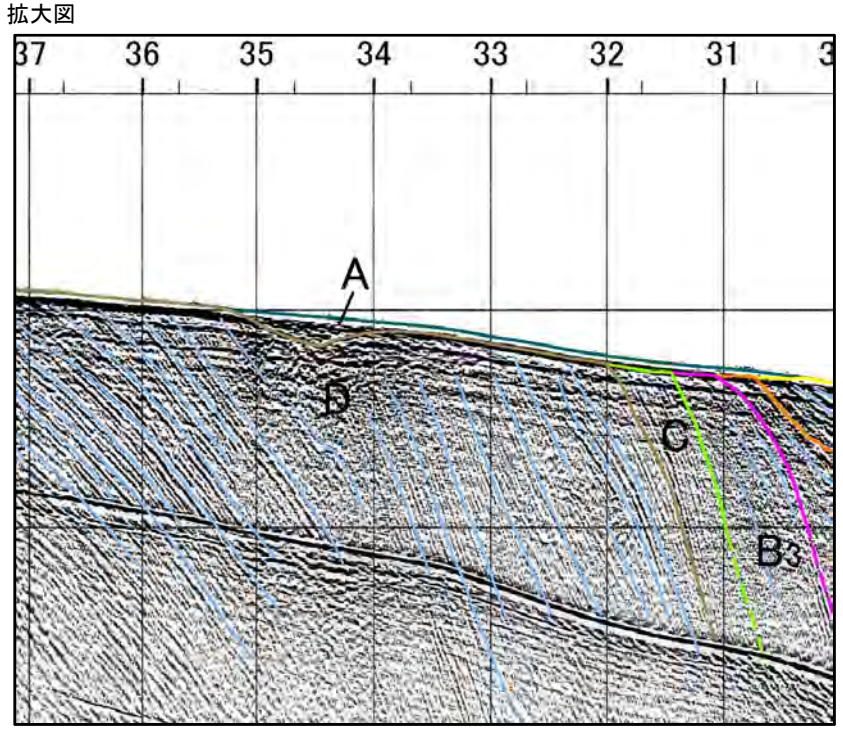


# 6.1 個別の断層評価(8/61)

## F-5断層(南方延長部): Gh-6B測線



Gh-6B  
[産総研ブーマー]  
[マイグレーション]  
→E

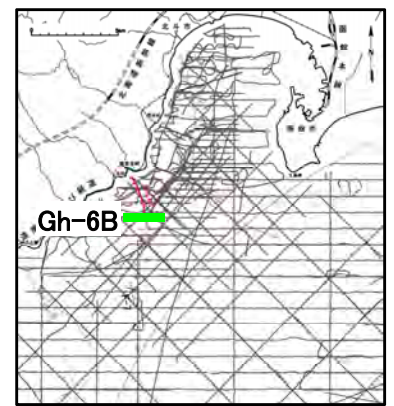


深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- 解析結果による当該撓曲位置及び落下側 ( )は他の撓曲
- 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置
- 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

• F-5断層南方延長部には、D層及び海底面にF-5断層と性状を同じくする変位・変形は認められない。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
	先新第三紀	



(余白)

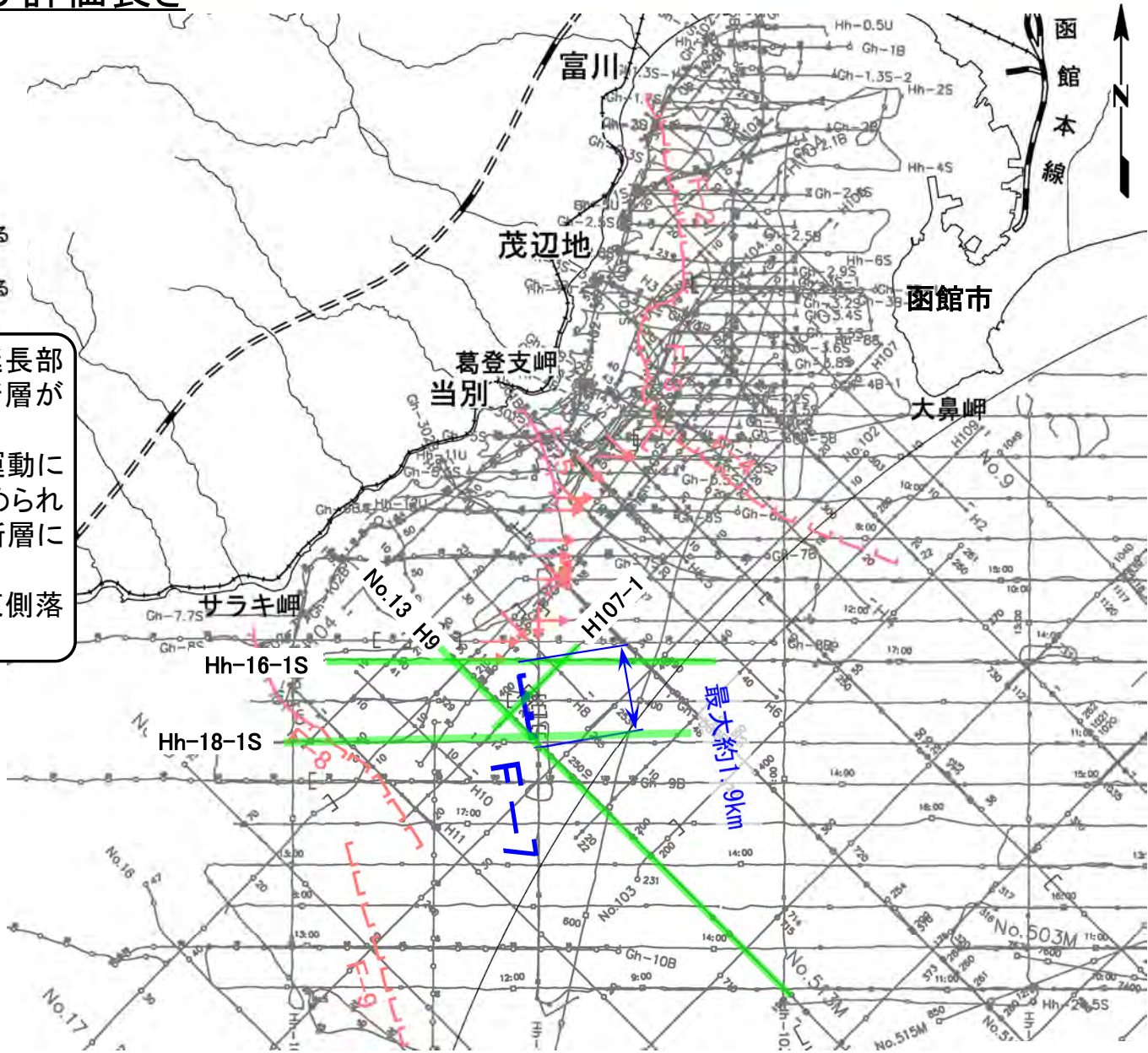


# 6.1 個別の断層評価(9/61)

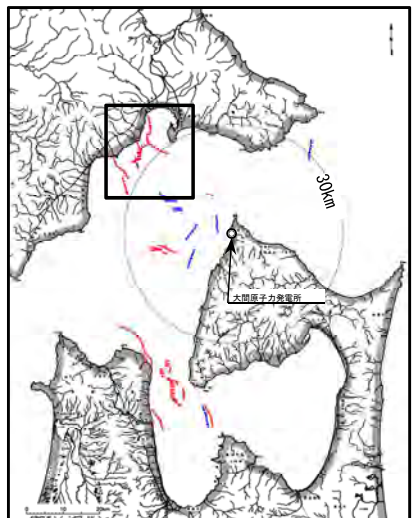


## F-7断層:断層位置及び評価長さ

- 解析断層
- F-7 (L) (L) 断層 (伏在断層) 及び断層番号
  - 断層 } 連続性のない断層
  - 伏在断層 }
  - 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層 (伏在断層) 及び断層番号
  - 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する撓曲



- サラキ岬南東沖には、F-3断層南西延長部付近から南南東方向に延びるF-7断層が認められる。
- H9測線 (No.13測線) において、断層運動による変位又は変形が上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する\*。
- F-7断層は長さが最大1.9kmで東北東側落下の断層である。



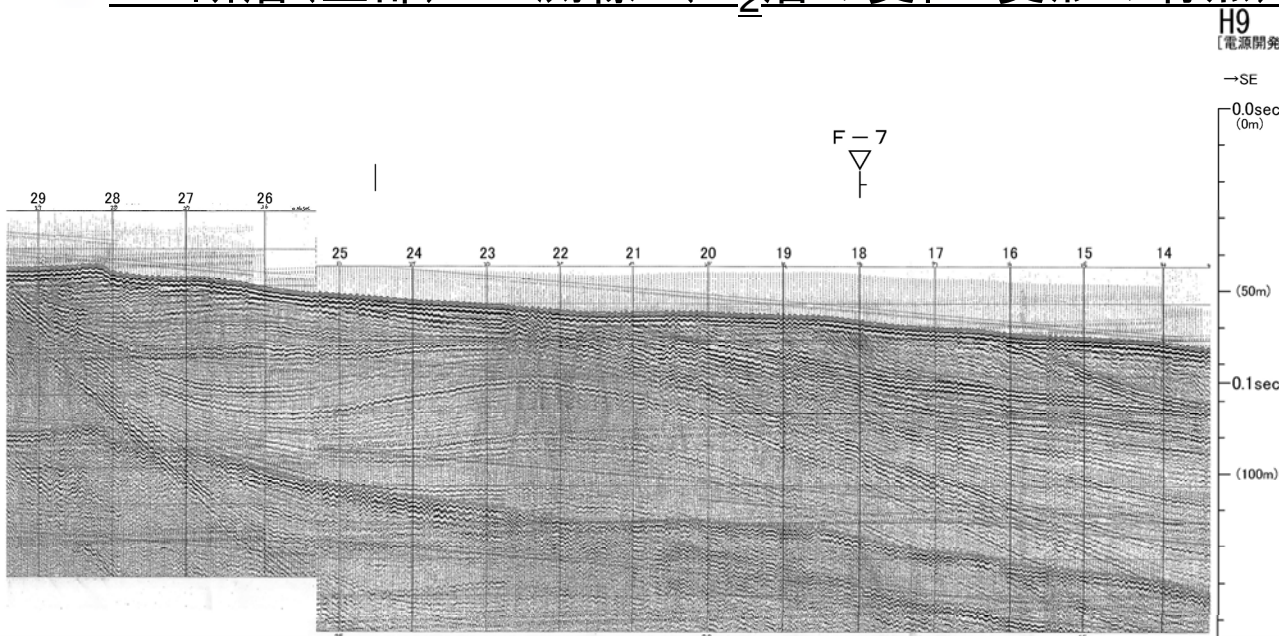
\* F-7断層の活動性に係る音波探査の詳細は、補足説明資料「5.2.5 南西延長部のF-7断層の活動性」(P.5-142~5-147)を参照。

音波探査記録の添付範囲



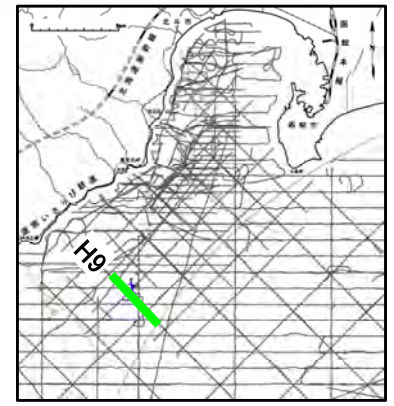
# 6.1 個別の断層評価(10/61)

## F-7断層(主部): H9測線 (B<sub>2</sub>層の変位・変形の有無)



深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	更新世 後期	B <sub>1</sub> 層
	更新世 中期	B <sub>2</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層
	中新世	D層
先新第三紀		E層

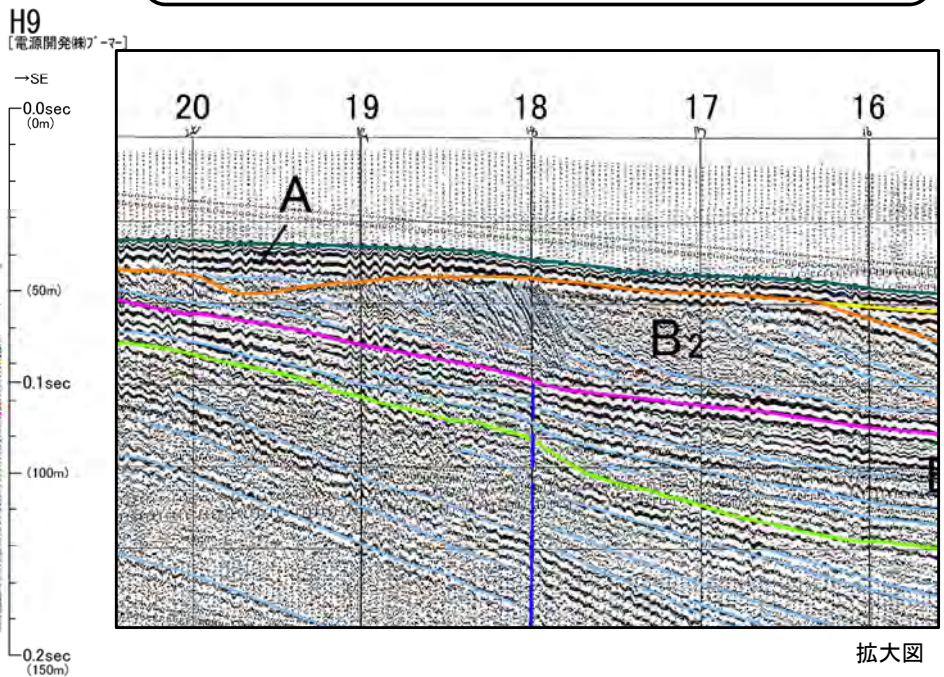
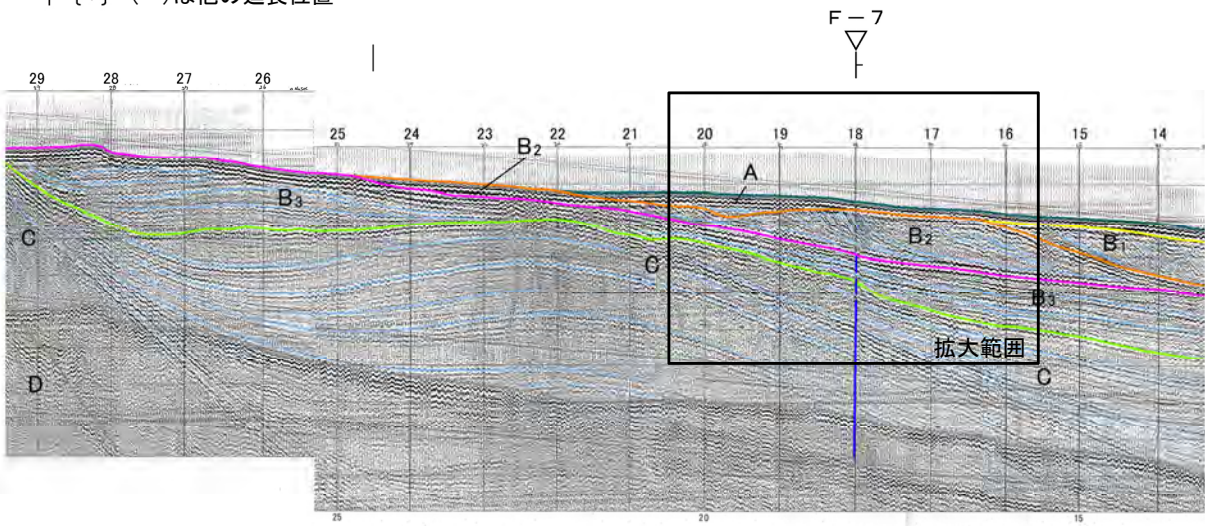


- F-7断層による変位がC層中部に、変形がC層上部及びB<sub>3</sub>層までに認められ、B<sub>2</sub>層及びA層には変位・変形が認められない。
- F-7断層による断層運動は少なくとも後期更新世には及んでいないと評価する。

▽ ( | ) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層

|| ( | ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

▽ ( || ) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の延長位置



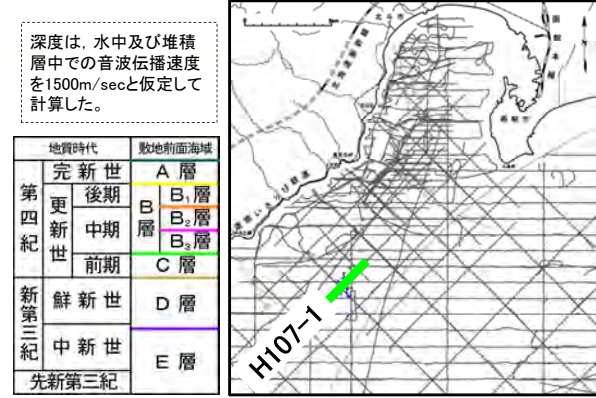
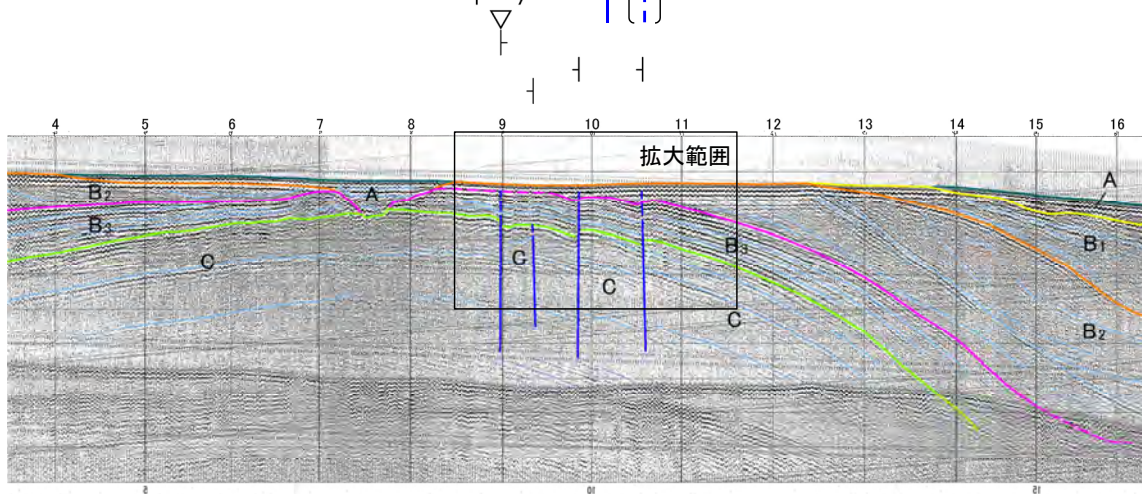
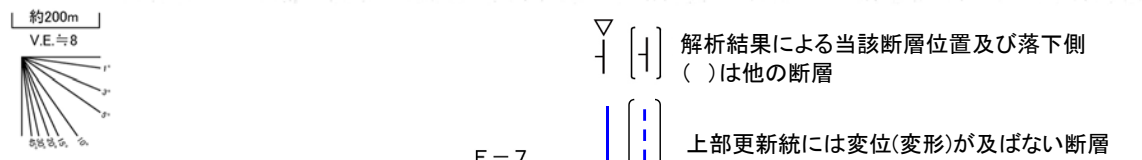
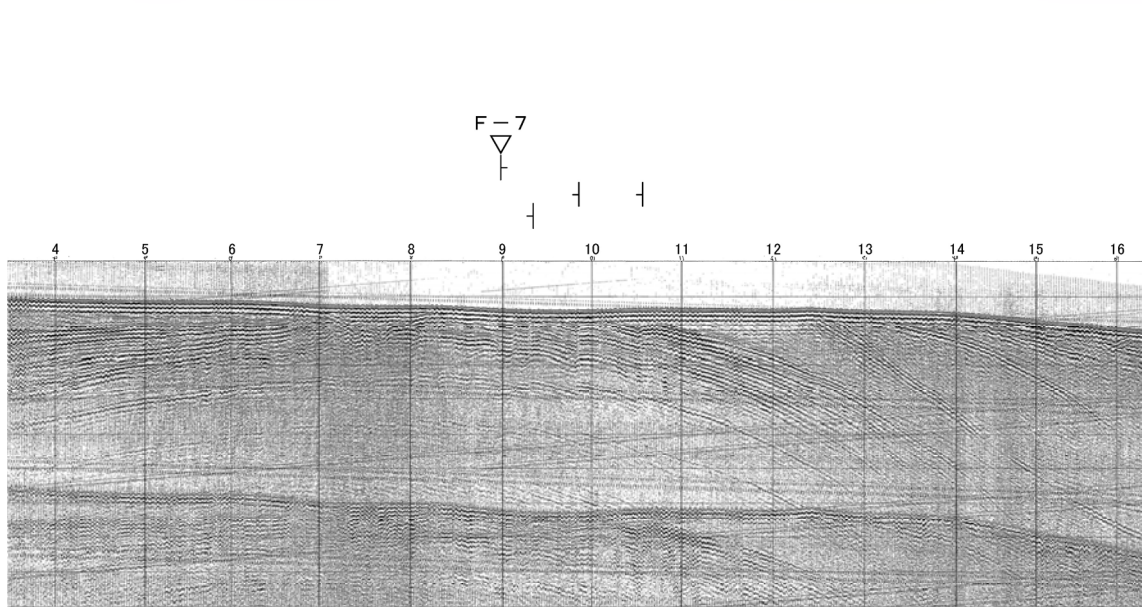
拡大図



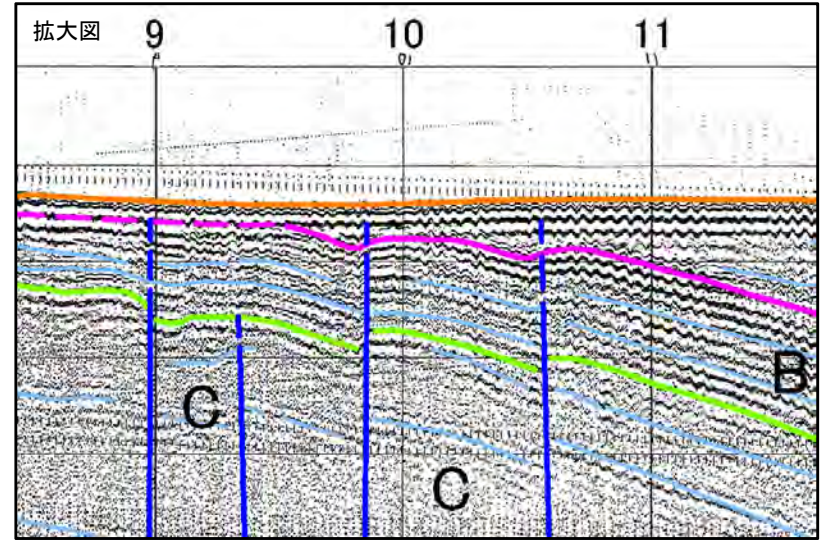
# 6.1 個別の断層評価(11/61)



## F-7断層(主部): H107-1測線 (B<sub>2</sub>層の変位・変形の有無)



- F-7断層による変位がC層上部及びB<sub>3</sub>層下部までに、変形がB<sub>3</sub>層上部に認められるが、B<sub>2</sub>層には影響がないものと判断される。
- F-7断層による断層運動は少なくとも後期更新世には及んでいないと評価する。
- なお、F-7断層を含み、まとめて地溝状の変位を示す複数の連続性のない断層が認められ、一部はB<sub>2</sub>層に影響を与えている。

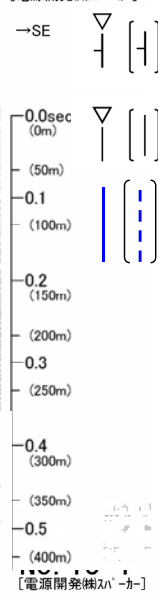




# 6.1 個別の断層評価(12/61)

## F-7断層(主部):No.13測線 (B<sub>2</sub>層の変位・変形の有無)

No. 13-1  
[電源開発㈱パワ-カ]

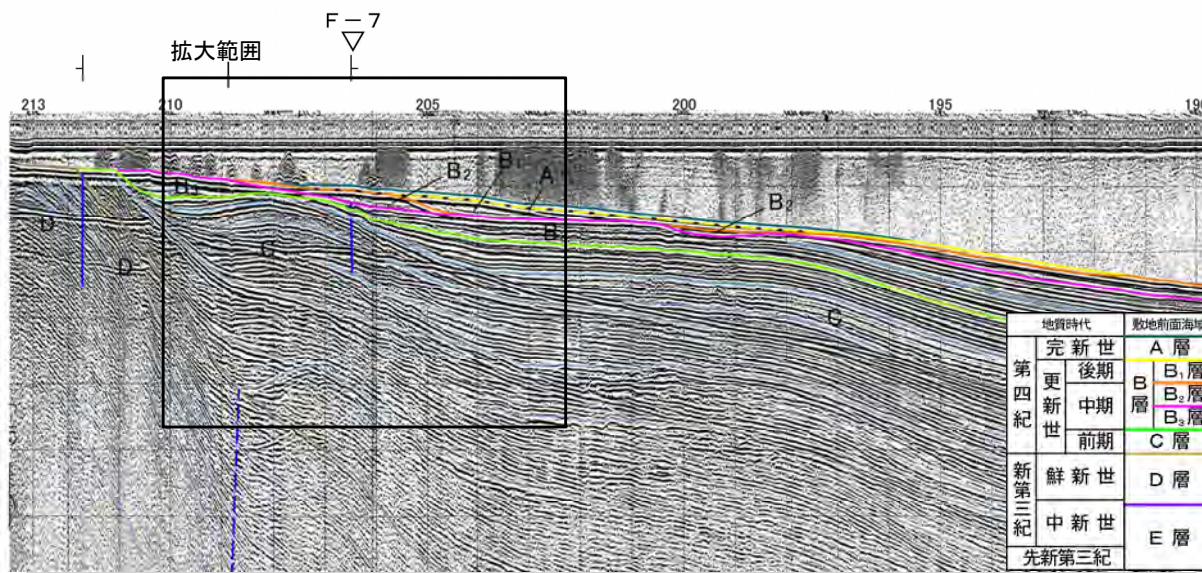
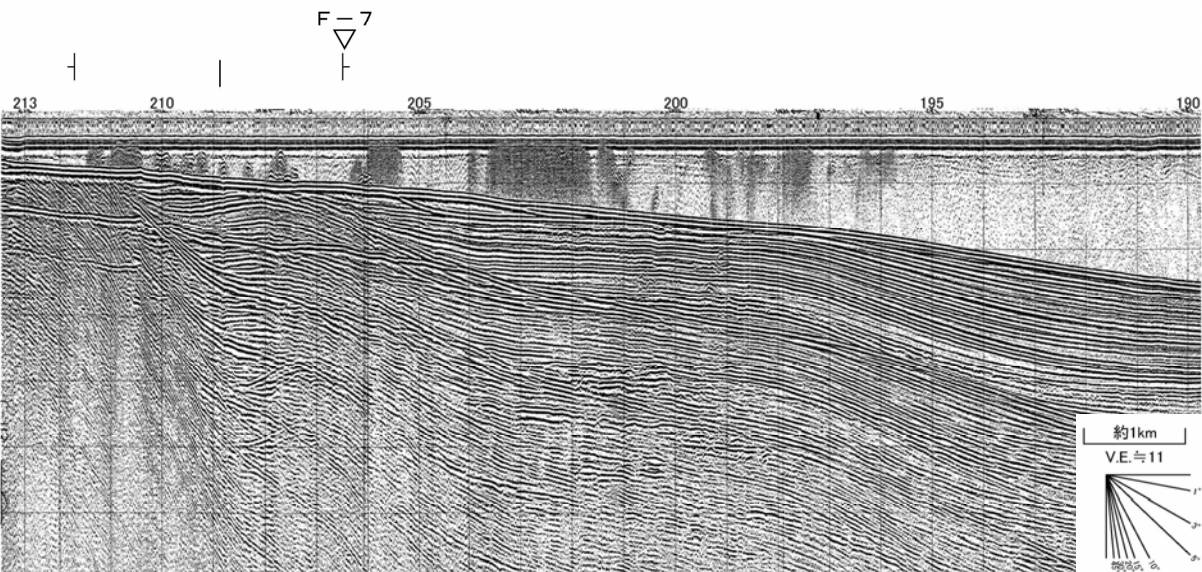
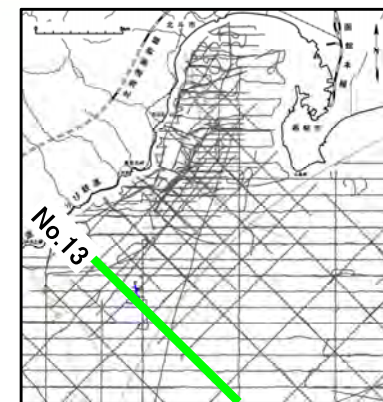


解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層

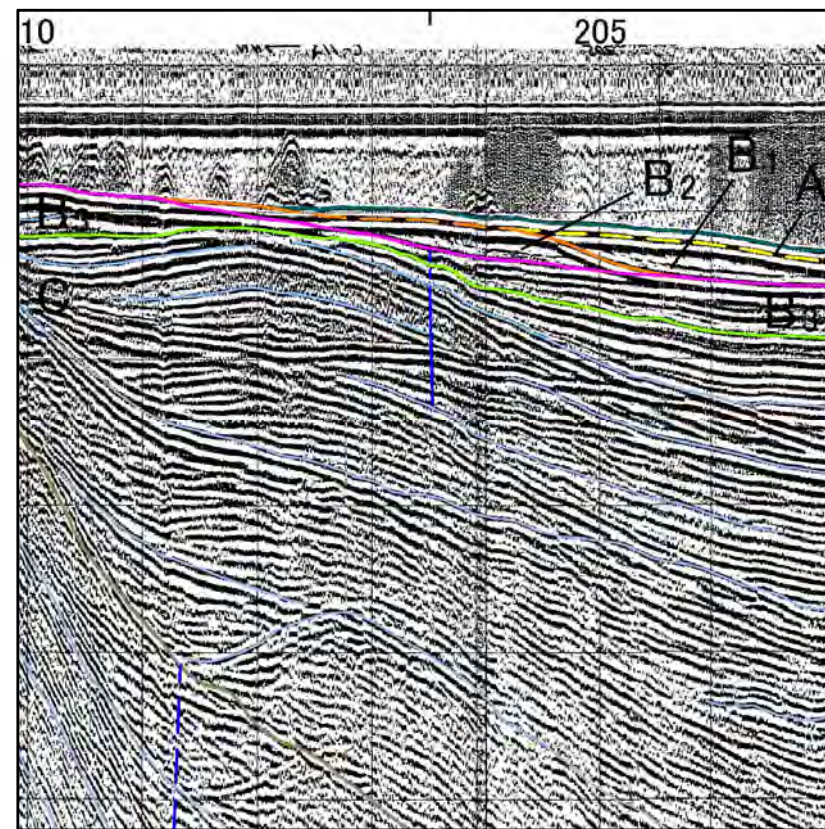
解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の延長位置

上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。



拡大図

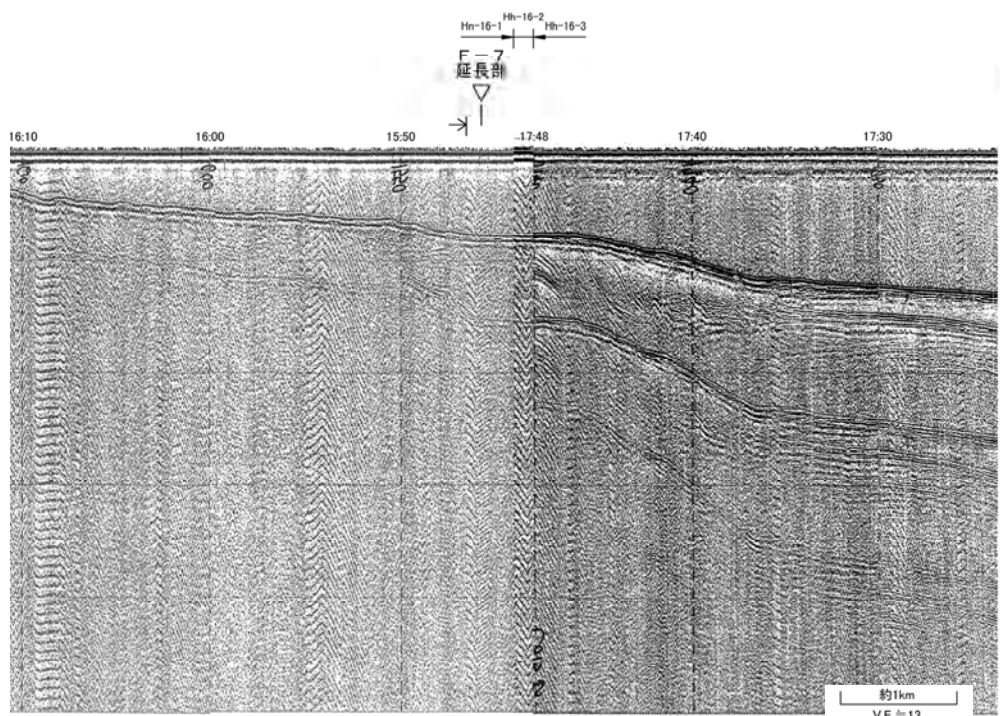


- F-7断層による変位がC層中部に、変形がC層上部及びB<sub>3</sub>層までに認められ、B<sub>2</sub>層及びA層には変位・変形が認められない。
- F-7断層による断層運動は少なくとも後期更新世には及んでいないと評価する。

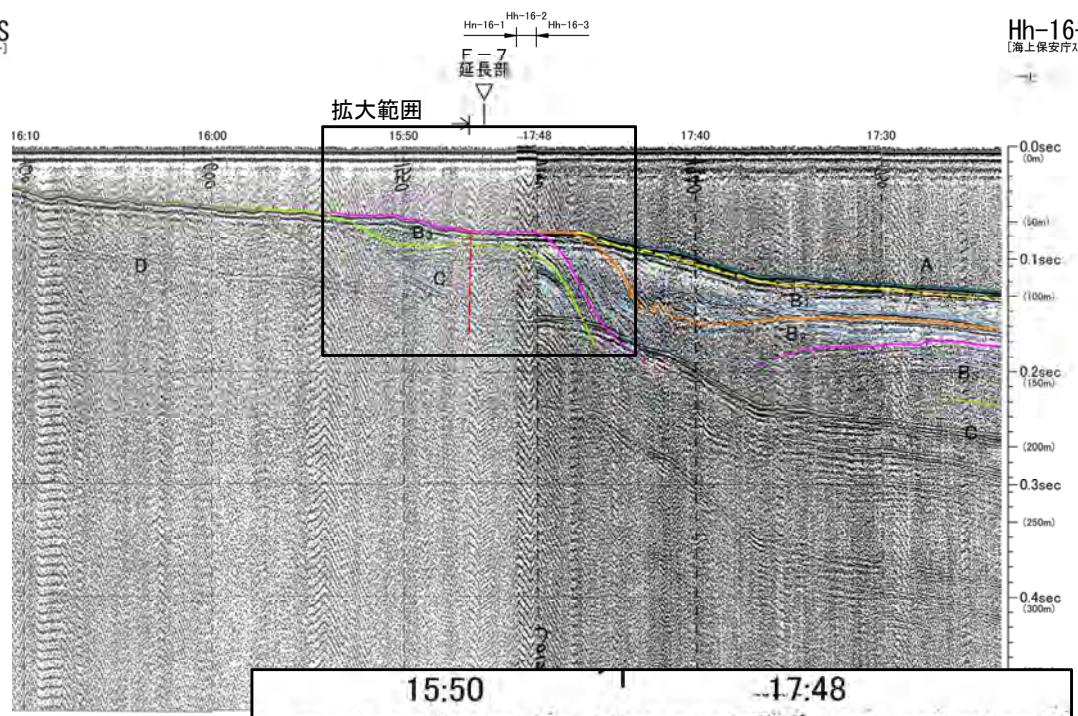


# 6.1 個別の断層評価(13/61)

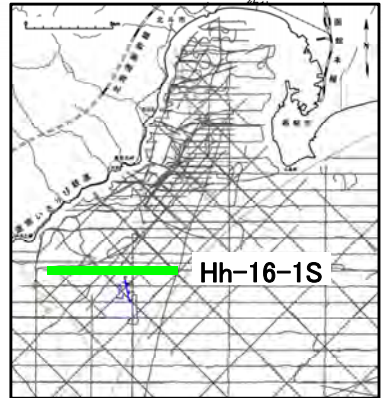
## F-7断層(北方延長部): Hh-16-1S測線



Hh-16-1S  
[海上保安庁測線]



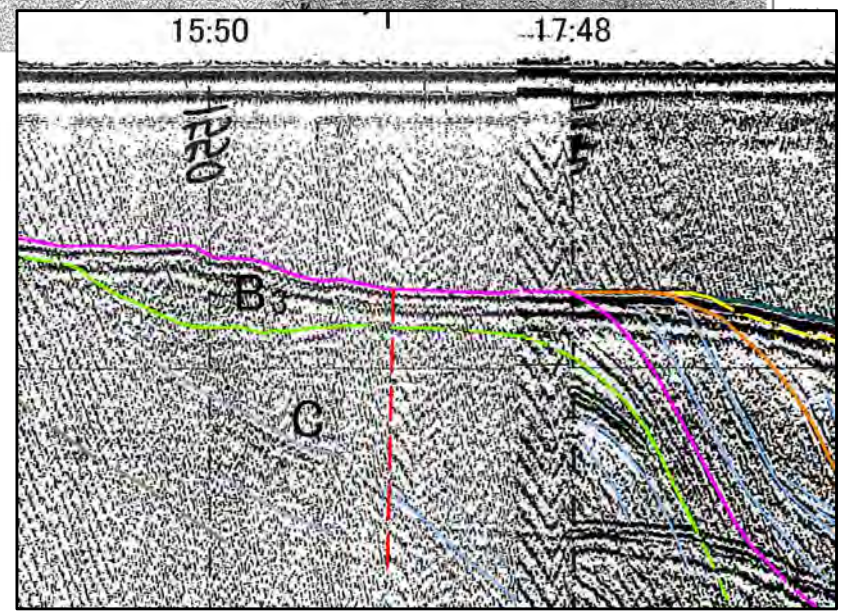
Hh-16-1S  
[海上保安庁測線]



深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代	敷地前面海域
完新世	A層
第四紀 更新世	後期 B層
	中期 B <sub>2</sub> 層
	前期 C層
新第三紀 鮮新世	D層
中新世	E層
先新第三紀	

- 解析結果による当該撓曲位置及び落下側 ( )は他の撓曲
- 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置
- 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層



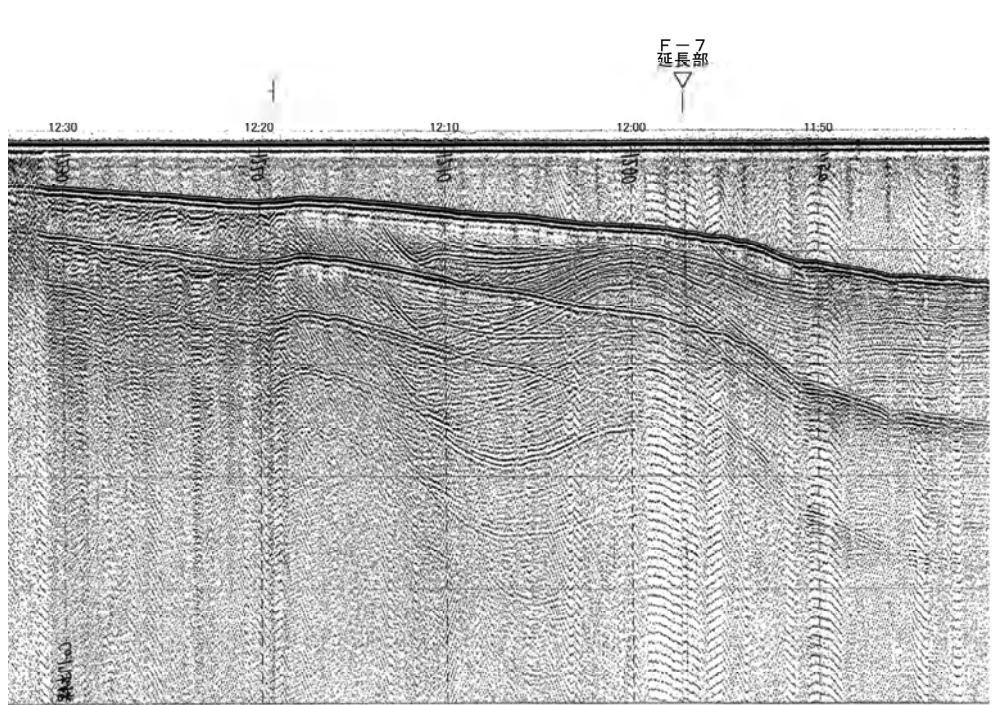
拡大図

● F-7断層北方延長部には、F-3断層の南西延長部(撓曲)による変形が認められるが、C層上部以上にF-7断層と性状を同じくする変位又は変形は認められない。

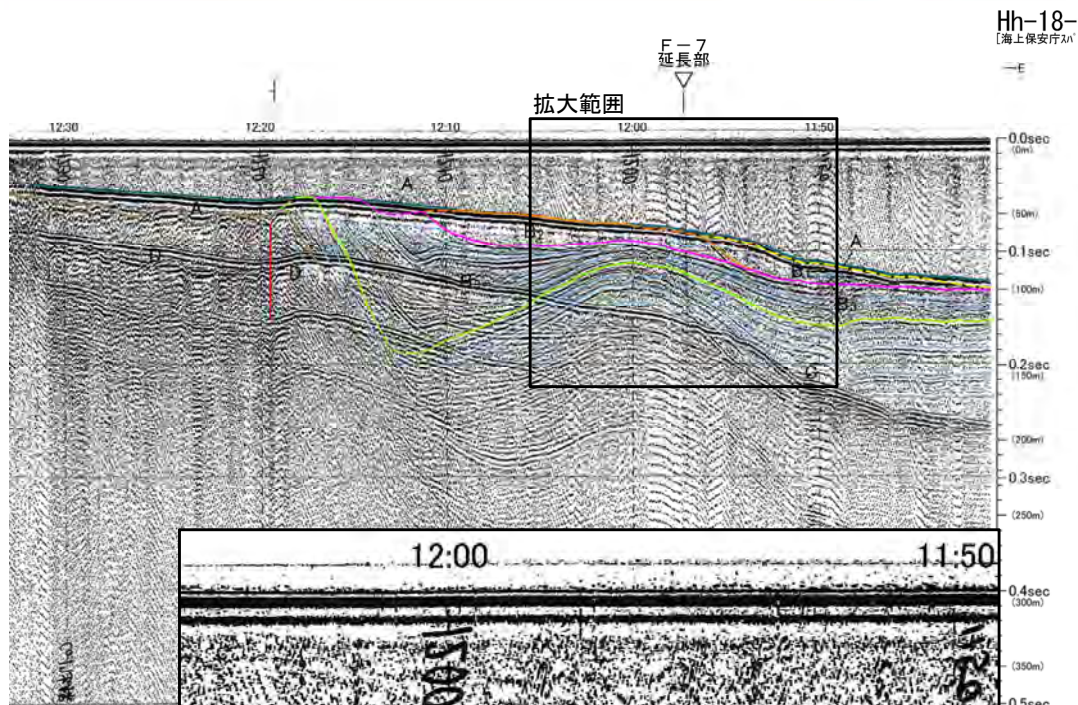


# 6.1 個別の断層評価(14/61)

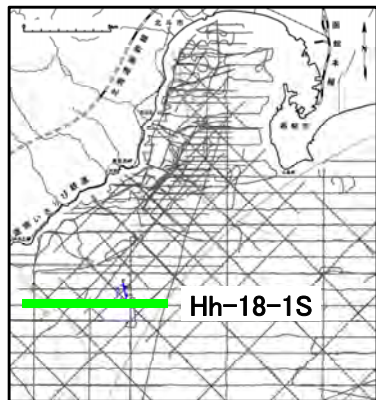
## F-7断層(南方延長部): Hh-18-1S測線



Hh-18-1S  
[海上保安庁(カ)-カ]



Hh-18-1S  
[海上保安庁(カ)-カ]



深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代	敷地前面海域
第四紀	完新世 A層
	更新世後期 B層
	更新世中期 B <sub>1</sub> 層
	更新世中期 B <sub>2</sub> 層
	更新世前期 C層
第三紀	鮮新世 D層
	中新世 E層
先第三紀	

▽ ( ) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置

- F-7断層南方延長部には、C層上部以上に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。

拡大図

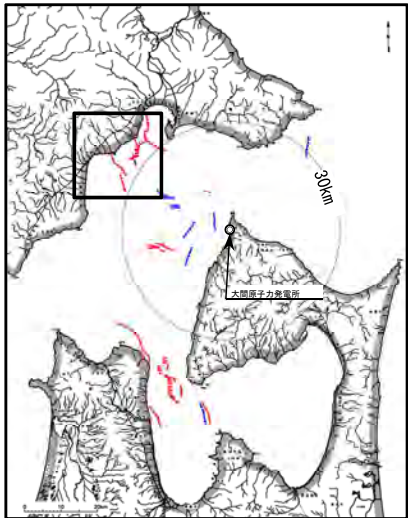
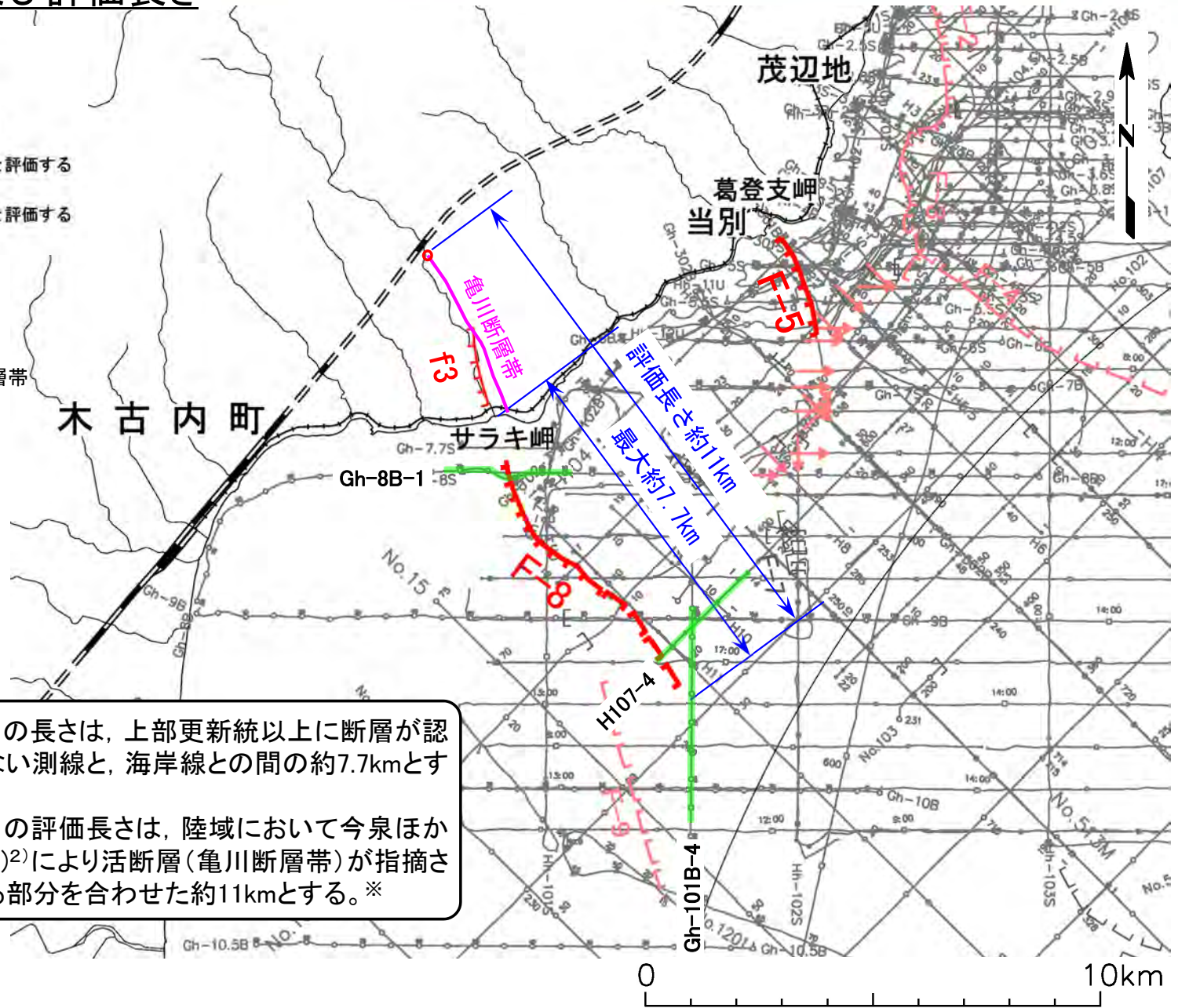




# 6.1 個別の断層評価(15/61)

## F-8断層:断層位置及び評価長さ

- 解析断層
- F-7 (U) 断層 (伏在断層) 及び断層番号
  - 断層 } 連続性のない断層
  - 伏在断層
  - F-7 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層 (伏在断層) 及び断層番号
  - 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する拗曲
  - : F-5断層, F-8断層の北端
  - ┌─┐ : 宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>のf3
  - : 今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>の亀川断層帯
  - 音波探査記録の添付範囲



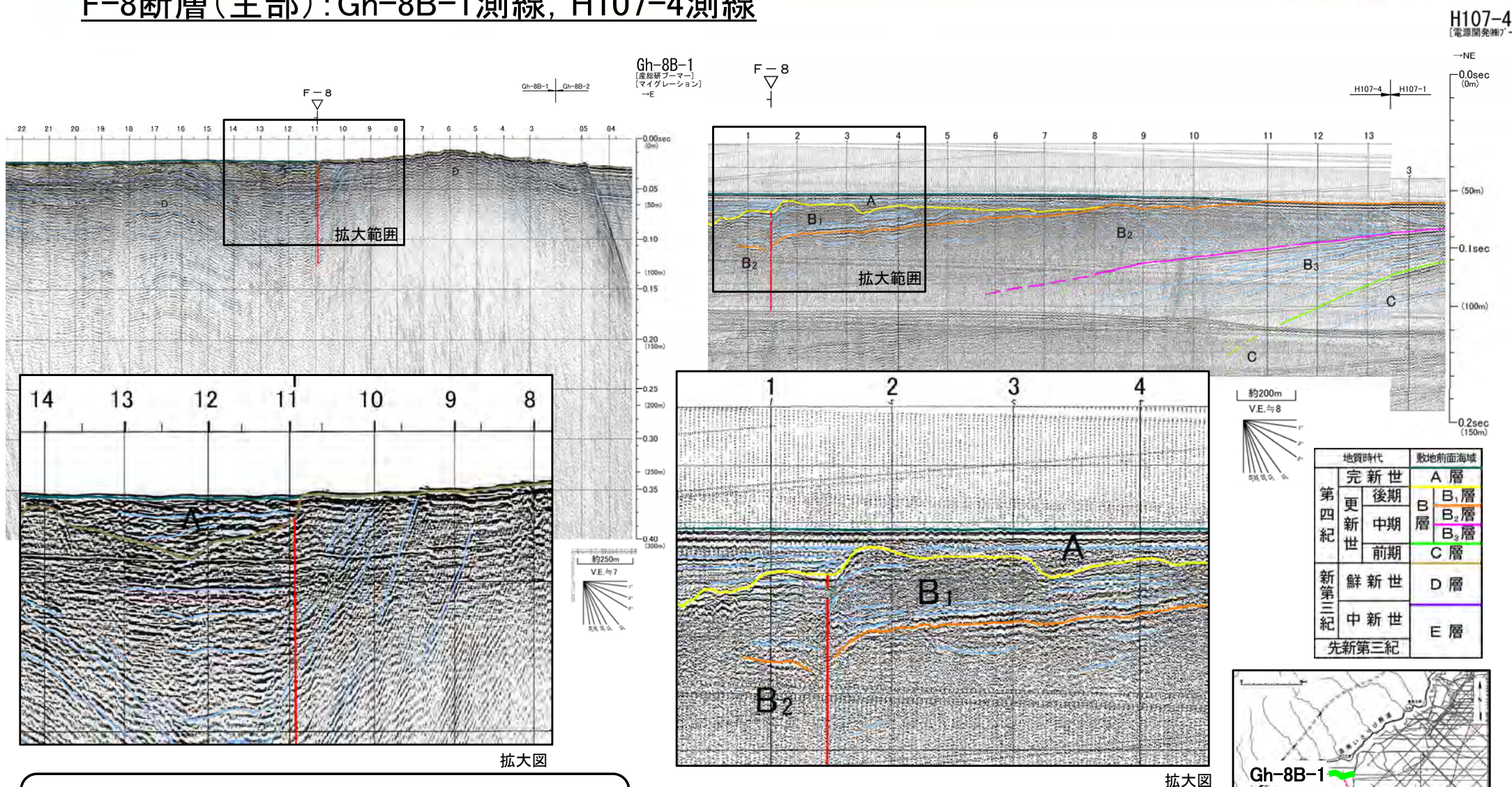
- F-8断層の長さは、上部更新統以上に断層が認められない測線と、海岸線との間の約7.7kmとする。
- F-8断層の評価長さは、陸域において今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>により活断層(亀川断層帯)が指摘されている部分を合わせた約11kmとする。\*

\* F-8断層の陸域延長の評価は、補足説明資料「6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価」(P.6-70~6-75)を参照。



# 6.1 個別の断層評価(16/61)

## F-8断層(主部): Gh-8B-1測線, H107-4測線

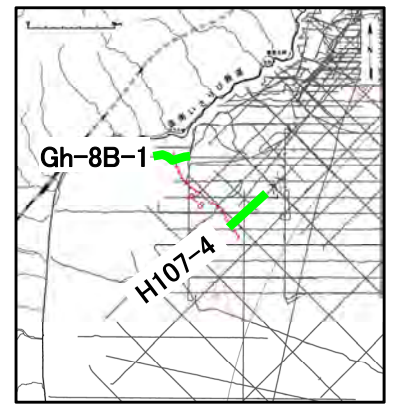


- Gh-8B-1測線において、F-8断層による変位がD層に認められるが、上載層はA層のみである。
- H107-4測線において、本断層による変位がB<sub>2</sub>層からB<sub>1</sub>層下部まで、変形がB<sub>1</sub>層上部まで認められる。
- 断層運動は後期更新世以降に及ぶものと評価する。

解析結果による当該断層位置及び落下側 ( ) は他の断層  

 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

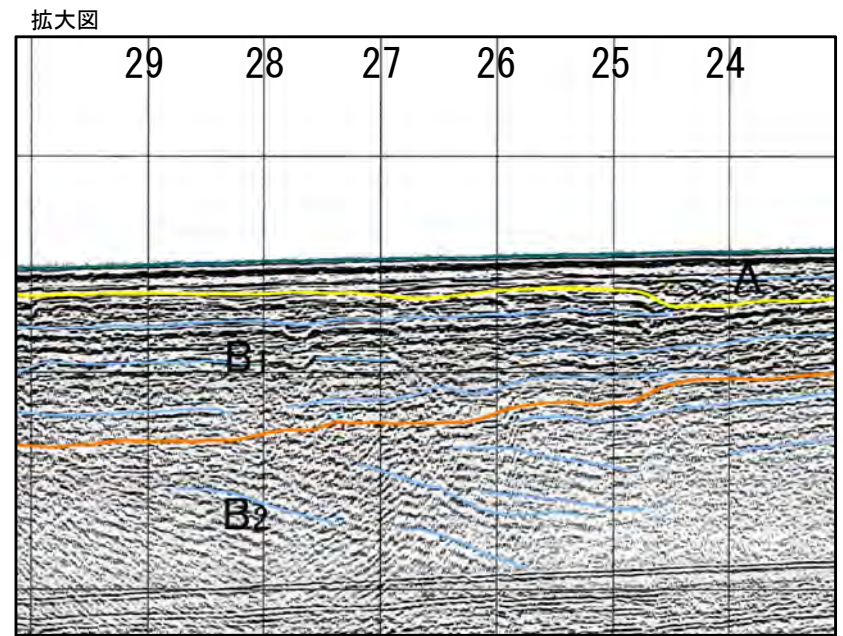
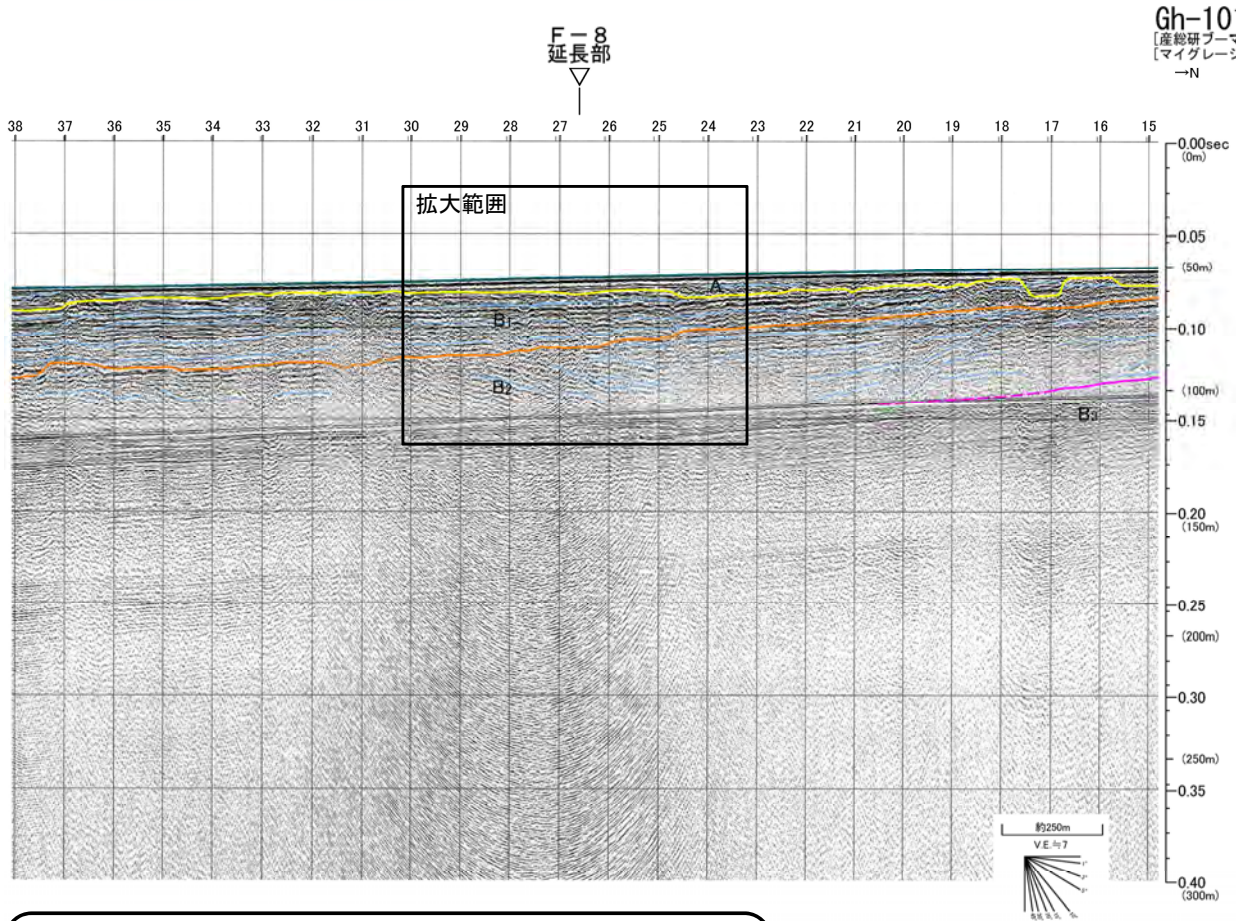
深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。





# 6.1 個別の断層評価(17/61)

## F-8断層(南方延長部): Gh-101B-4測線

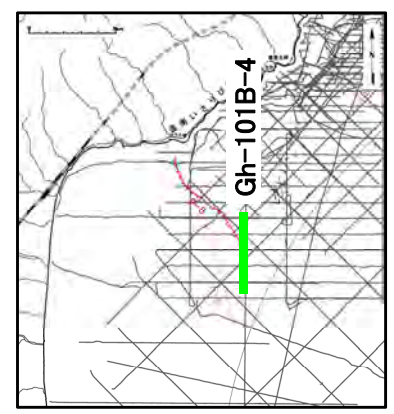


深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- F-8断層南方延長部には、B<sub>2</sub>層からB<sub>1</sub>層及び海底面に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。
- なお、F-8断層北方延長部は音波探査測線がないため、海域における北端はサラキ岬付近の海岸線とする。

▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( ) は他の断層の延長位置

地質時代	敷地前面海域
第四紀	完新世 A層
	後期 B <sub>1</sub> 層
	中期 B <sub>2</sub> 層
	前期 C層
新第三紀	鮮新世 D層
	中新世 E層
先新第三紀	





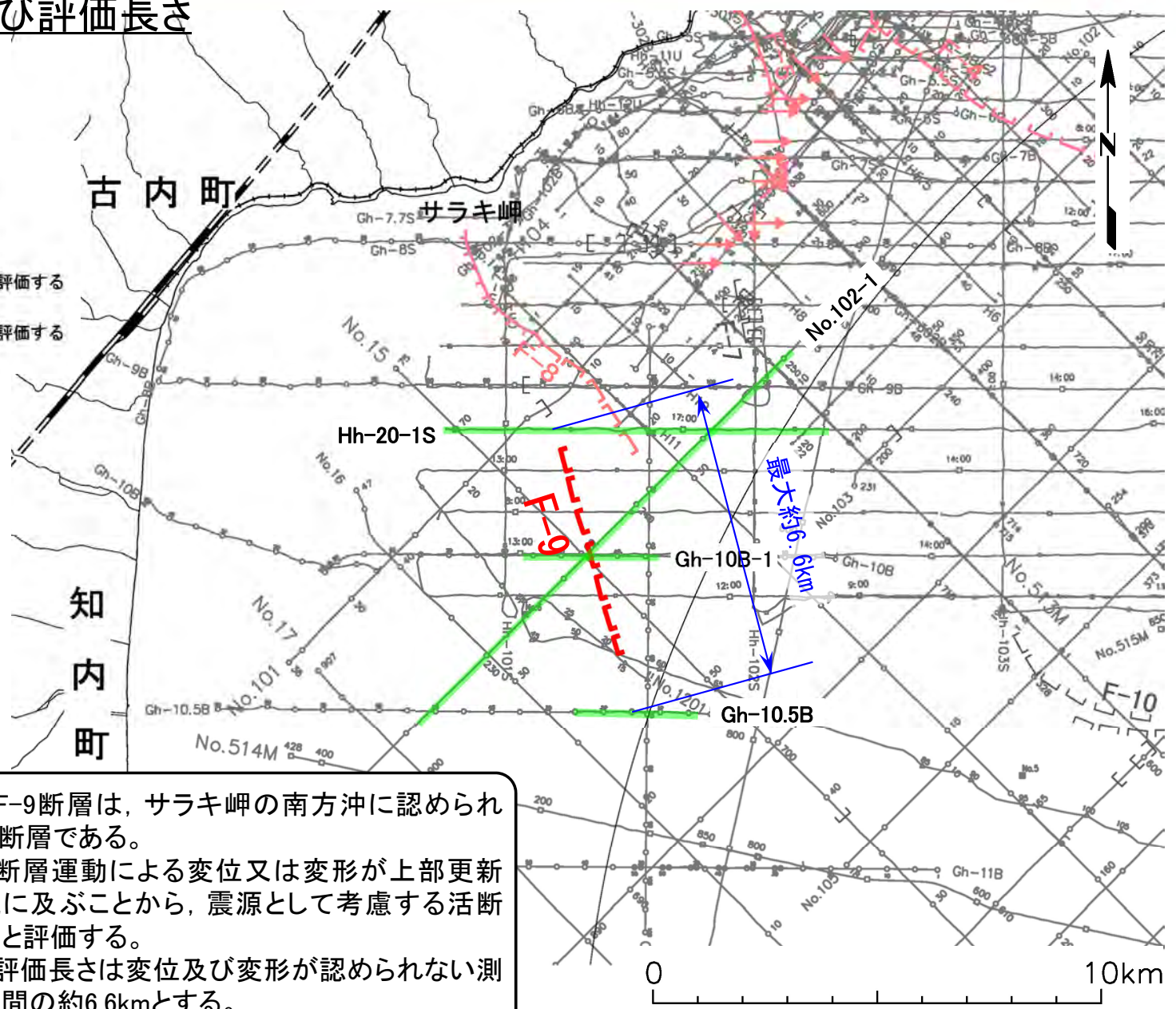
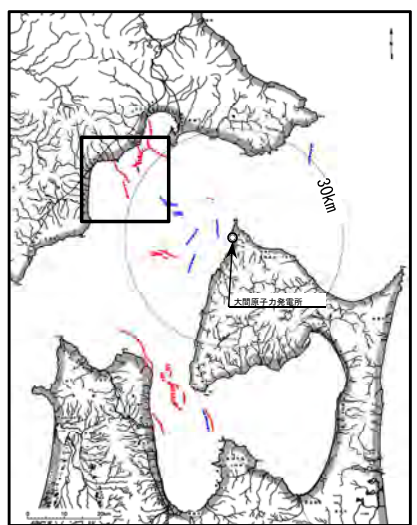
# 6.1 個別の断層評価(18/61)



## F-9断層: 断層位置及び評価長さ

- 解析断層
- F-7 (U) 断層 (伏在断層) 及び断層番号
  - (U) 断層 } 連続性のない断層
  - (U) 伏在断層
  - (F-7) 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層 (伏在断層) 及び断層番号
  - (→) 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する拠曲

音波探査記録の添付範囲

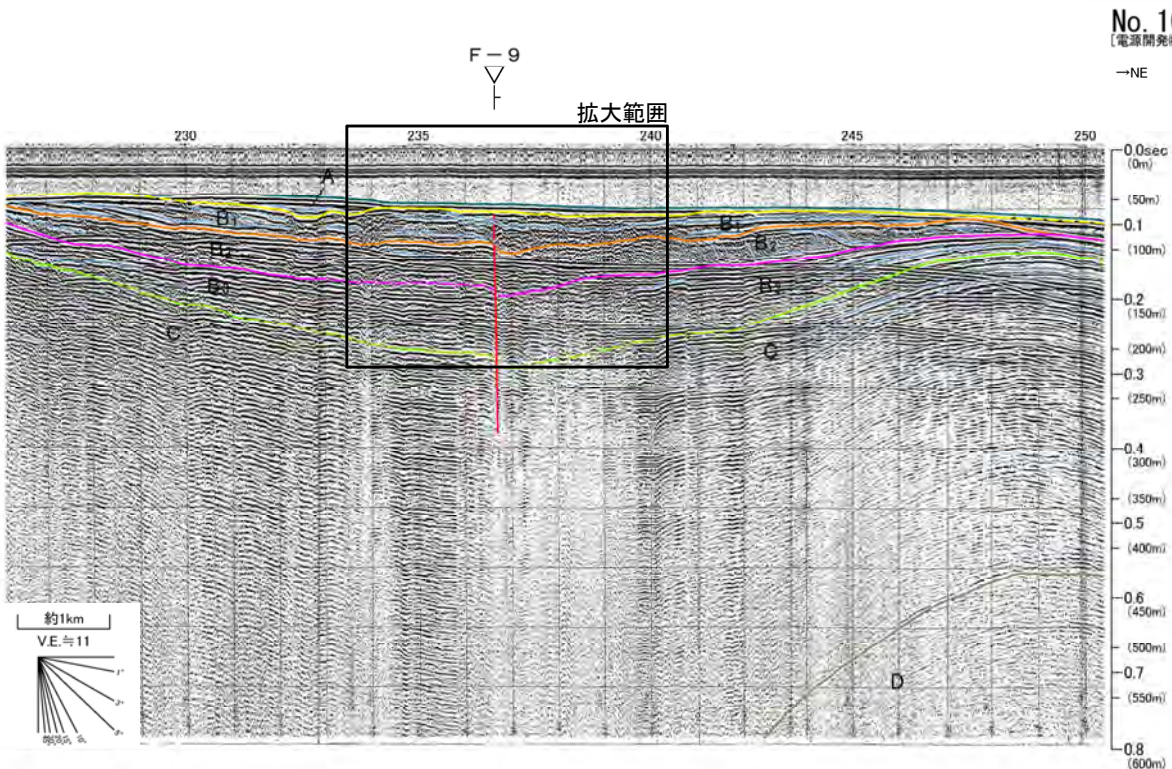


- F-9断層は、サラキ岬の南方沖に認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形が上部更新統に及ぶことから、震源として考慮する活断層と評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約6.6kmとする。

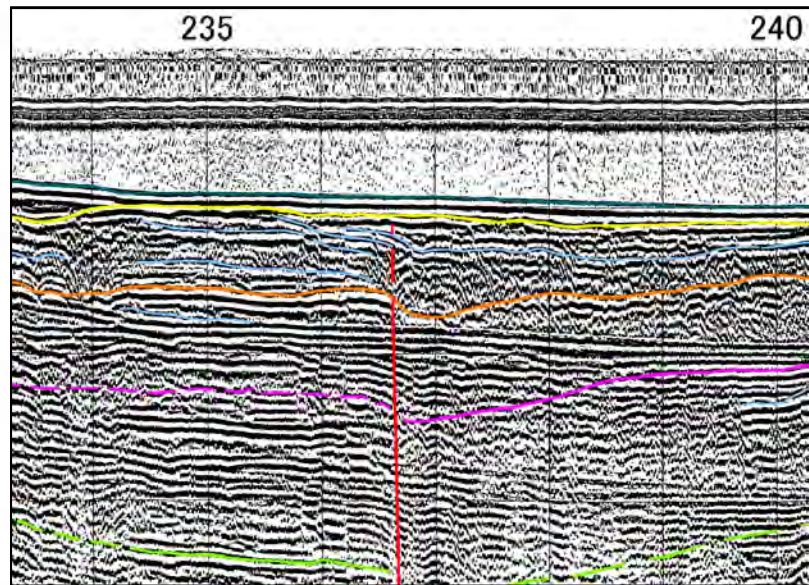


# 6.1 個別の断層評価(19/61)

## F-9断層(主部): No.102-1測線



No. 102-1  
[電源開発株式会社]  
→NE



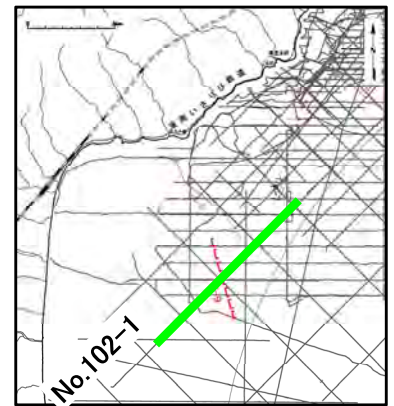
拡大図

解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- No.102-1測線において、断層による変位がC層からB<sub>2</sub>層上部まで、変形がB<sub>2</sub>層上部からB<sub>1</sub>層中部まで認められる。
- 断層運動は後期更新世以降に及ぶものと評価する。

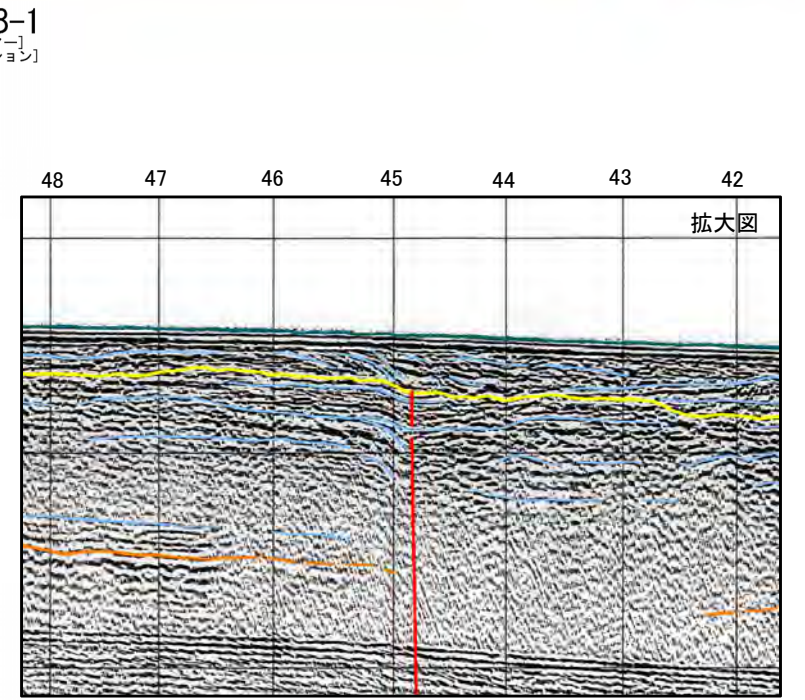
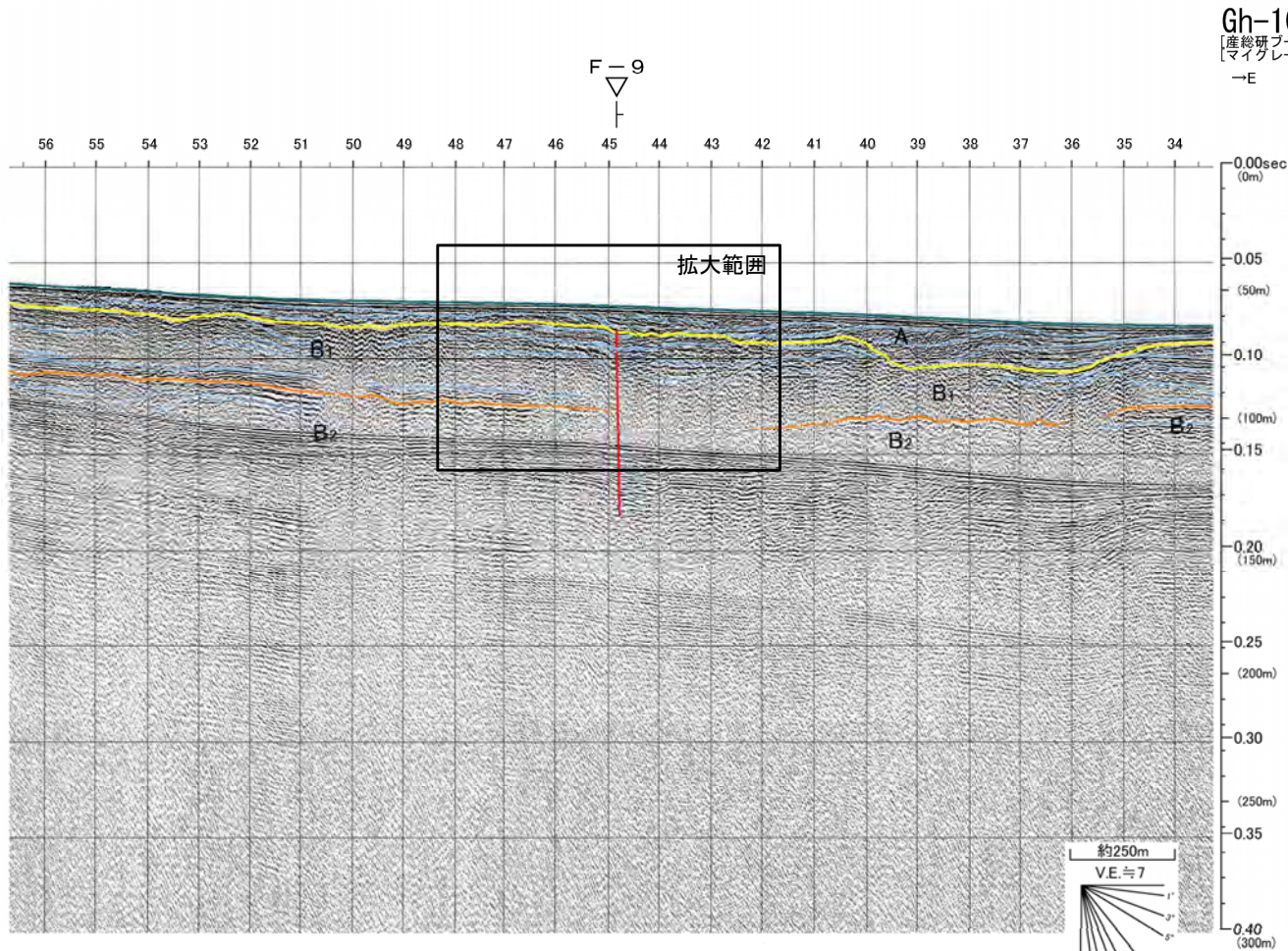
地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		E層	
先新第三紀			





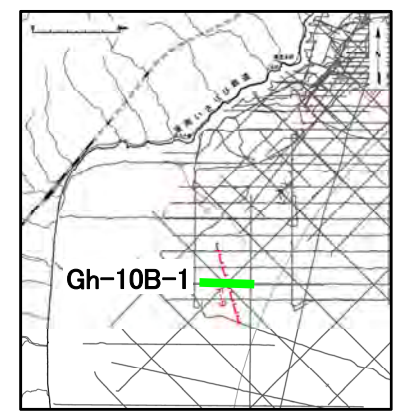
# 6.1 個別の断層評価(20/61)

## F-9断層(主部): Gh-10B-1測線



深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	C層
新第三紀	鮮新世	D層	
	中新世		
			E層
先新第三紀			



解析結果による当該断層位置及び落下側  
 ( )は他の断層

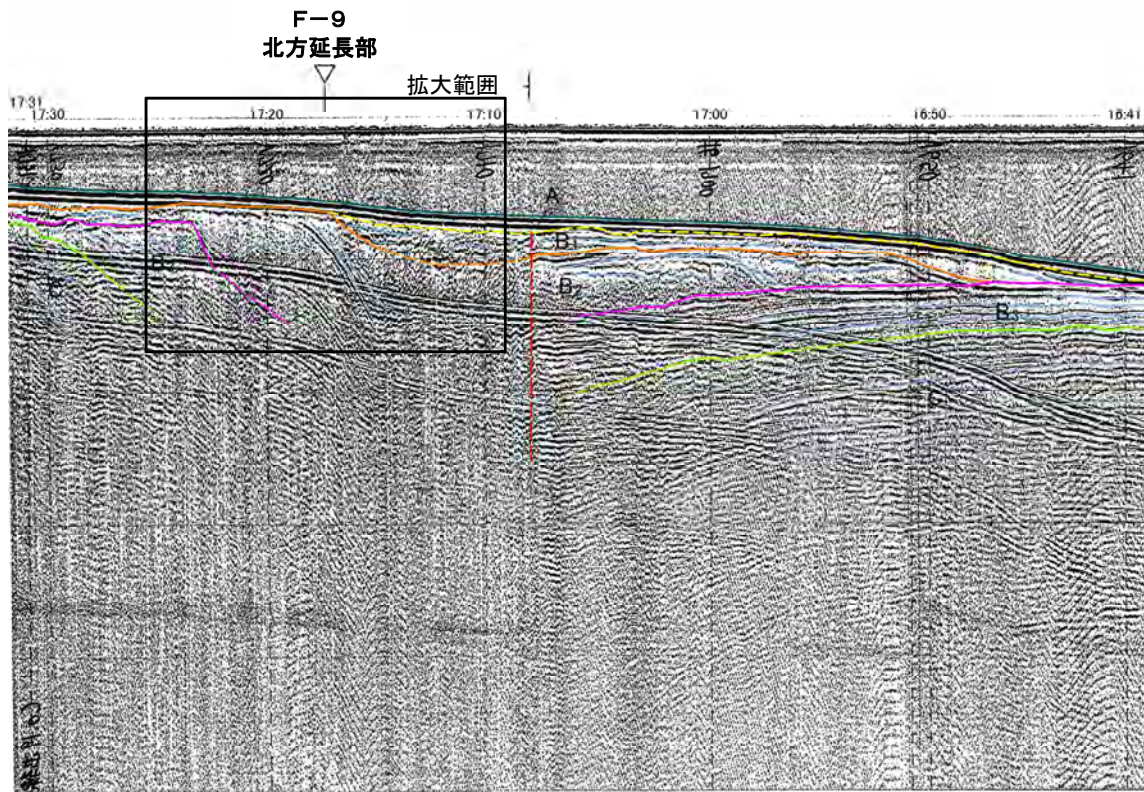
上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

- Gh-10B-1測線において、F-9断層による変位がB<sub>2</sub>層からB<sub>1</sub>層下部まで、変形がB<sub>1</sub>層上部まで認められ、A層基底面に変形が及んでいる可能性がある。
- 断層運動は後期更新世以降に及ぶものと評価する。

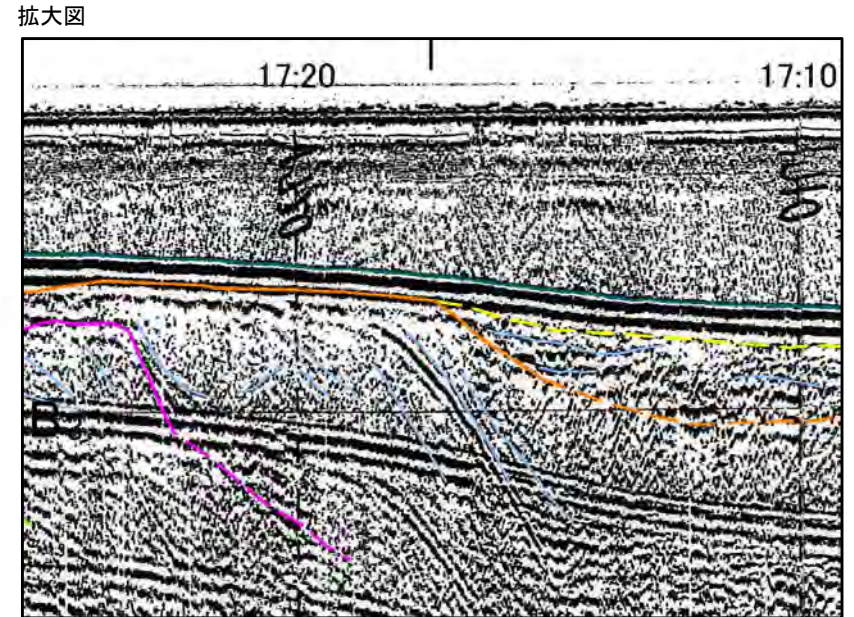


# 6.1 個別の断層評価(21/61)

## F-9断層(北方延長部): Hh-20-1S測線



Hh-20-1S  
[海上保安庁/ハ-カ]



• F-9断層北方延長部には, B<sub>2</sub>層からB<sub>1</sub>層及び海底面に少なくともF-9断層と性状を同じくする変位・変形は認められない。

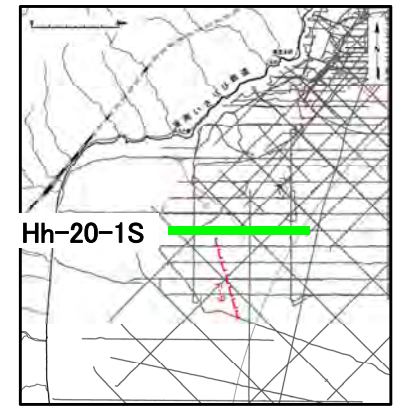
▽ ( | ) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層

▽ ( || ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( ) は他の断層の延長位置

|| ( | ) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
		B <sub>2</sub> 層
	中期	B <sub>3</sub> 層
前期	C層	
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		

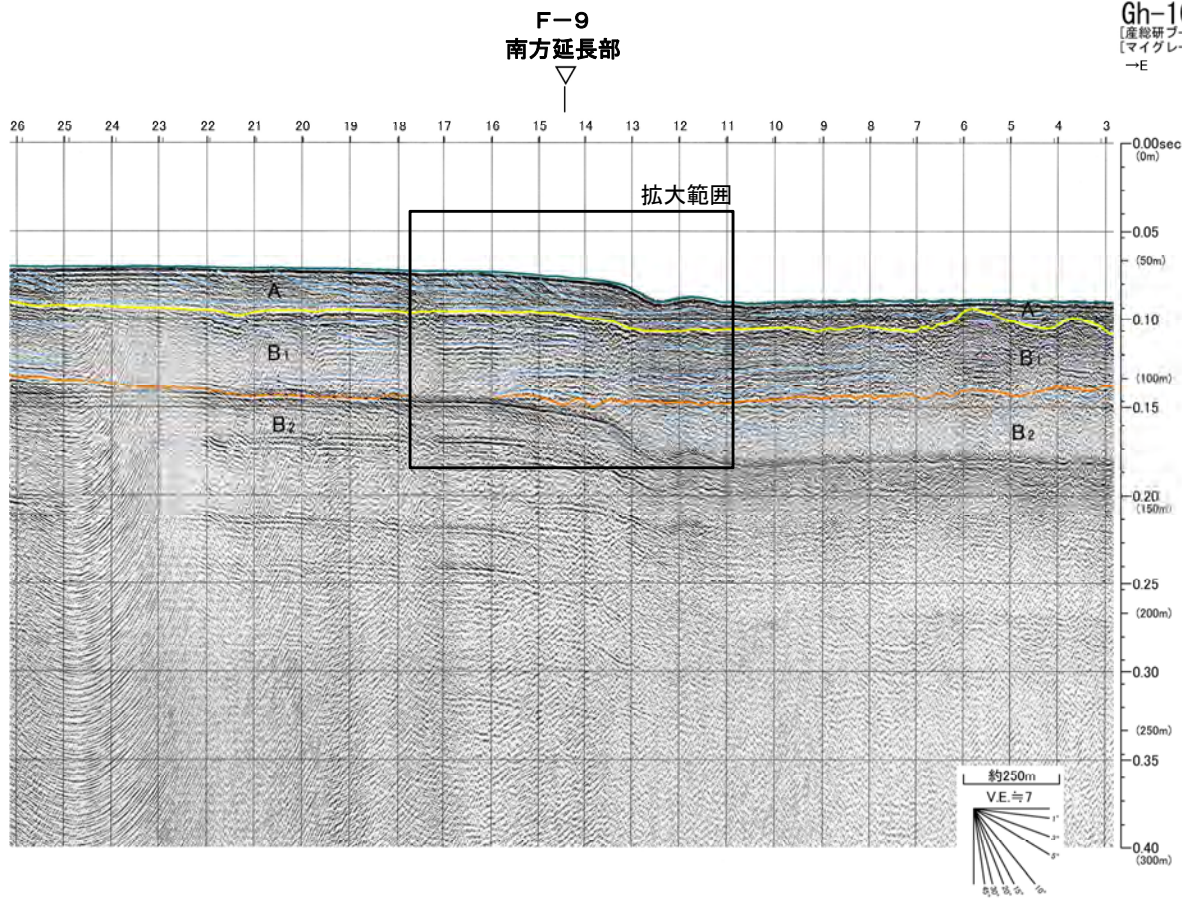




# 6.1 個別の断層評価(22/61)

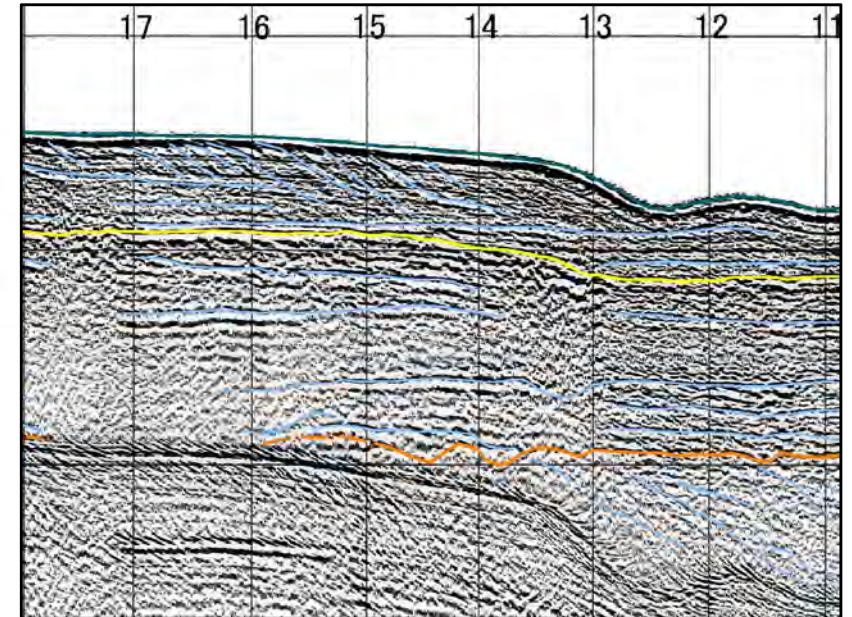


## F-9断層(南方延長部): Gh-10.5B



Gh-10.5B  
[産総研ブローマ]  
[マイグレーション]  
→E

拡大図



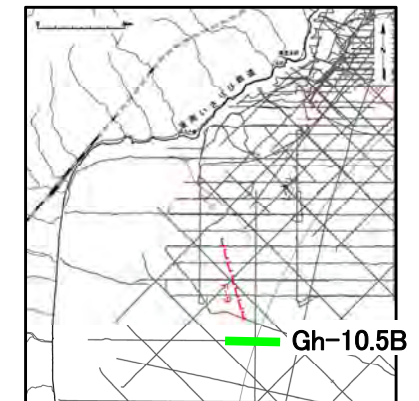
深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- 南方延長部においても、B<sub>2</sub>層からB<sub>1</sub>層及び海底面に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。

▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( ) は他の断層の延長位置

|| ( ) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	C層
新第三紀	鮮新世	D層	
	中新世	E層	
	先新第三紀		

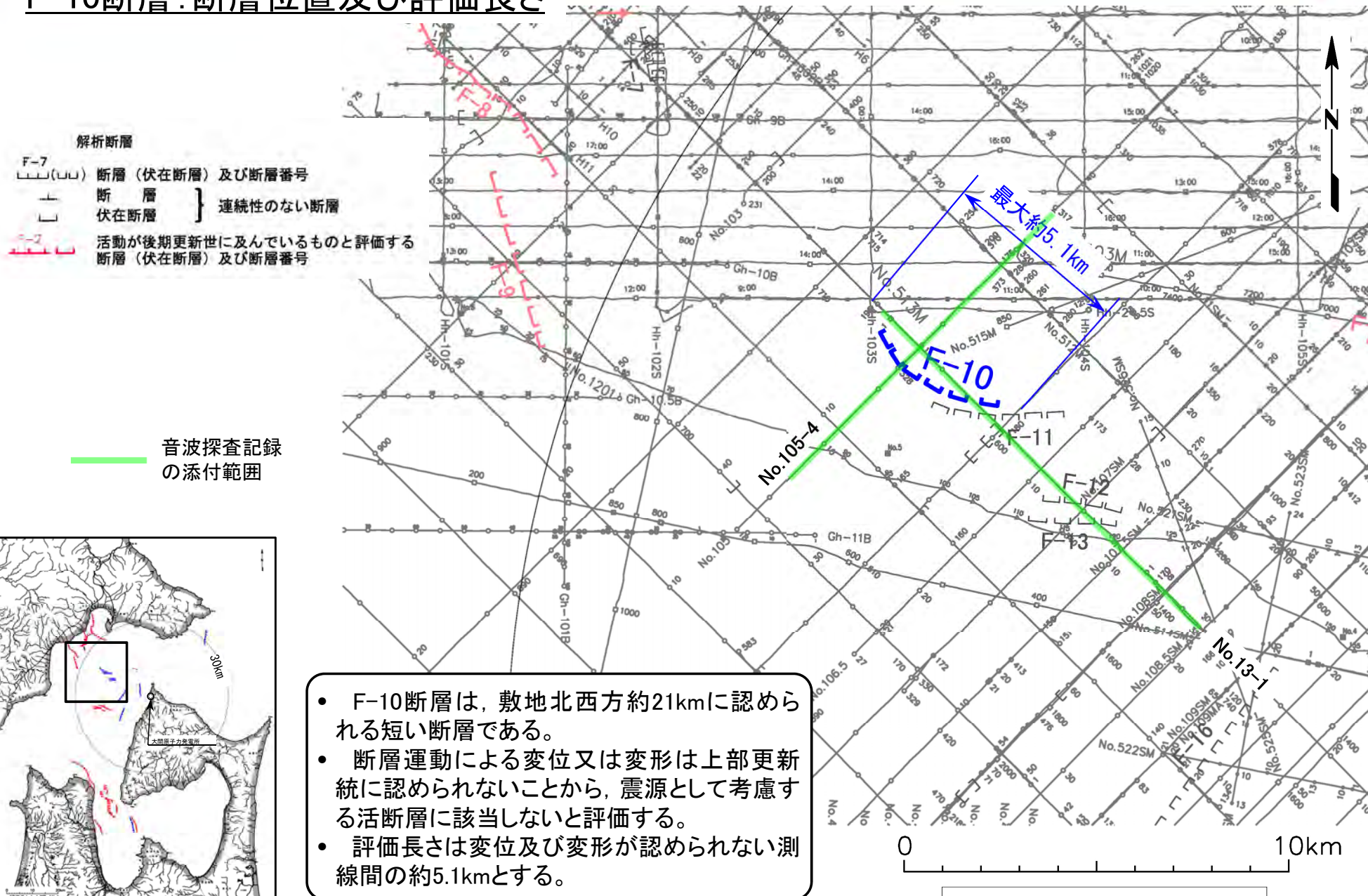




# 6.1 個別の断層評価(23/61)



## F-10断層:断層位置及び評価長さ



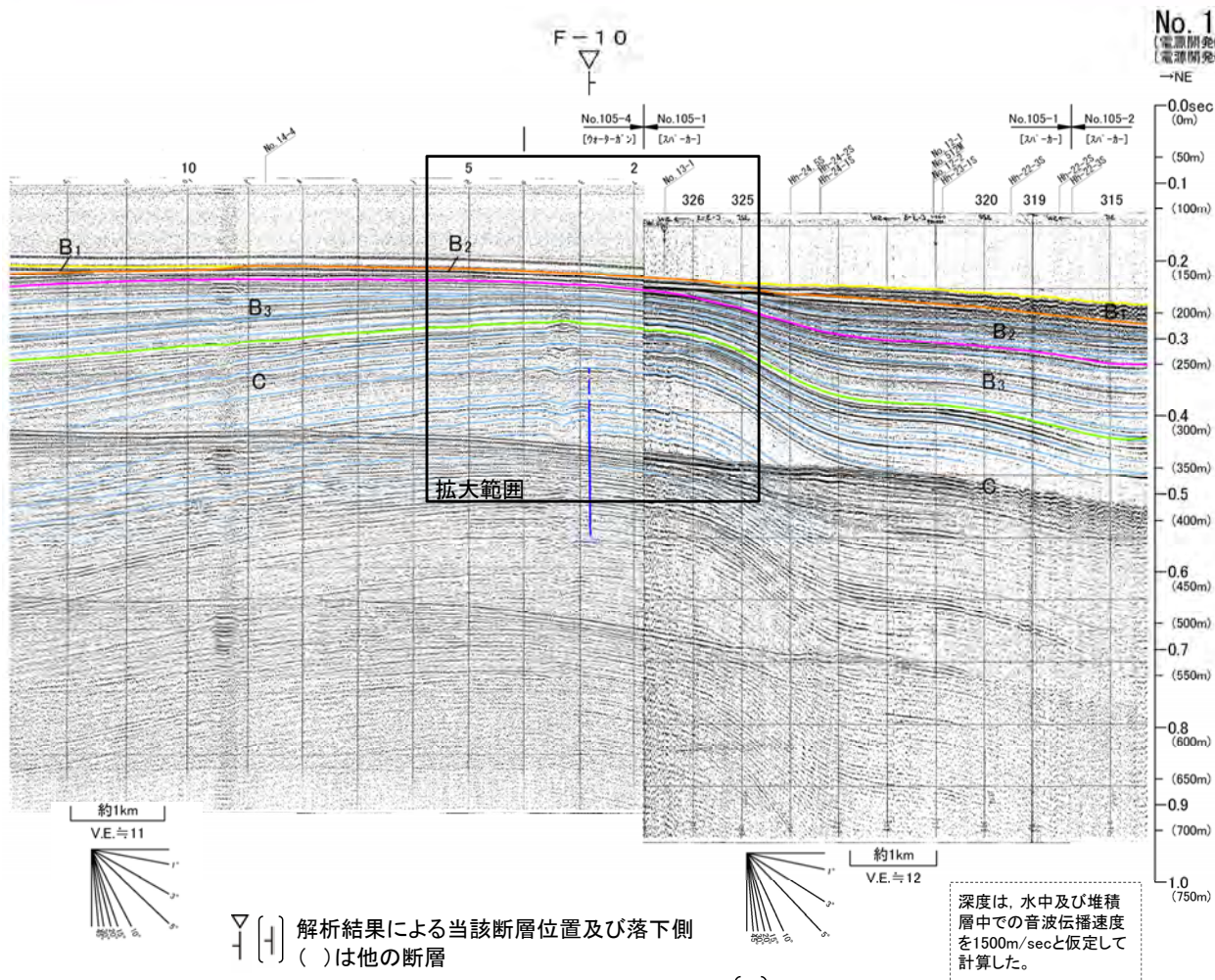
- F-10断層は、敷地北西方約21kmに認められる短い断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約5.1kmとする。

審査資料の再チェックを行い、「F-10断層の断層長の誤り(約6.1kmを約5.1kmに修正)」を修正した。



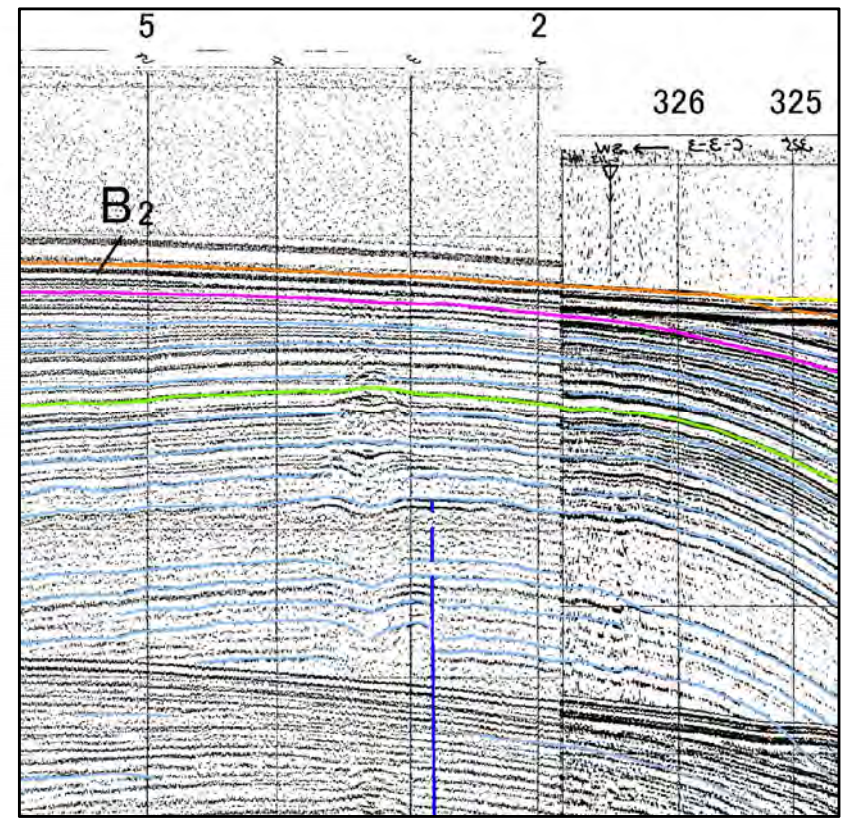
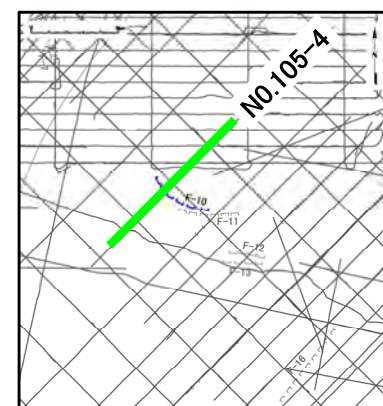
# 6.1 個別の断層評価(24/61)

## F-10断層(主部):No.105-4測線



No. 105-4  
[電源開発株式会社]  
[電源開発株式会社]  
→NE

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	更新世 後期	B <sub>1</sub> 層
	更新世 中期	B <sub>2</sub> 層
	更新世 前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		



拡大図

解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置  
 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

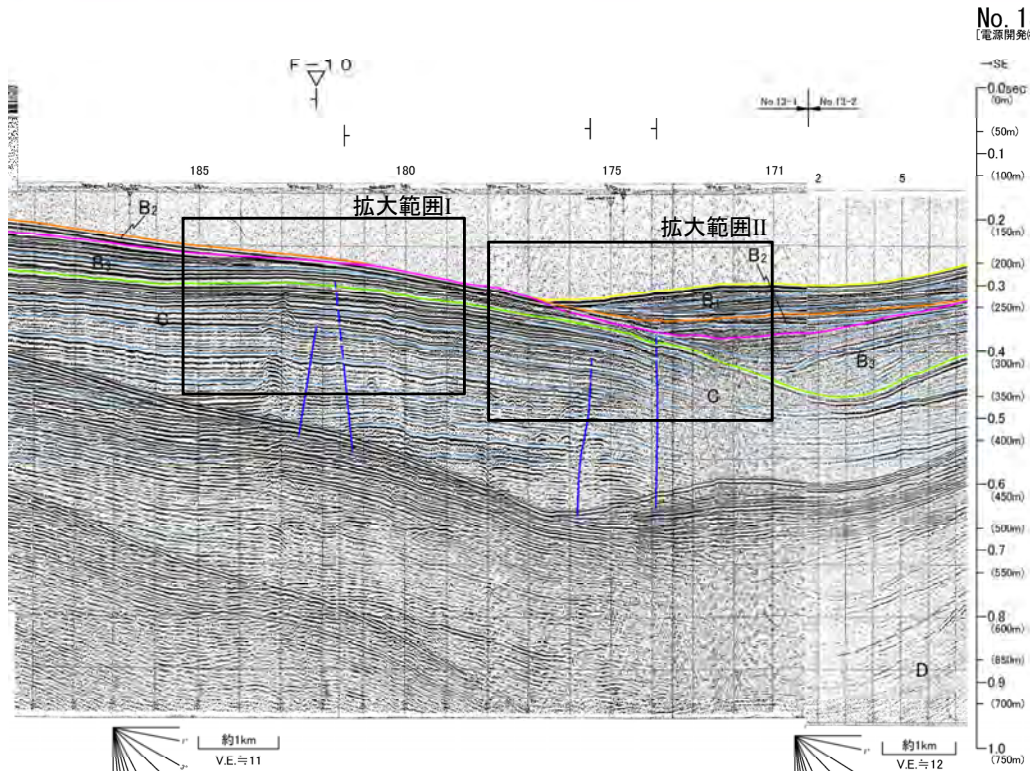
- No.105-4測線において、F-10断層による変位がC層下部に、変形がC層中部まで認められるが、C層上部以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

審査資料の再チェックを行い、「F-10断層に関するキャプションの誤り(「B<sub>3</sub>層以上に」を「C層上部以上に」に修正)」を修正した。



# 6.1 個別の断層評価(25/61)

## F-10断層(主部):No.13-1測線



- No.13-1測線において、F-10断層による変位がC層下部に認められるが、B<sub>3</sub>層以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

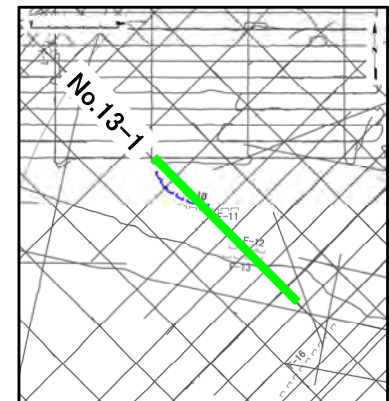
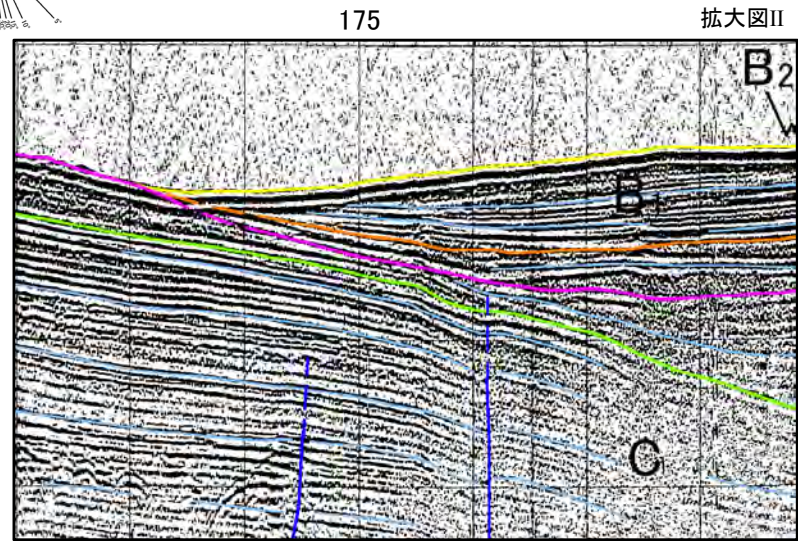
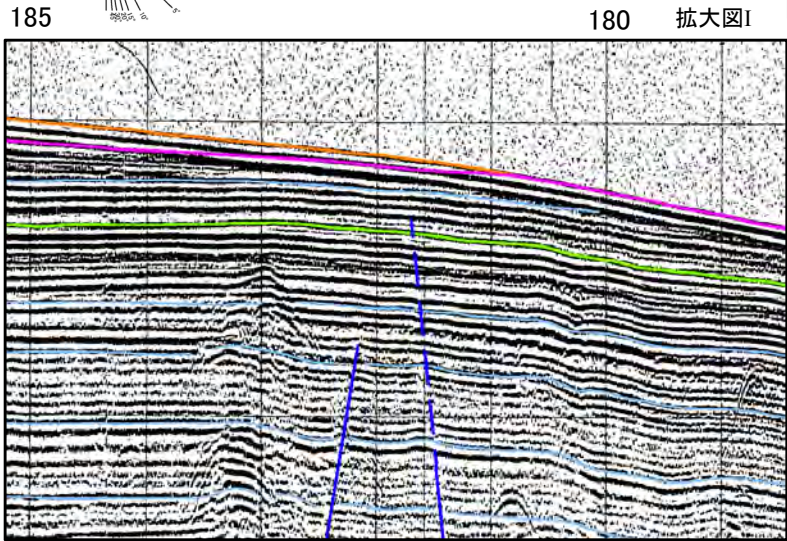
▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( )は他の断層

▽ (I) 解析結果による当該断層の延長位置  
( )は他の断層の延長位置

|| ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での首波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		先新第三紀	E層





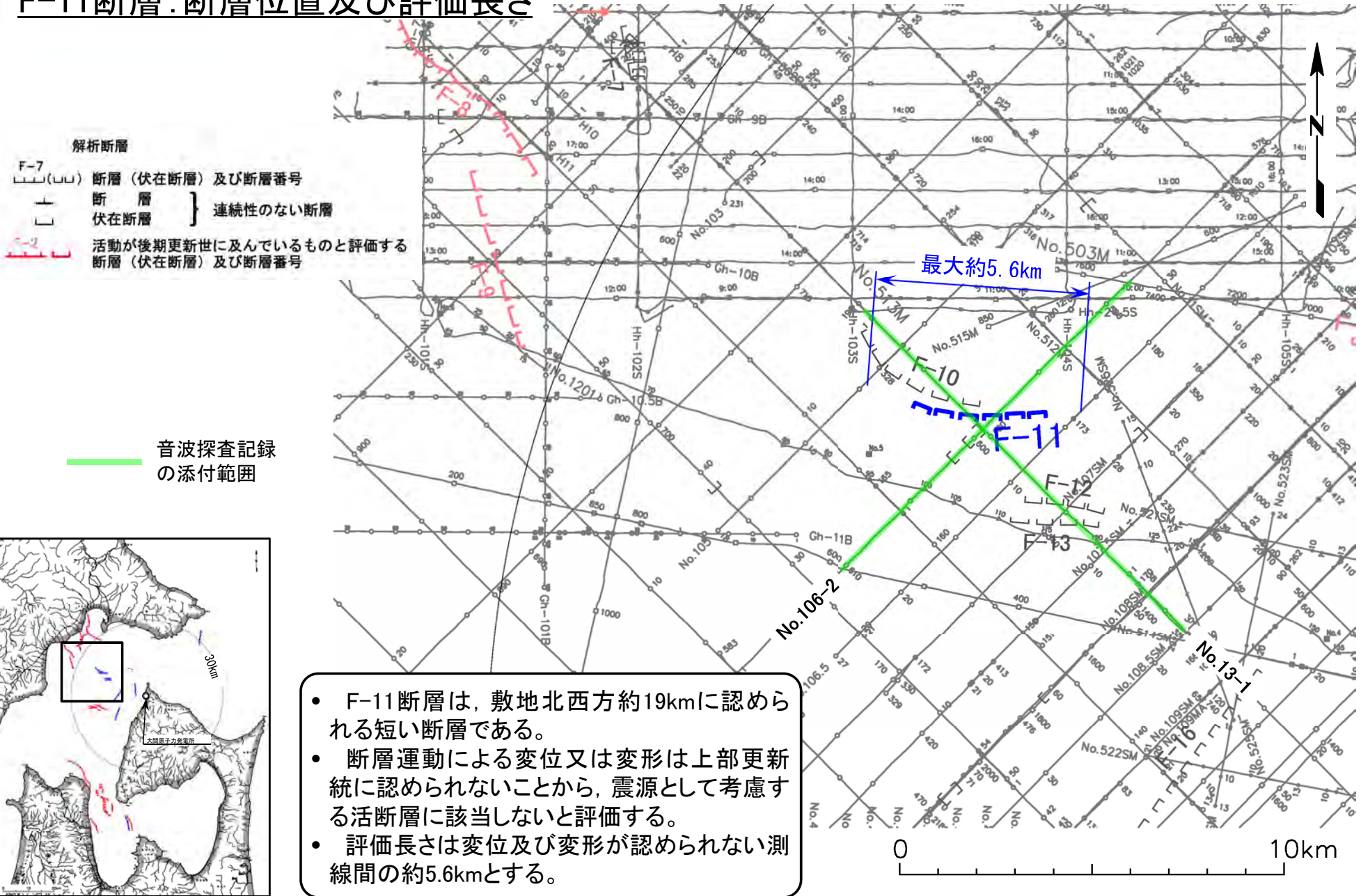
(余白)



# 6.1 個別の断層評価(26/61)



## F-11断層: 断層位置及び評価長さ



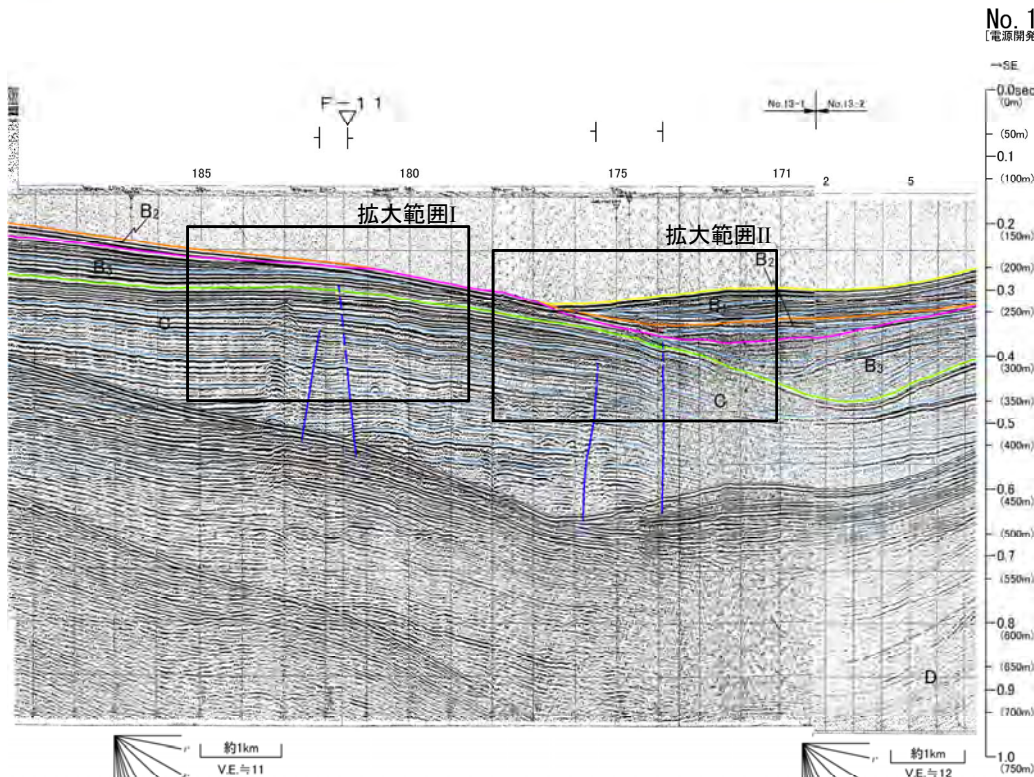
- F-11断層は、敷地北西方約19kmに認められる短い断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約5.6kmとする。



# 6.1 個別の断層評価(27/61)



## F-11断層(主部): No.13-1測線



No.13-1  
[電源開発株式会社]

- No.13-1測線において、F-11断層による変位がC層下部に、変形がC層上部からB<sub>3</sub>層下部まで認められるが、B<sub>3</sub>層上部以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

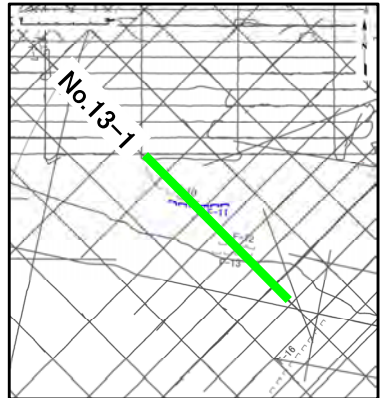
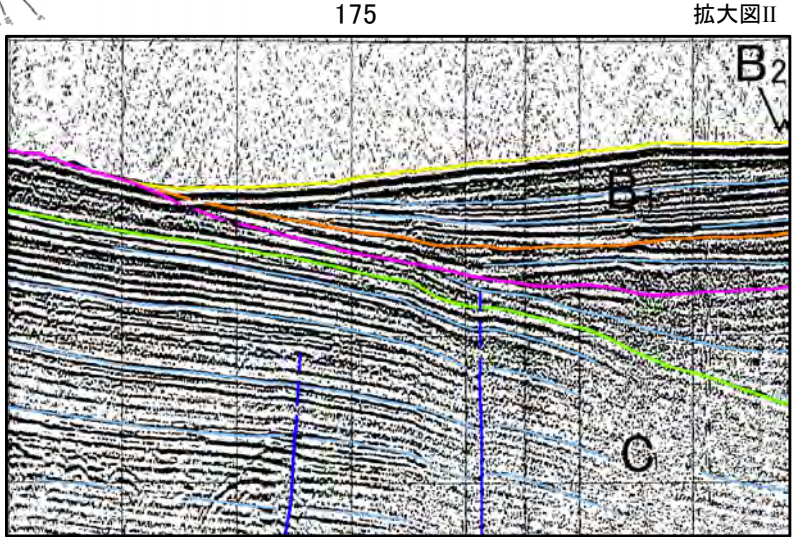
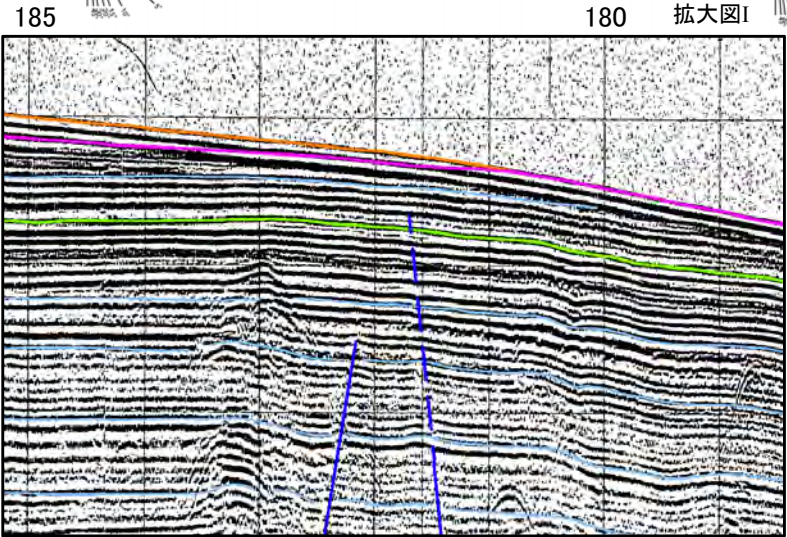
▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( )は他の断層

▽ (II) 解析結果による当該断層の延長位置  
( )は他の断層の延長位置

||| 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層	
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
先新第三紀		E層	

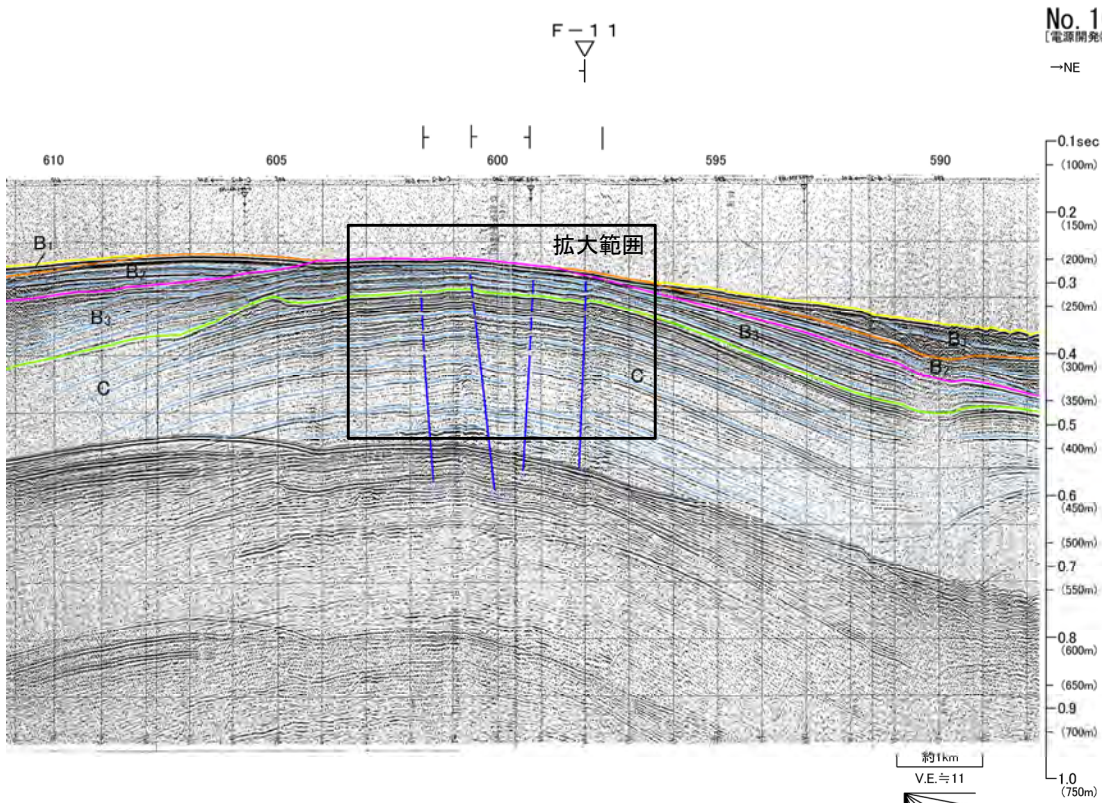


審査資料の再チェックを行い、「F-11断層に関するキャプションの誤り(B<sub>2</sub>層以上に)をB<sub>3</sub>層上部以上に」に修正した。

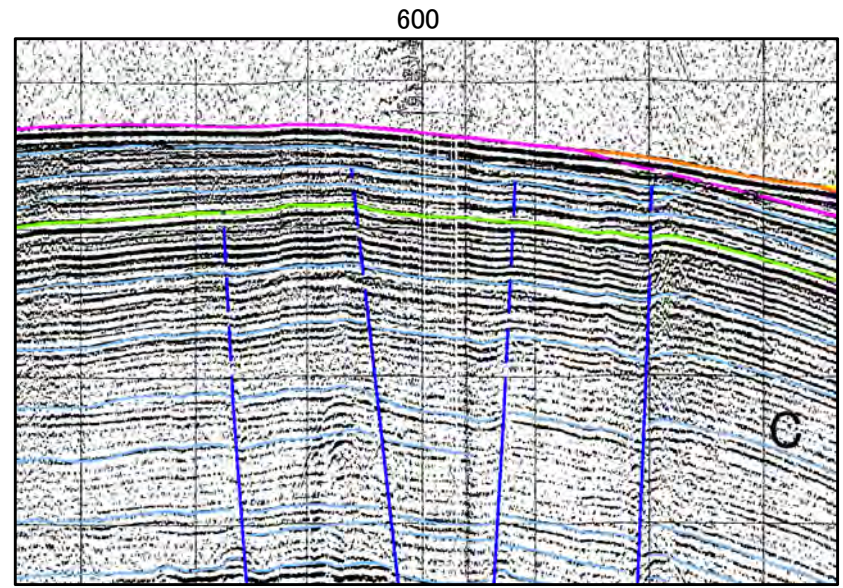


# 6.1 個別の断層評価(28/61)

## F-11断層(主部): No.106-2測線



No. 106-2  
[電源開発株式会社]  
→NE



拡大図

▽ ( ) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層

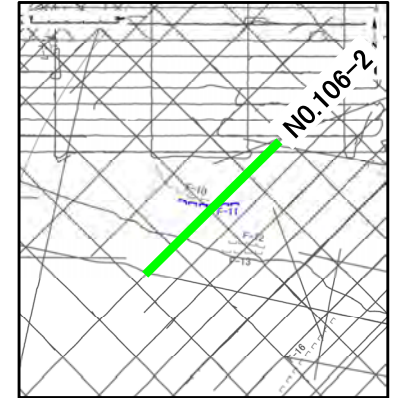
▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( ) は他の断層の延長位置

||| 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- No.106-2測線において、F-11断層による変位がC層下部に、変形がC層上部からB<sub>3</sub>層まで認められるが、B<sub>2</sub>層以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層
	中新世	D層
先新第三紀		E層





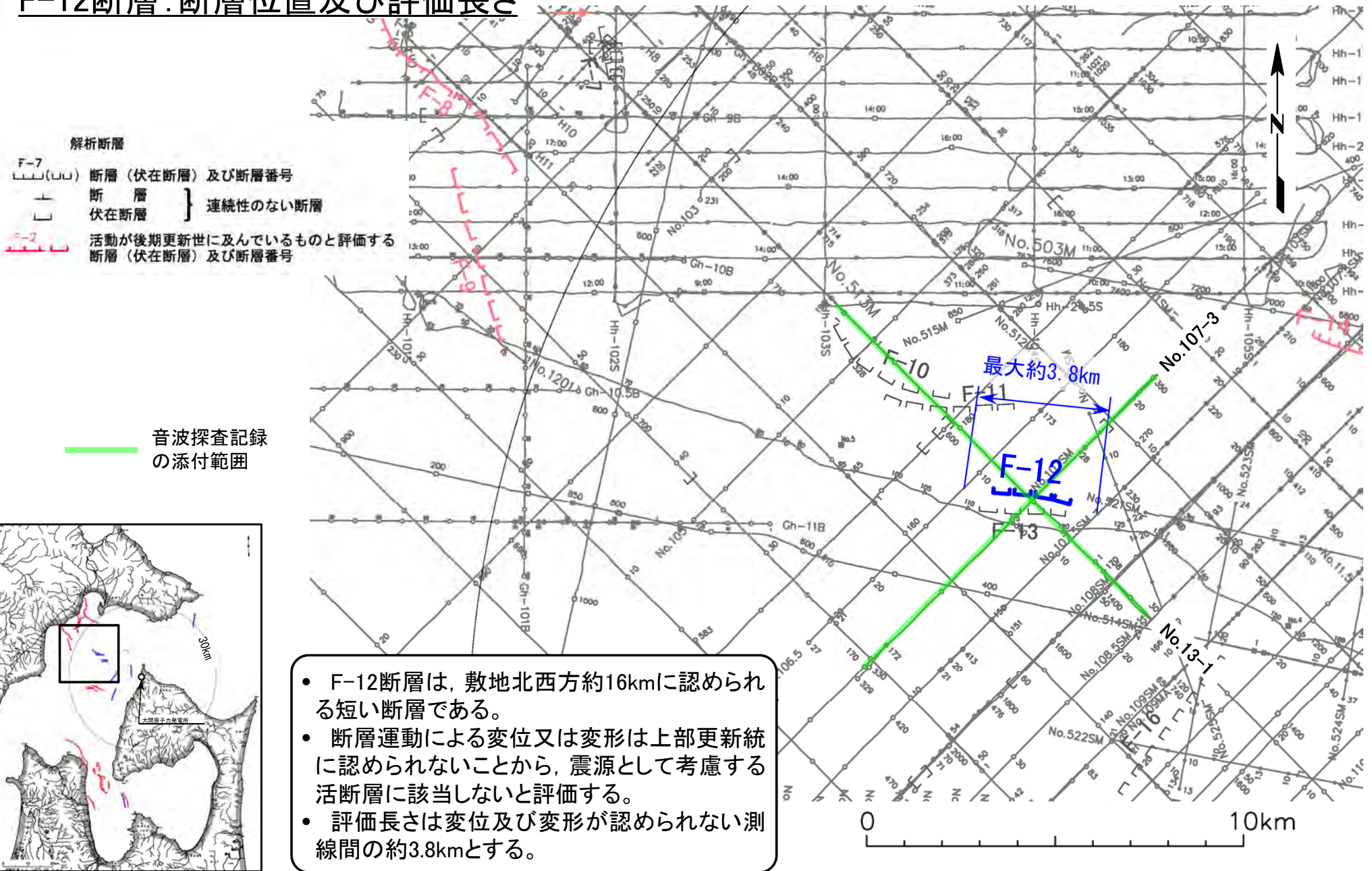
(余白)



# 6.1 個別の断層評価(29/61)



## F-12断層: 断層位置及び評価長さ



- F-12断層は、敷地北西方約16kmに認められる短い断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約3.8kmとする。

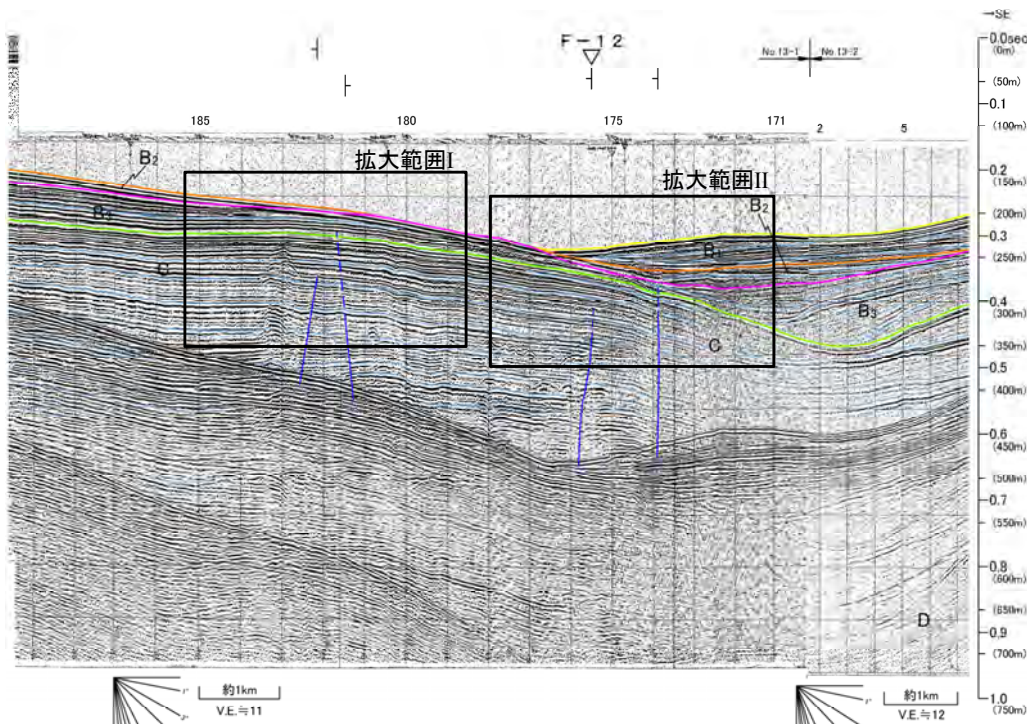


# 6.1 個別の断層評価(30/61)

## F-12断層(主部): No.13-1測線



No. 13-1  
[電源開発㈱パナカ]



- No.13-1測線において、F-12断層による変位がC層下部に、変形がC層中部に認められるが、C層上部以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

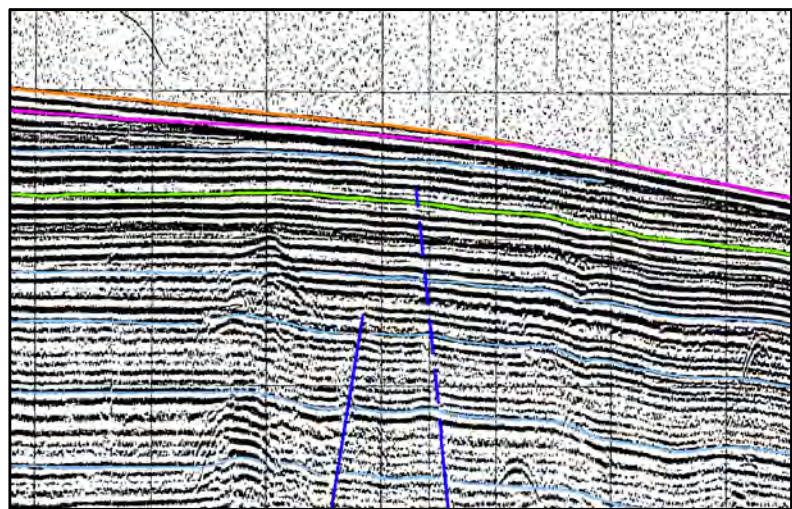
▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層

||| 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

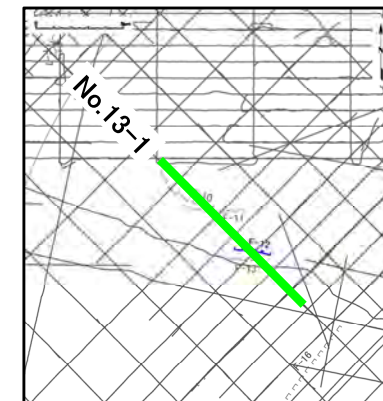
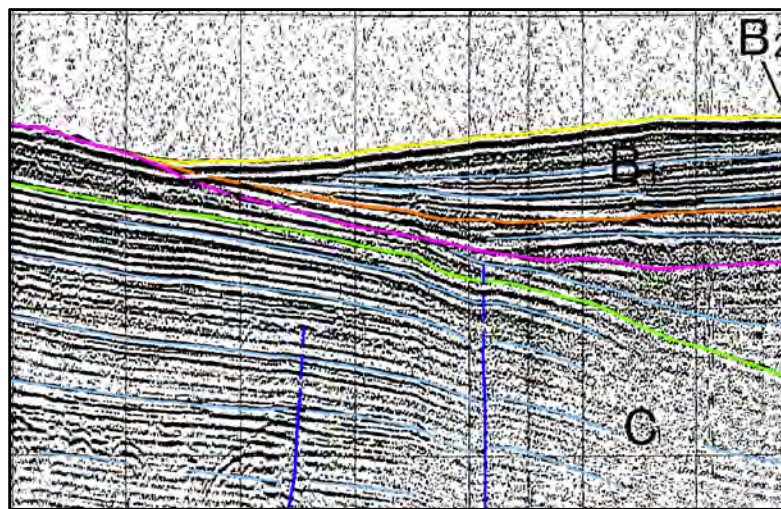
深度は、水中及び堆積層中での首波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
第三紀	鮮新世	C層	
新第三紀	中新世	D層	
	先新第三紀	E層	

185 180 拡大図I



175 拡大図II

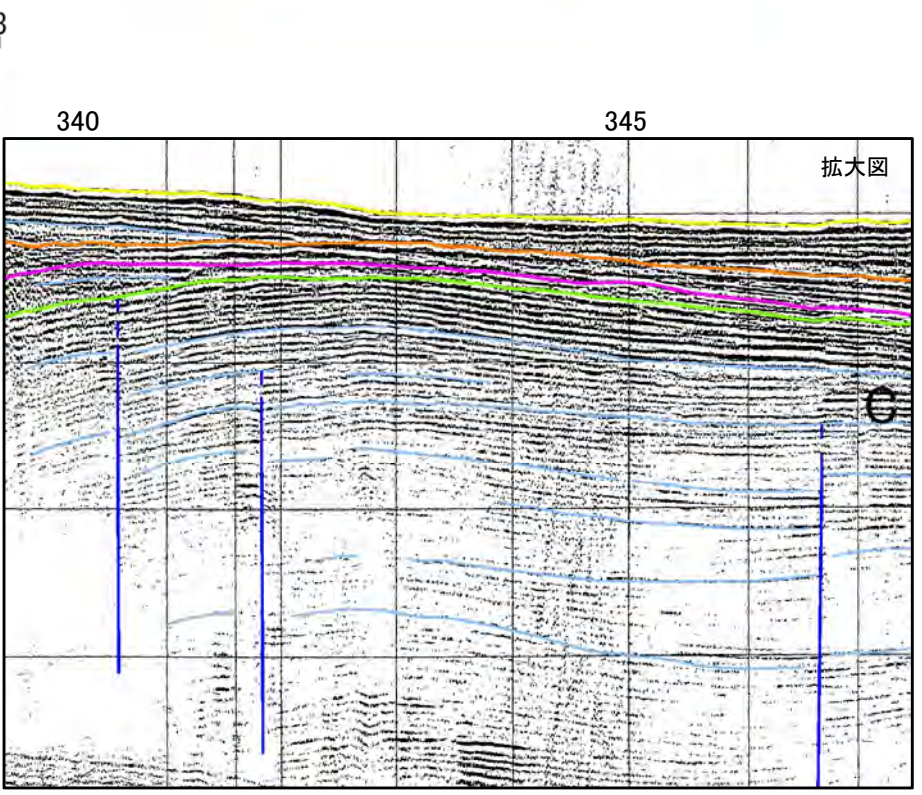
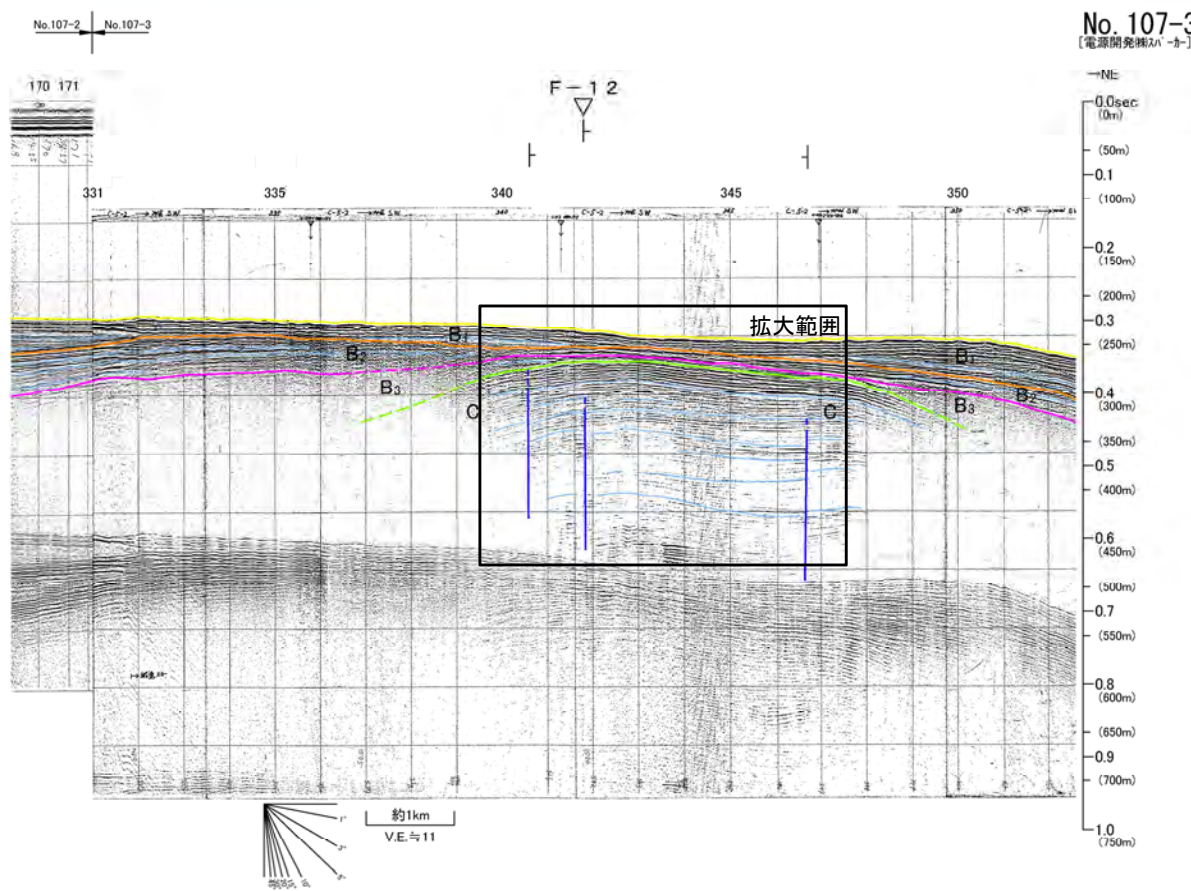


審査資料の再チェックを行い、「F-12断層に関するキャプションの誤り(「変形がC層上部に認められるが、B<sub>3</sub>層以上に変位・変形は」を「変形がC層中部に認められるが、C層上部以上に変位・変形は」に修正)」を修正した。



# 6.1 個別の断層評価(31/61)

## F-12断層(主部): No.107-3測線



深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

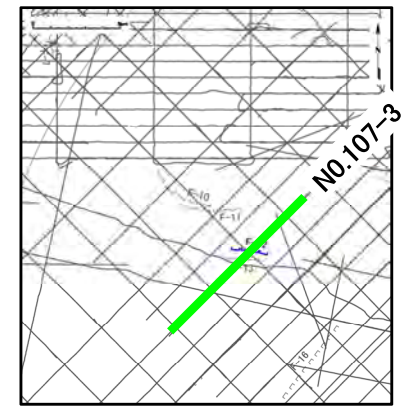
解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層

上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

- No.107-3測線において、F-12断層による変位がC層下部に、変形がC層中部に認められるが、C層上部以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

審査資料の再チェックを行い、「F-12断層に関するキャプションの誤り(「変形がC層上部に認められるが、B<sub>3</sub>層以上に変位・変形は」を「変形がC層中部に認められるが、C層上部以上に変位・変形は」に修正)」を修正した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
			E層
先新第三紀			



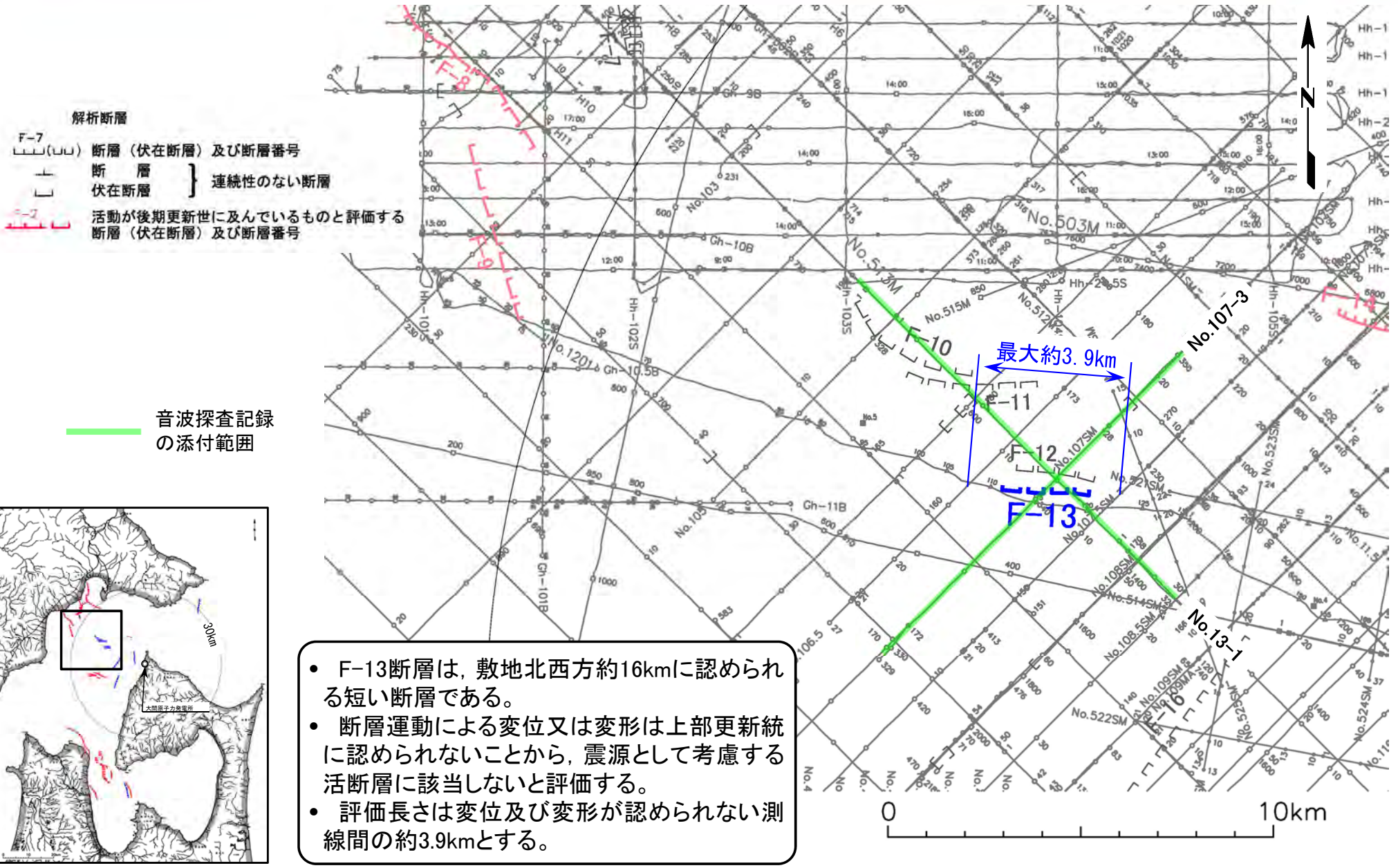


(余白)



# 6.1 個別の断層評価(32/61)

## F-13断層:断層位置及び評価長さ

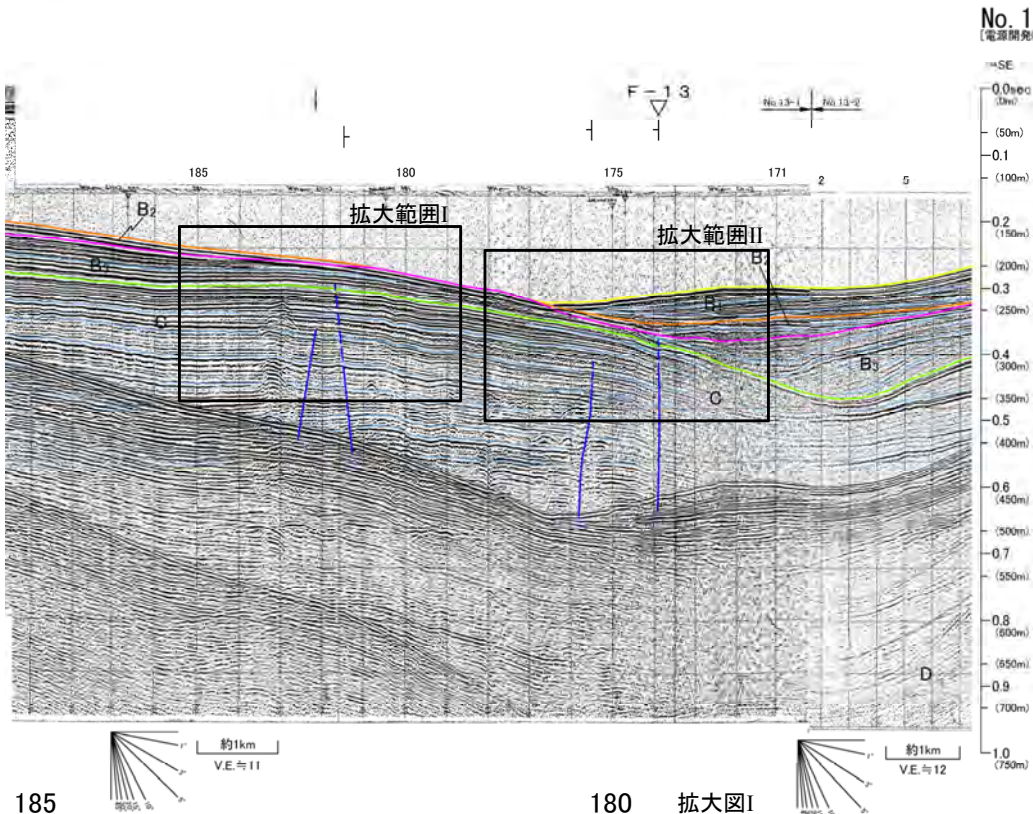


- F-13断層は、敷地北西方約16kmに認められる短い断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約3.9kmとする。



# 6.1 個別の断層評価(33/61)

## F-13断層(主部): No.13-1測線

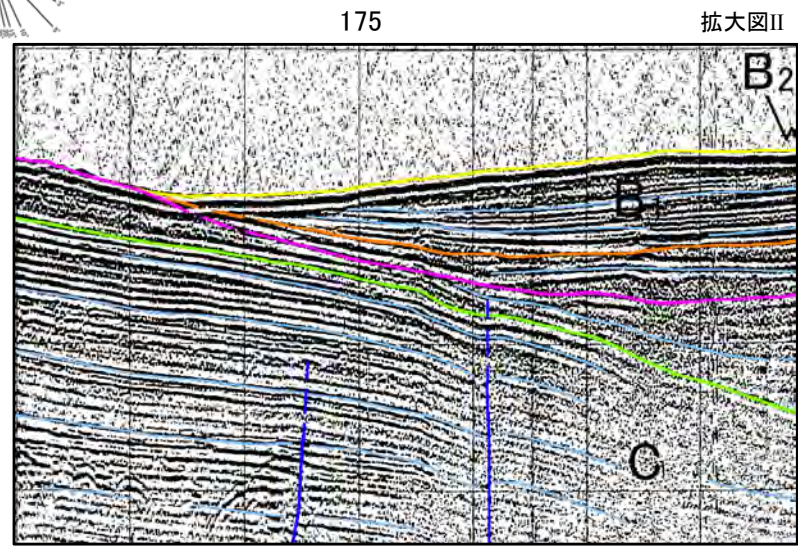
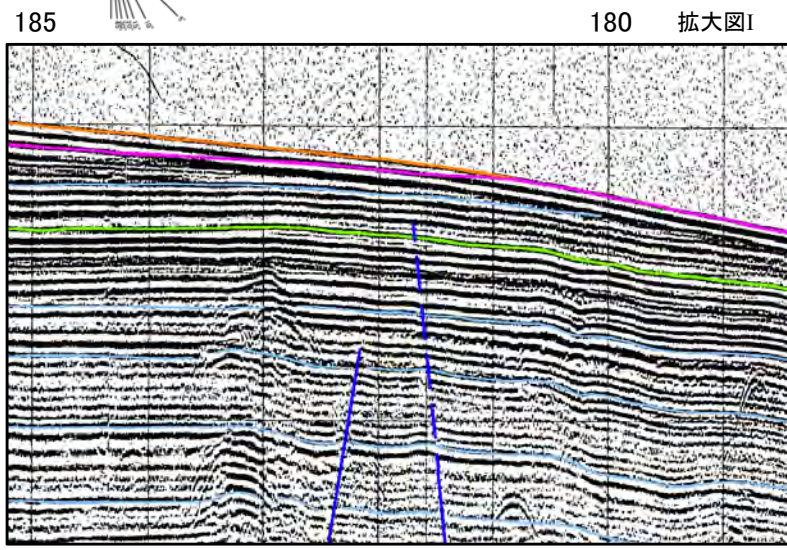


- No.13-1測線において、F-13断層による変位がC層下部に、変形がC層上部及びB<sub>3</sub>層に認められるが、B<sub>2</sub>層以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

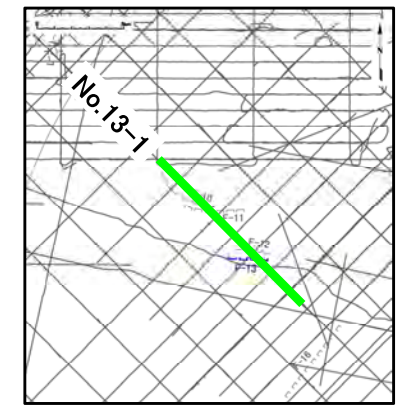
▽ (↑) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層

|| (||) 上部更新世には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。



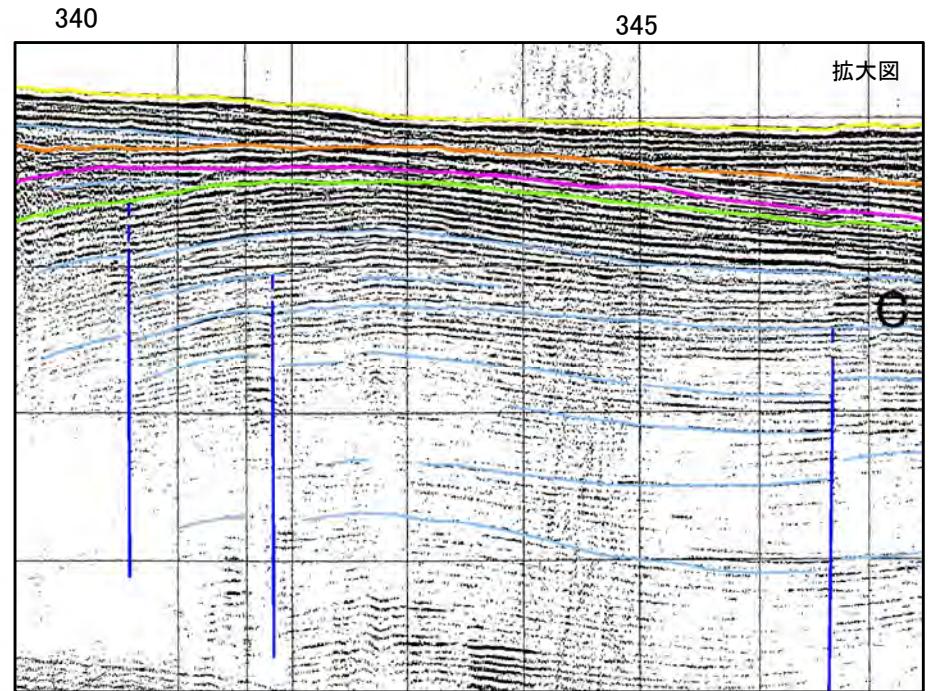
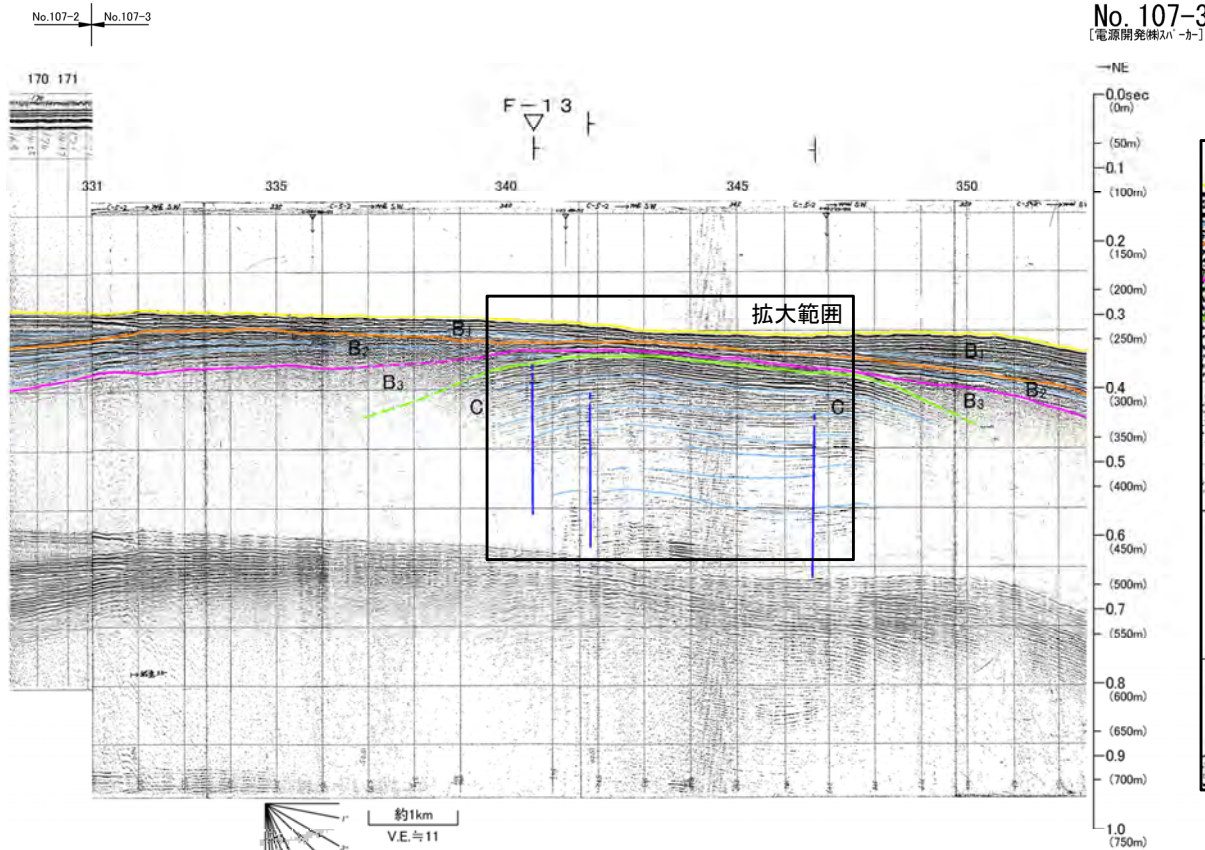
地質時代		陸地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		先新第三紀	E層





# 6.1 個別の断層評価(34/61)

## F-13断層(主部): No.107-3測線



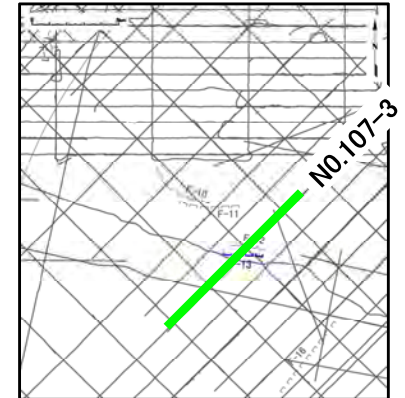
深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層

|| (---) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

- No.107-3測線において、F-13断層による変位がC層下部に、変形がC層上部に認められるが、B<sub>3</sub>層以上に変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないものと評価する。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層 B <sub>3</sub> 層
	前期	C層	
新第三紀	鮮新世	D層	
	中新世	E層	
先新第三紀			





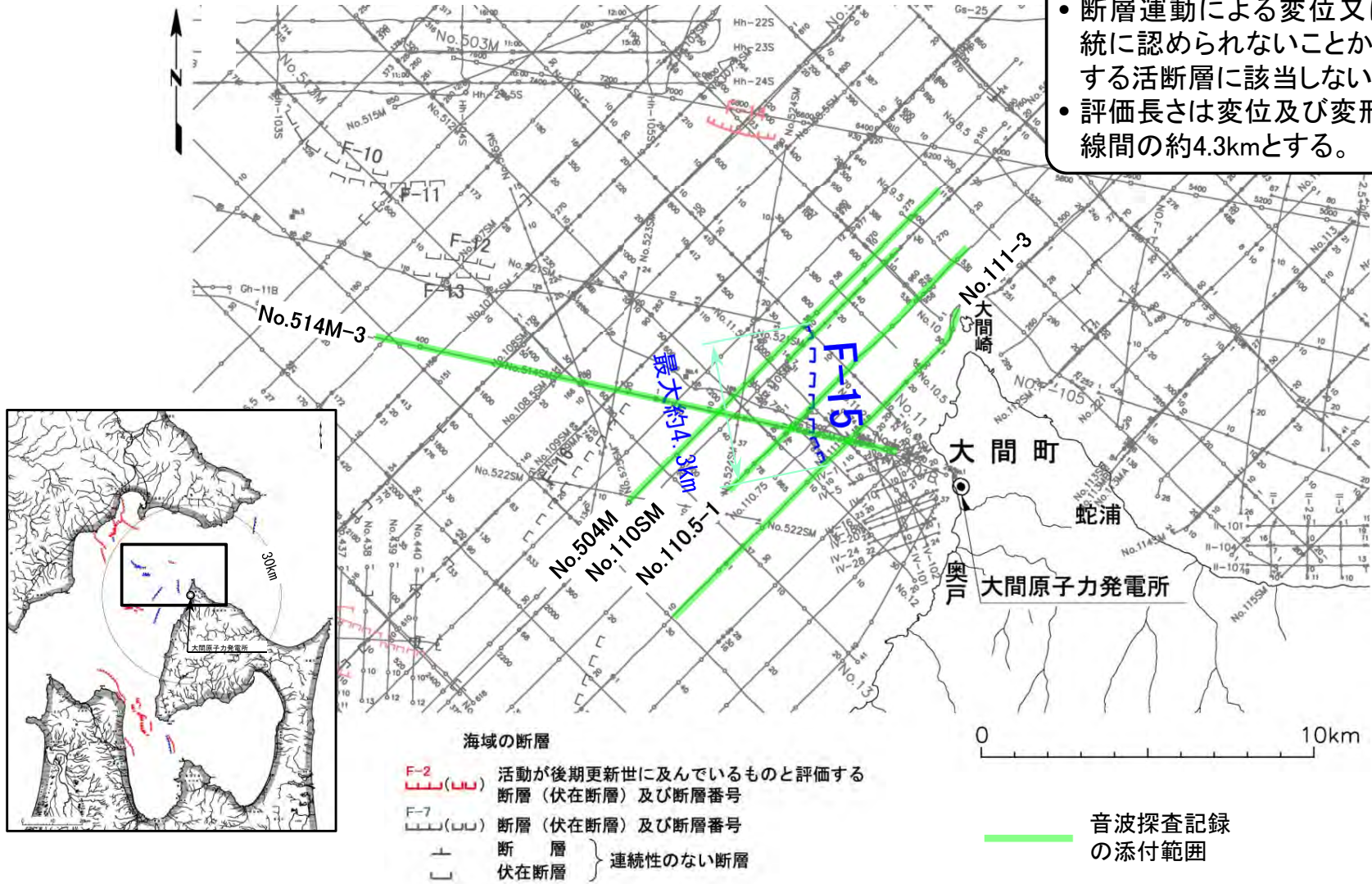
(余白)



# 6.1 個別の断層評価 (35/61)

## F-15断層: 断層位置及び評価長さ

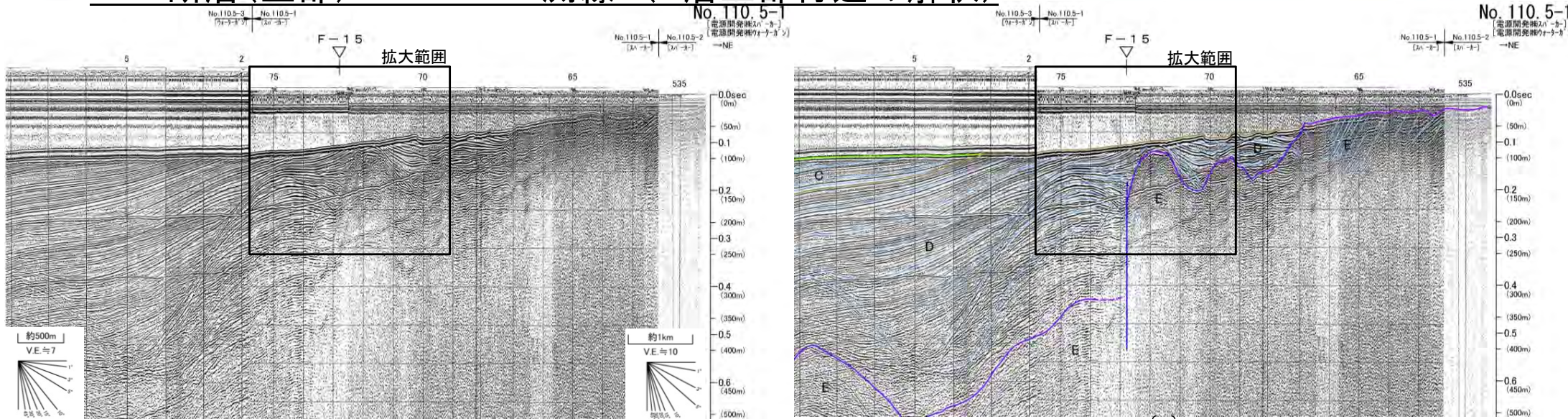
- F-15断層は、敷地西方約5kmに認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形が上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約4.3kmとする。



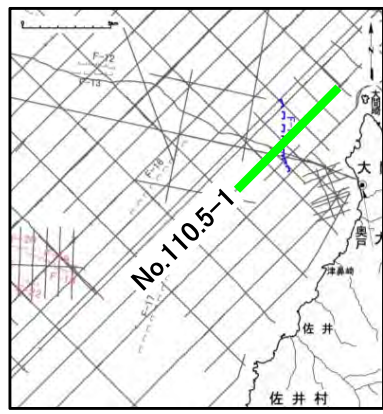
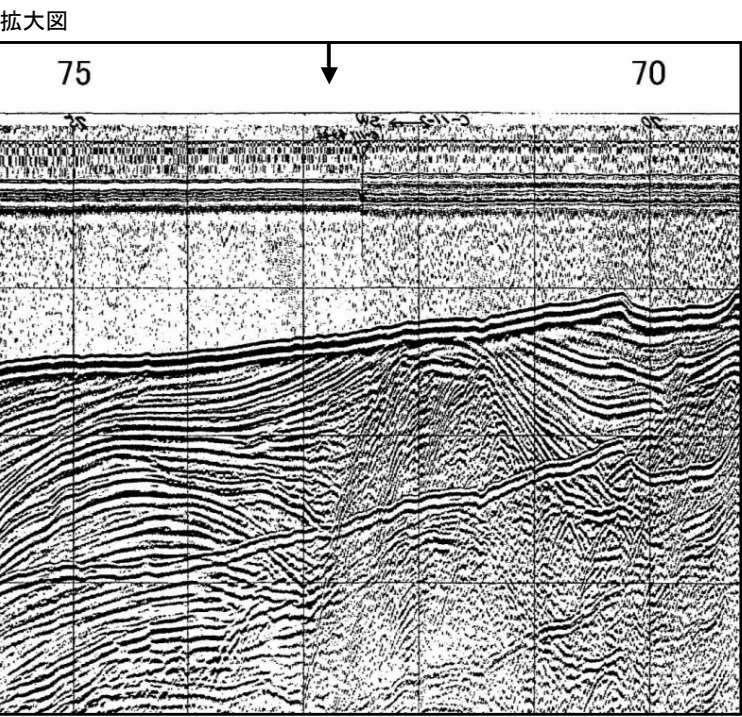


# 6.1 個別の断層評価 (36/61)

## F-15断層(主部): No.110.5-1測線 (D層上部付近の解釈)

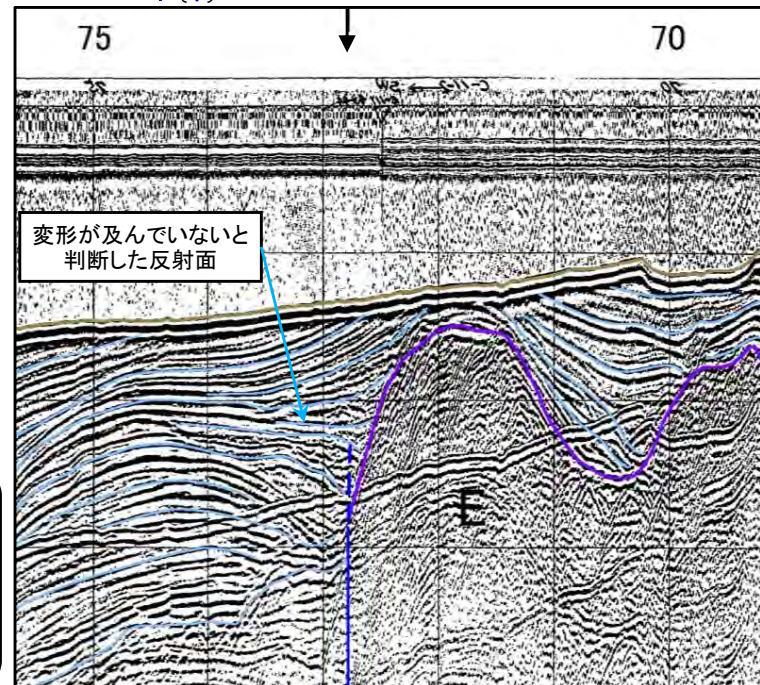


解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
上部更新統には変位(変形)が及ばない断層



深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		

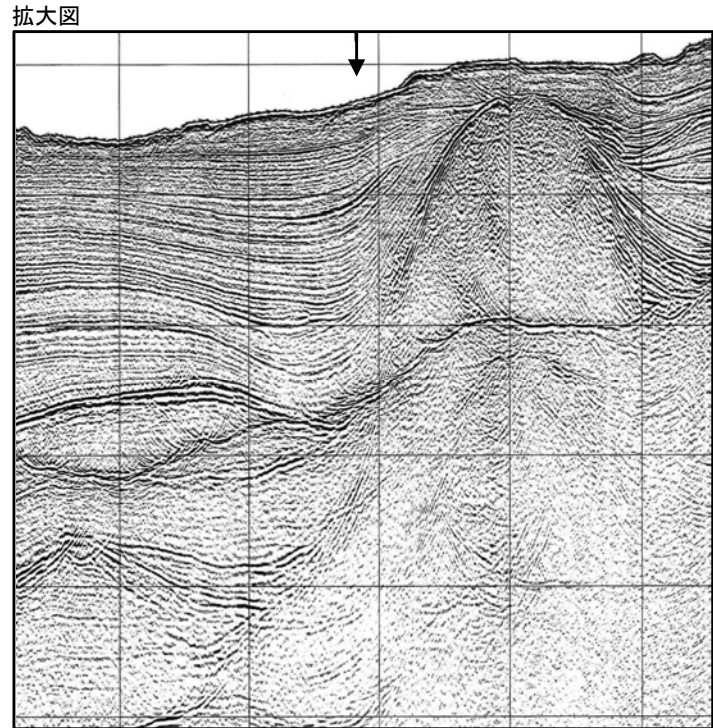
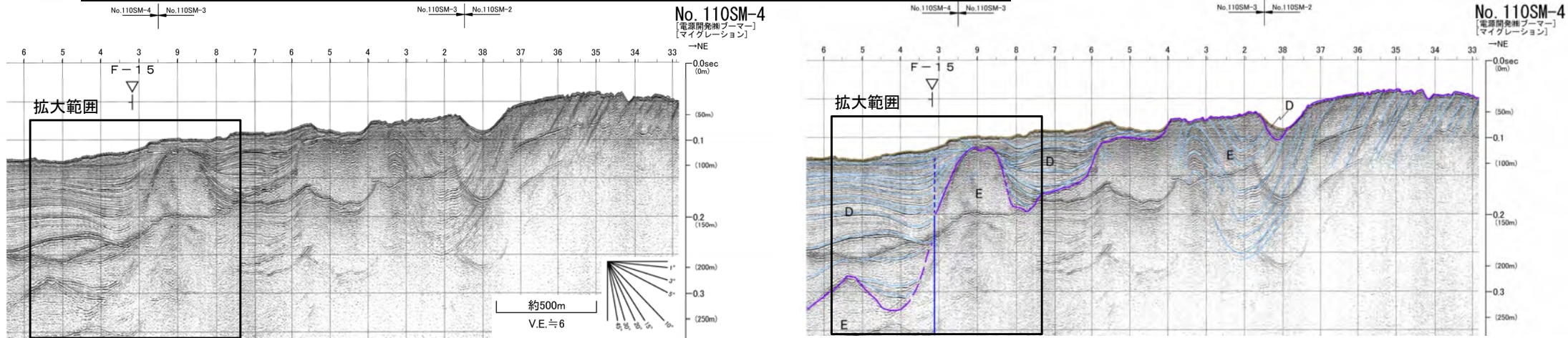


- F-15断層による変位がE層からD層下部まで、変形がD層中部まで認められるが、D層上部以上には変位・変形が認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないと評価する。



# 6.1 個別の断層評価 (37/61)

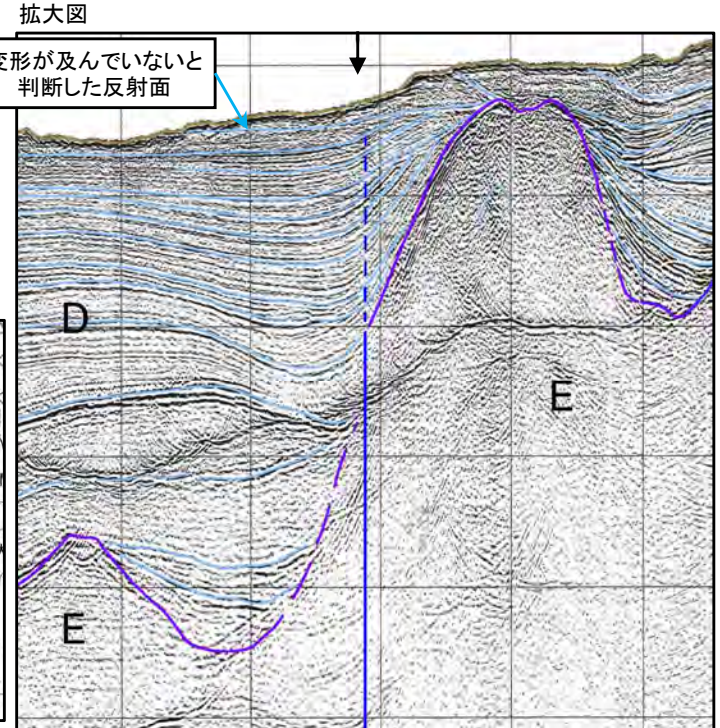
## F-15断層(主部): No.110SM-4測線 (D層上部付近の解釈)



▽ ( ) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
 | ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代	敷地前面海域
第四紀	完新世 A層
	後期 B <sub>1</sub> 層
	中期 B <sub>2</sub> 層
	前期 B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世 D層
	中新世 E層
先新第三紀	



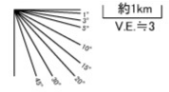
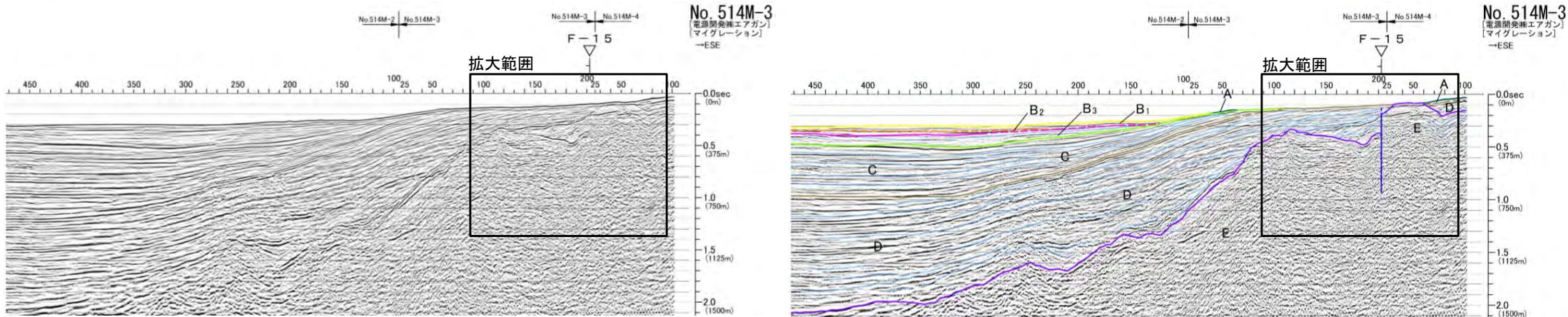
- F-15断層による変位がE層からD層下部まで、変形がD層中部まで認められるが、D層上部以上には変位・変形が認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないと評価する。





# 6.1 個別の断層評価 (38/61)

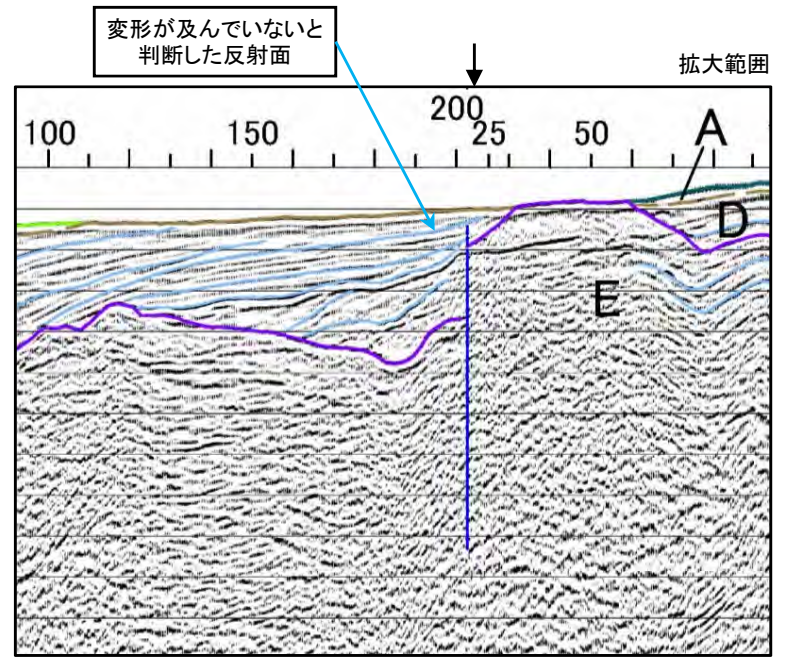
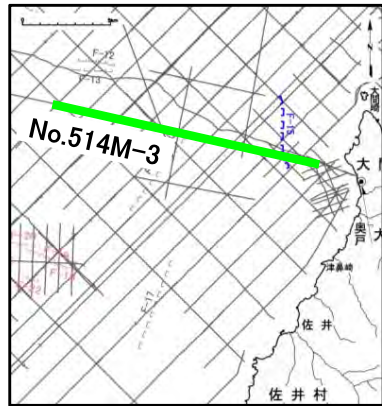
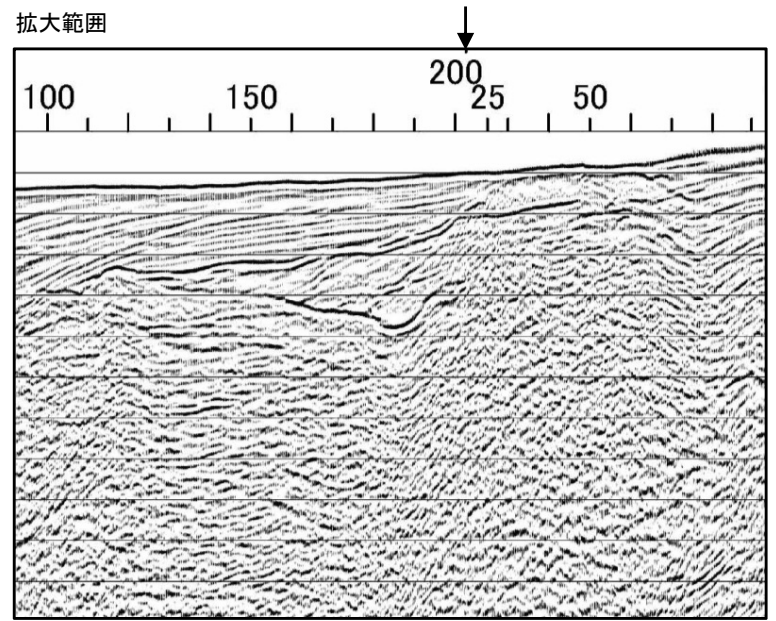
## F-15断層(主部): No.514M-3測線 (D層上部付近の解釈)



地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先第三紀		

解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

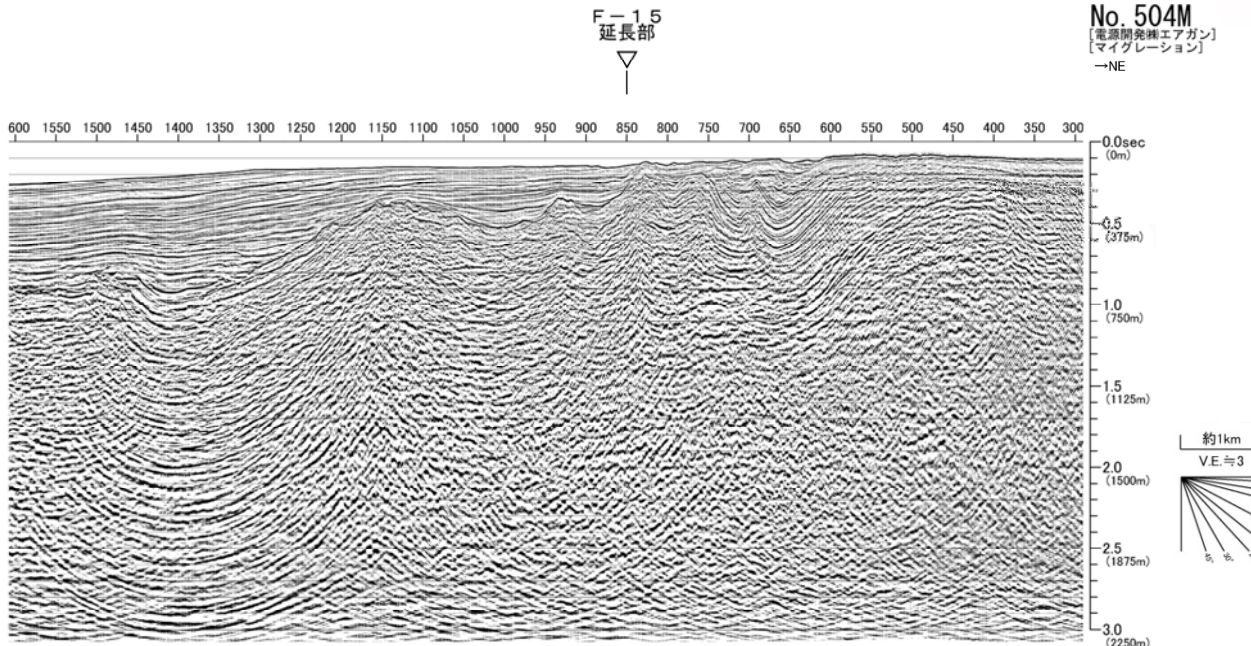


- F-15断層による変位がE層からD層下部まで、変形がD層中部まで認められるが、D層上部以上には変位・変形が認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降には及んでいないと評価する。

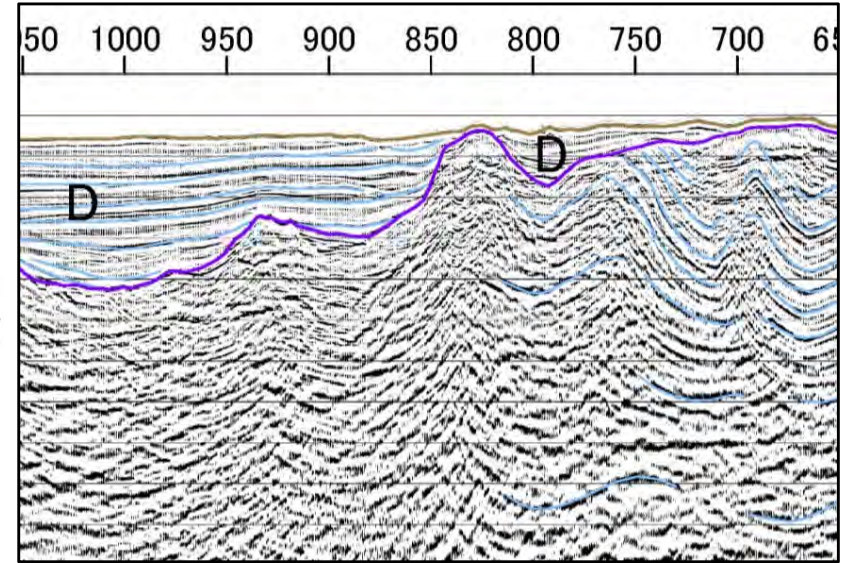


# 6.1 個別の断層評価 (39/61)

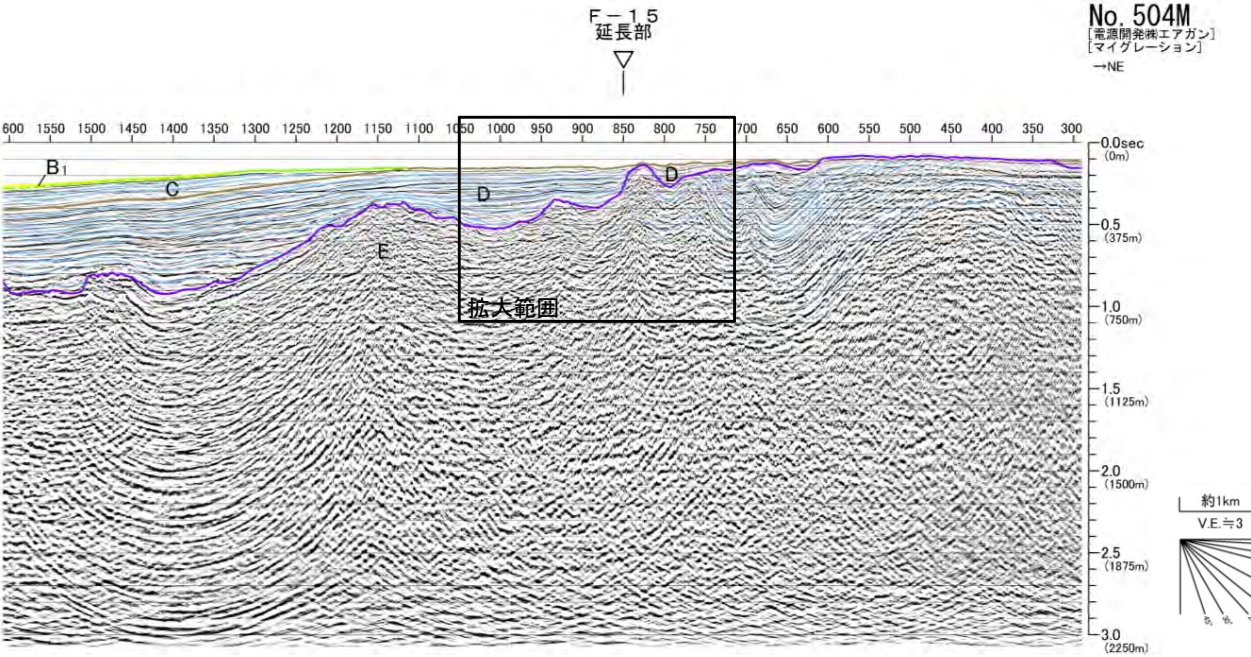
## F-15断層(北方延長部): No.504M測線



• F-15断層の北方延長部には、断層を示唆するような変位・変形は認められない。



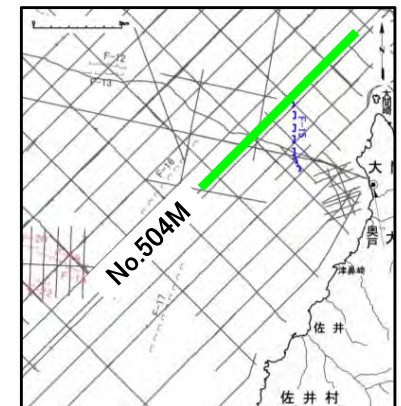
拡大図



▽ ( || ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( ) は他の断層の延長位置

深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

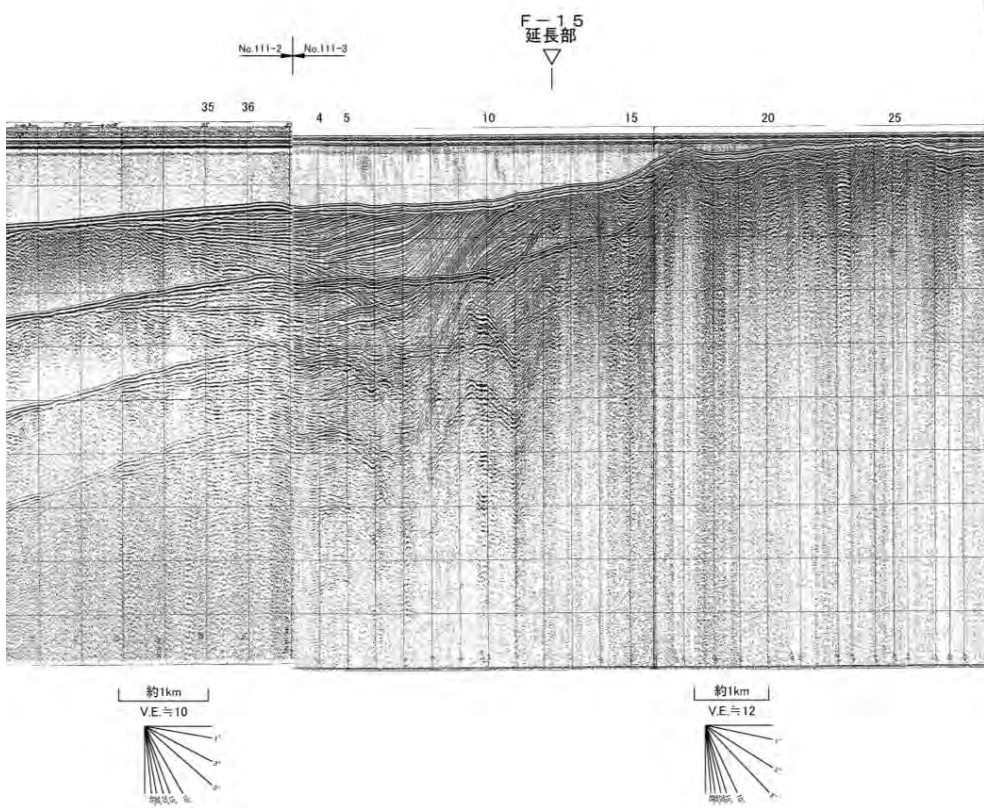
地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		E層	
先新第三紀			



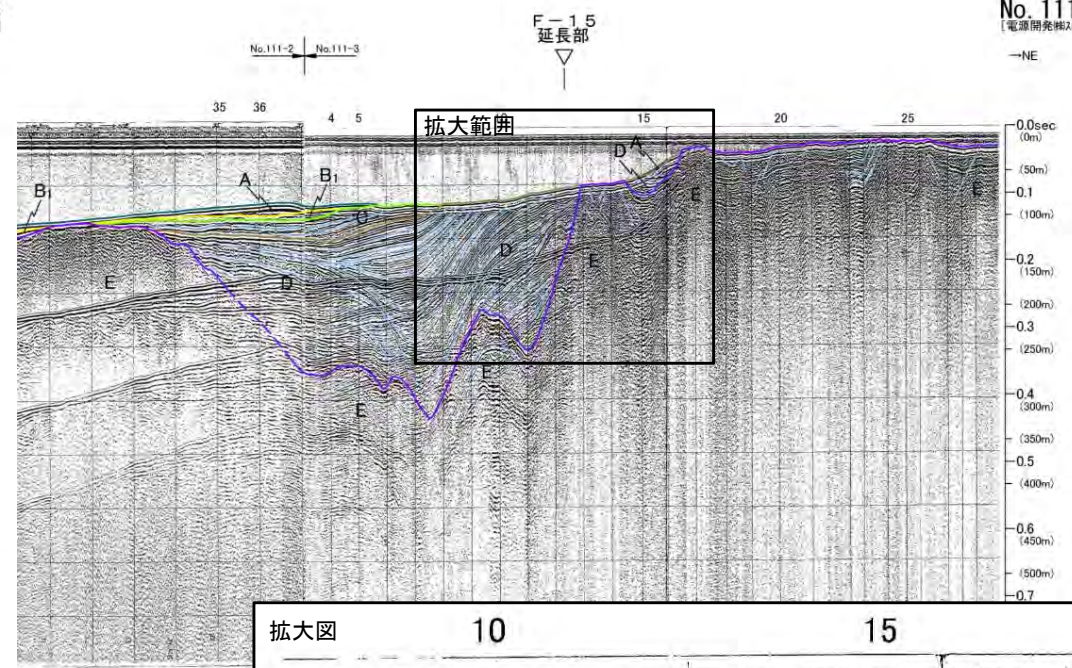


# 6.1 個別の断層評価 (40/61)

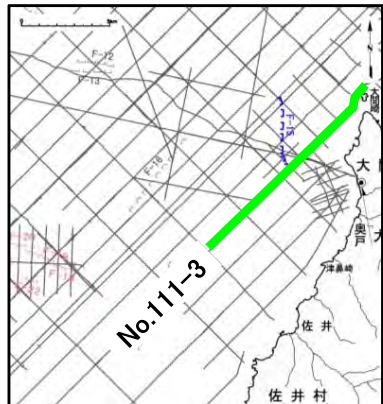
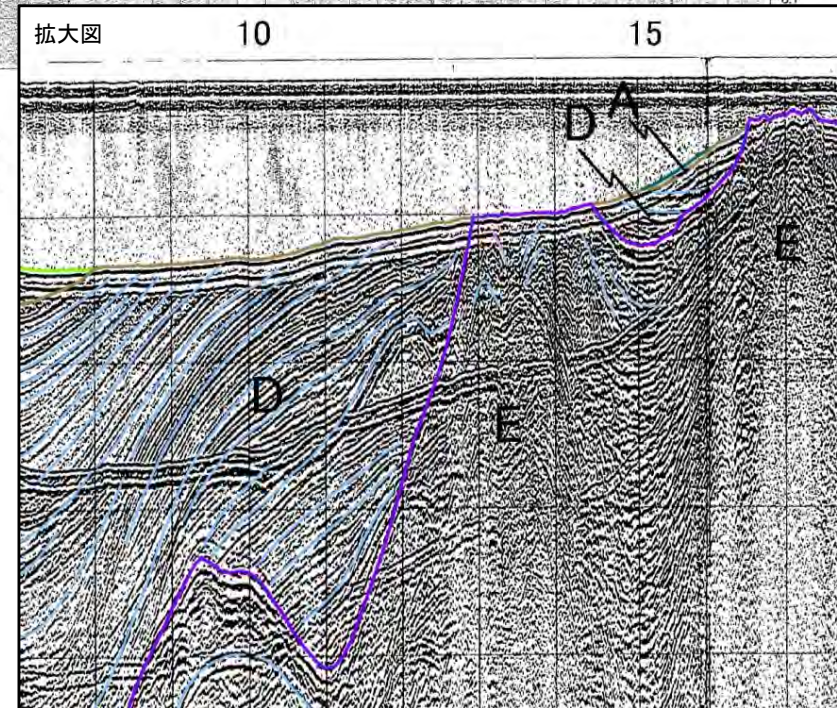
## F-15断層(南方延長部): No.111-3測線



No. 111-3  
[電源開発株式会社] ー3ー  
→NE



No. 111-3  
[電源開発株式会社] ー3ー  
→NE



▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( ) は他の断層の延長位置

深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		E層	
先新第三紀			

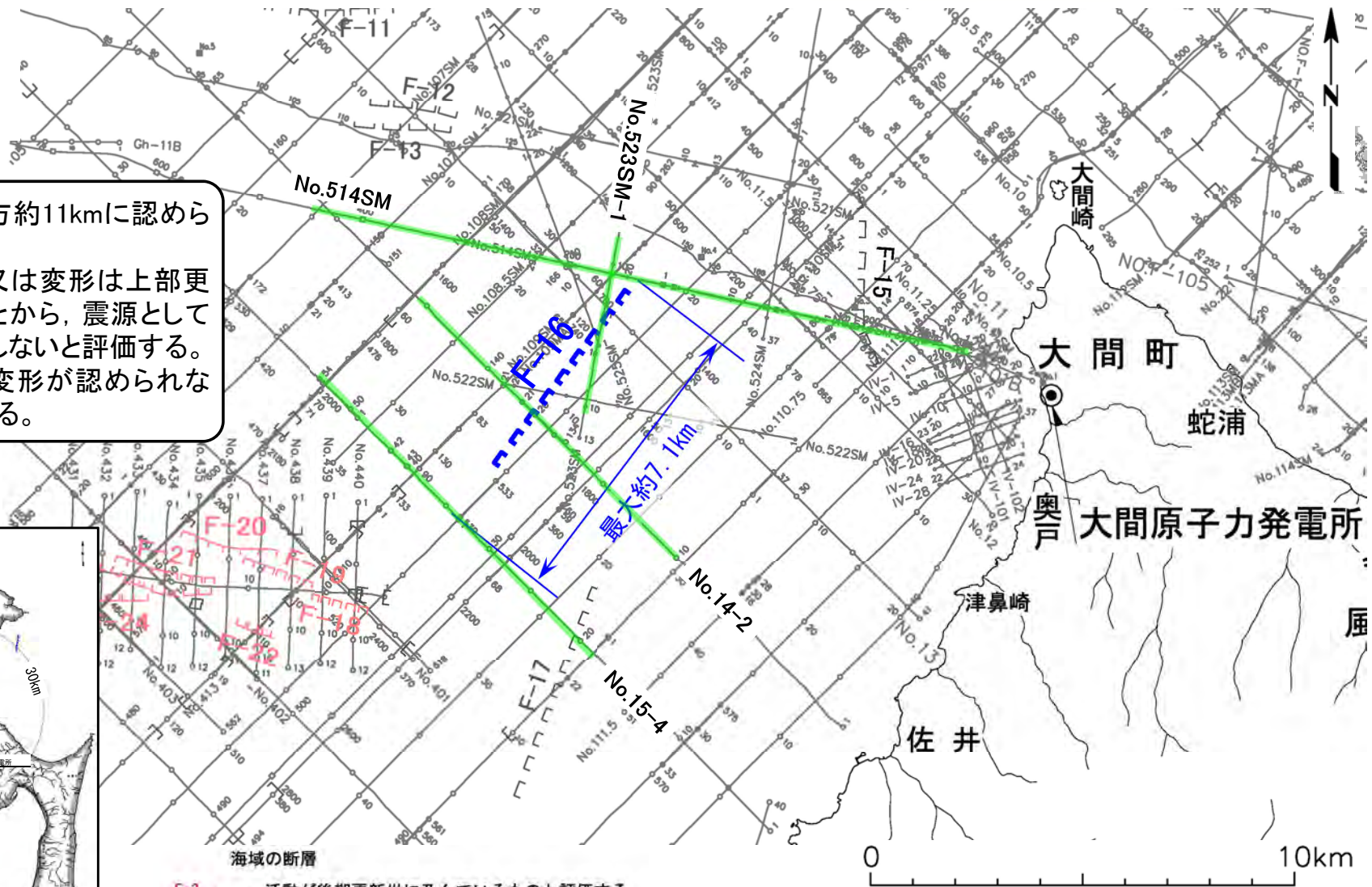
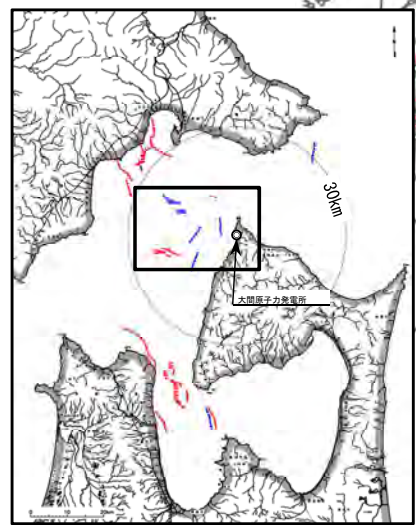
- F-15断層の南方延長部には、断層を示唆するような変位・変形は認められない。



# 6.1 個別の断層評価(41/61)

## F-16断層:断層位置及び評価長さ

- F-16断層は、敷地西方約11kmに認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約7.1kmとする。



海域の断層

F-2 (UU) 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層(伏在断層)及び断層番号

F-7 (UU) 断層(伏在断層)及び断層番号

断層 } 連続性のない断層

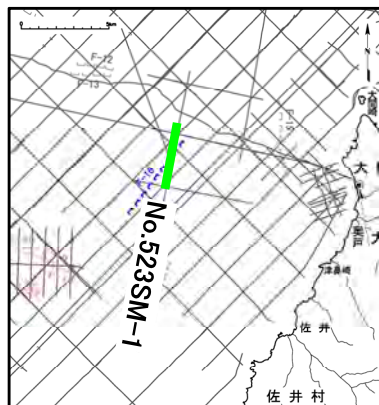
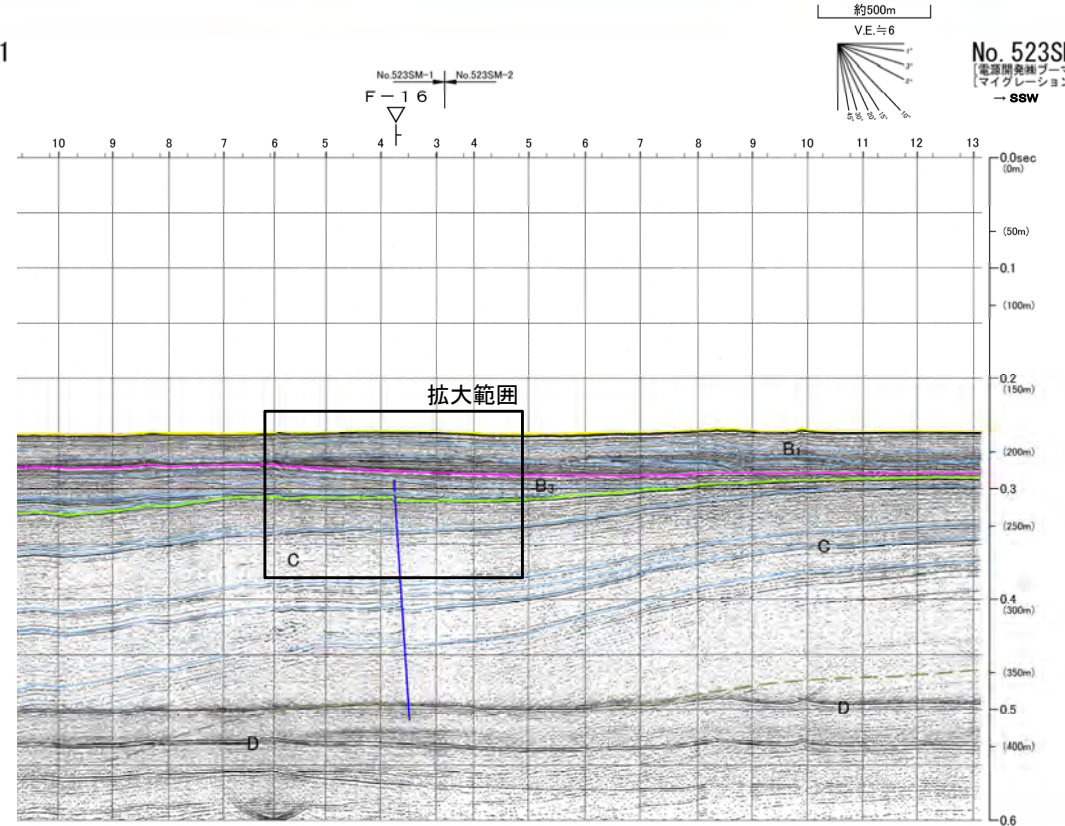
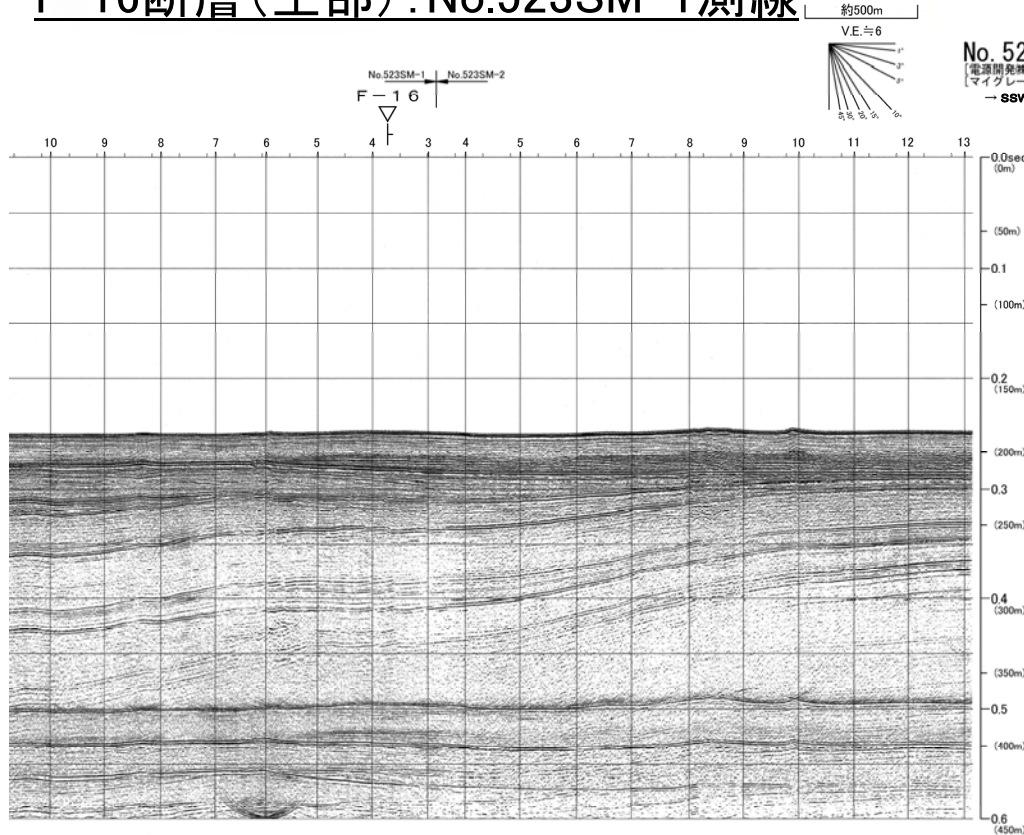
伏在断層 }

音波探査記録の添付範囲



# 6.1 個別の断層評価(42/61)

## F-16断層(主部): No.523SM-1測線

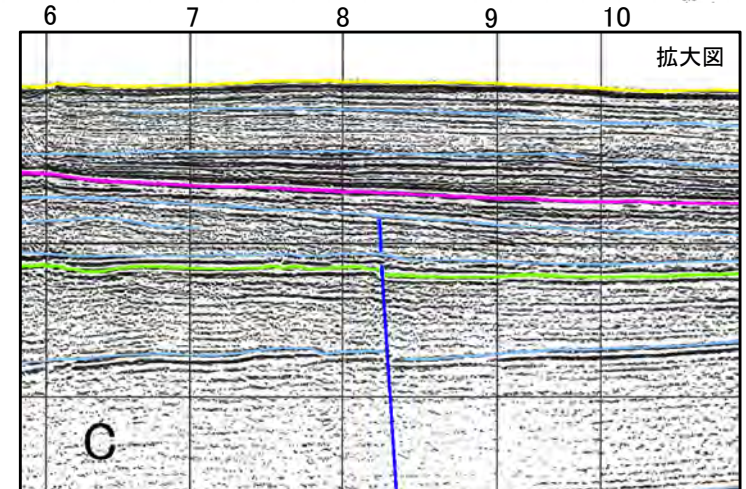


▽ (1) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層  
||| 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- F-16断層による変位が少なくともC層上部まで、変形がB<sub>3</sub>層下部までに認められ、B<sub>3</sub>層上部及びB<sub>1</sub>層には変位・変形が認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降に及んでいないと評価する。

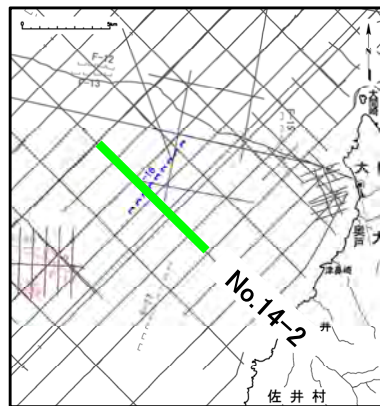
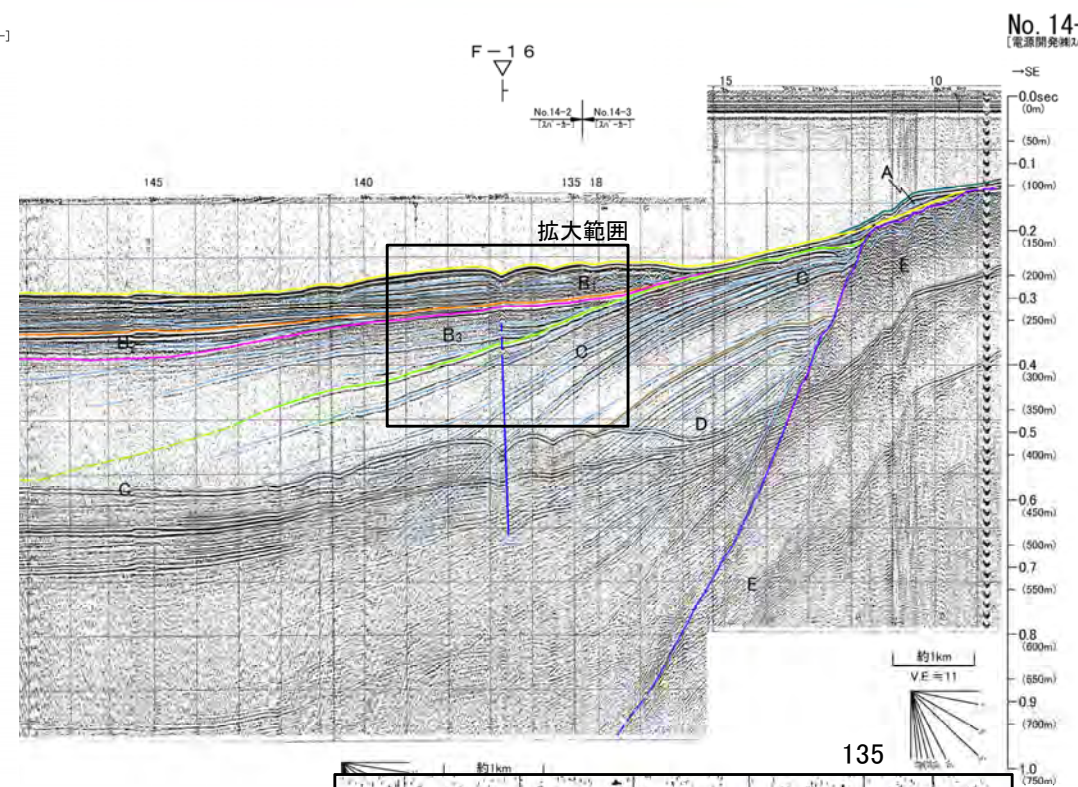
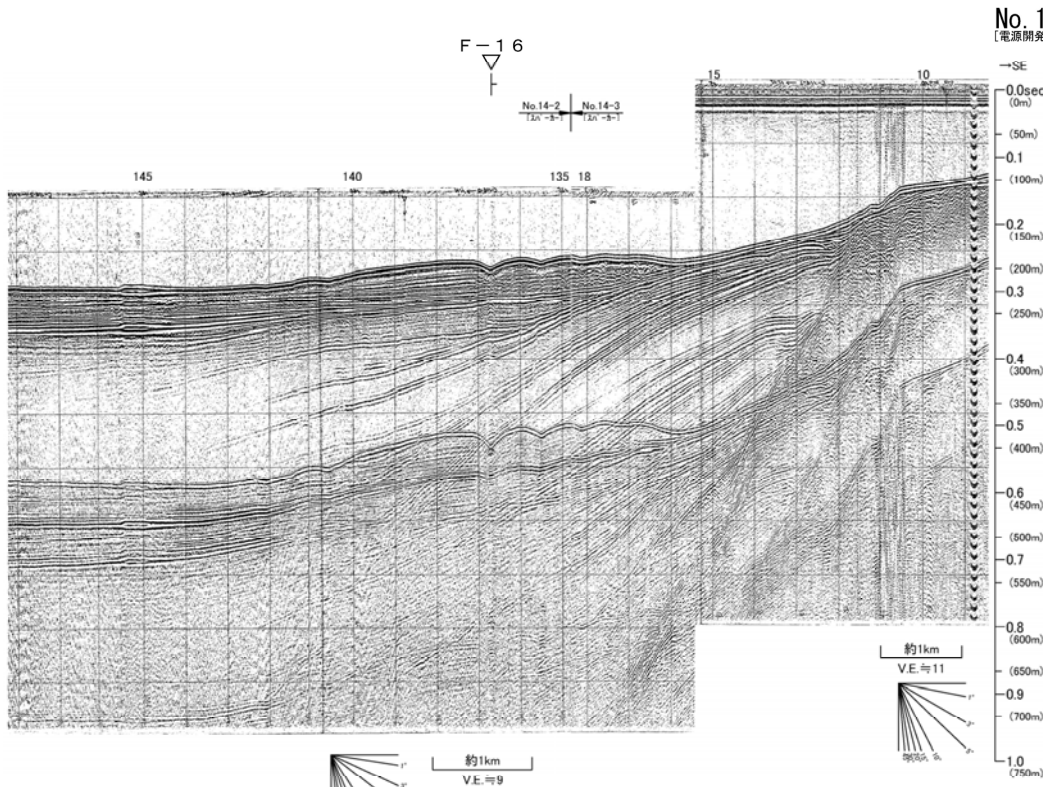
地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B層
	中期	B <sub>2</sub> 層 B <sub>3</sub> 層
	前期	C層
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		





# 6.1 個別の断層評価(43/61)

## F-16断層(主部): No.14-2測線

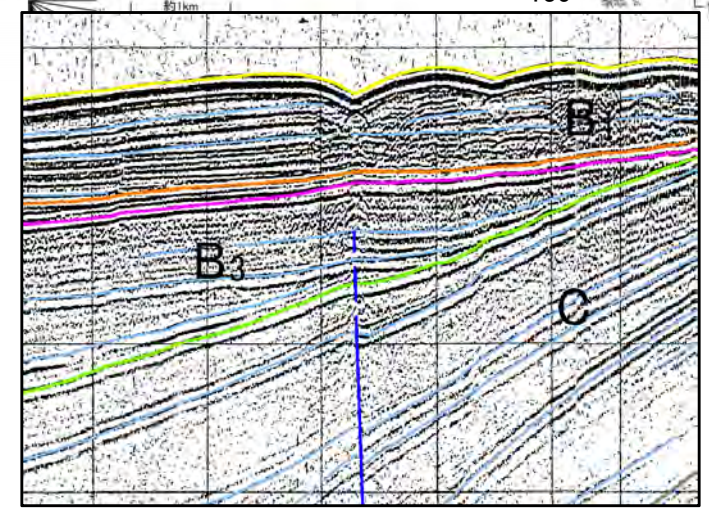


▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( ) は他の断層  
||| 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- F-16断層による変位が少なくともC層下部まで、変形がC層上部及びB<sub>3</sub>層下部までに認められ、B<sub>3</sub>層上部、B<sub>2</sub>層及びB<sub>1</sub>層には変位・変形が認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降に及んでいないと評価する。

地質時代	敷地前面海域
第四紀	完新世 A層
	後期 B <sub>1</sub> 層
	中期 B <sub>2</sub> 層
	前期 B <sub>3</sub> 層
新第三紀	D層
	中新世 E層
	先新第三紀

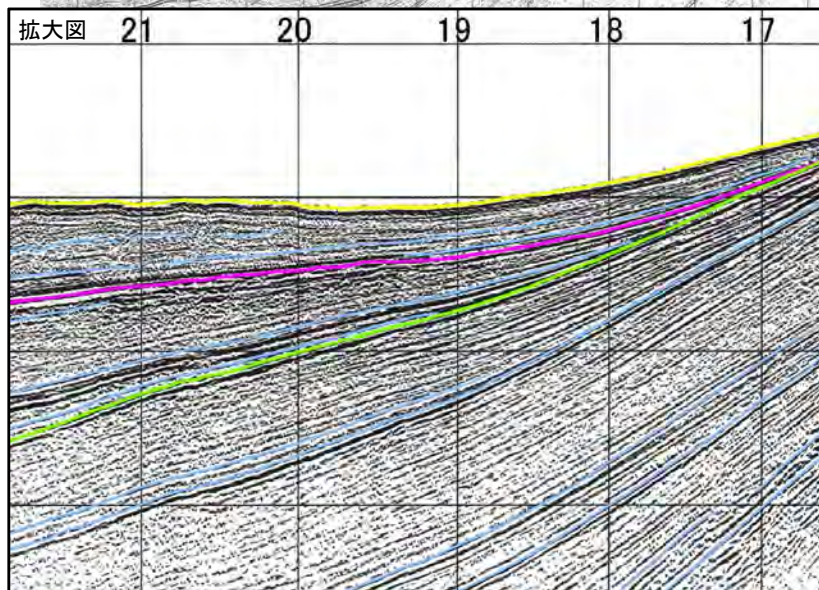
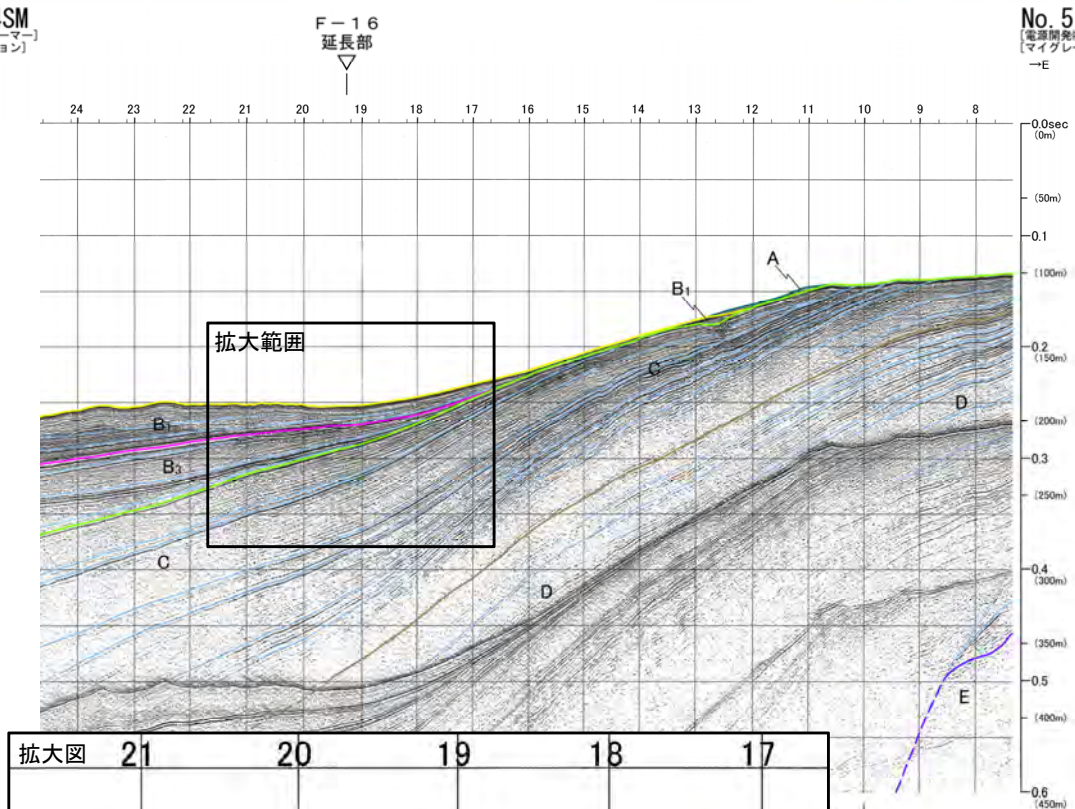
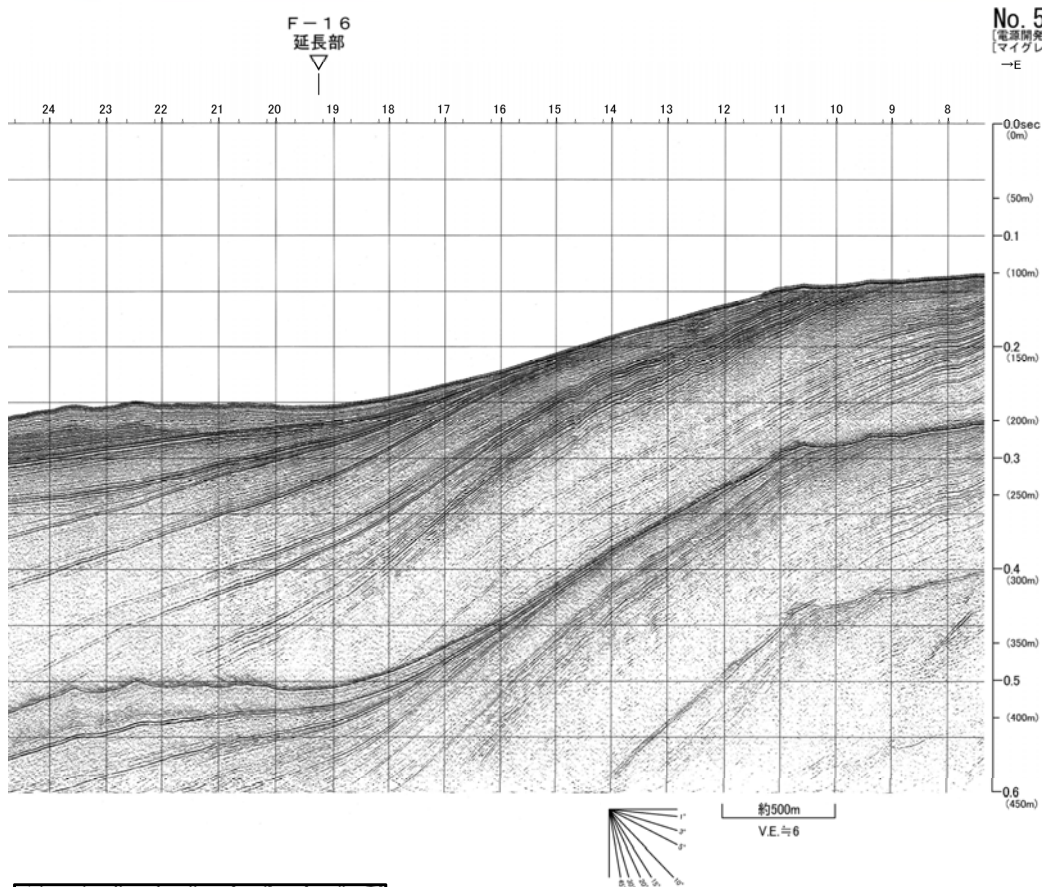


拡大図



# 6.1 個別の断層評価(44/61)

## F-16断層(北方延長部): No.514SM測線

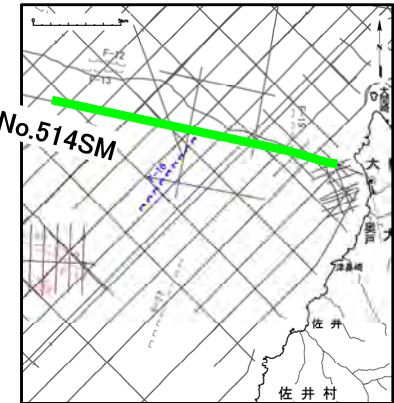


深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	B層	
		後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
前期	B <sub>3</sub> 層		
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		E層	
先新第三紀			

- ▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置  
( )は他の断層の延長位置
- || ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

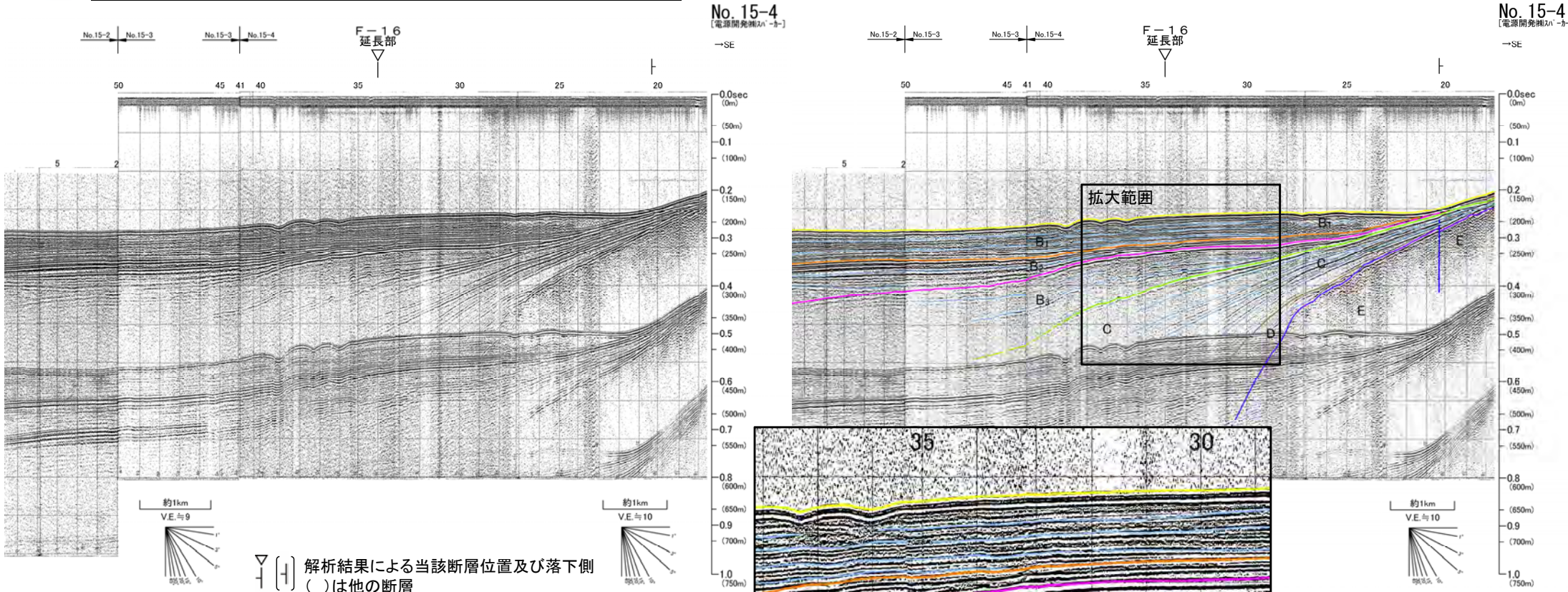
• F-16断層北方延長部には、D層からB<sub>1</sub>層及び海底面に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。





# 6.1 個別の断層評価(45/61)

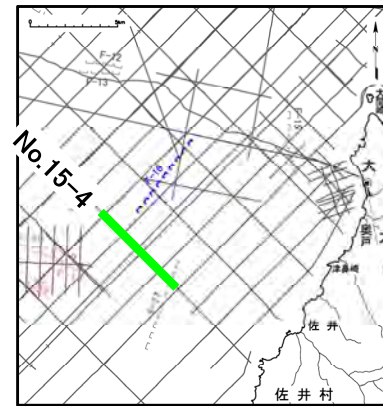
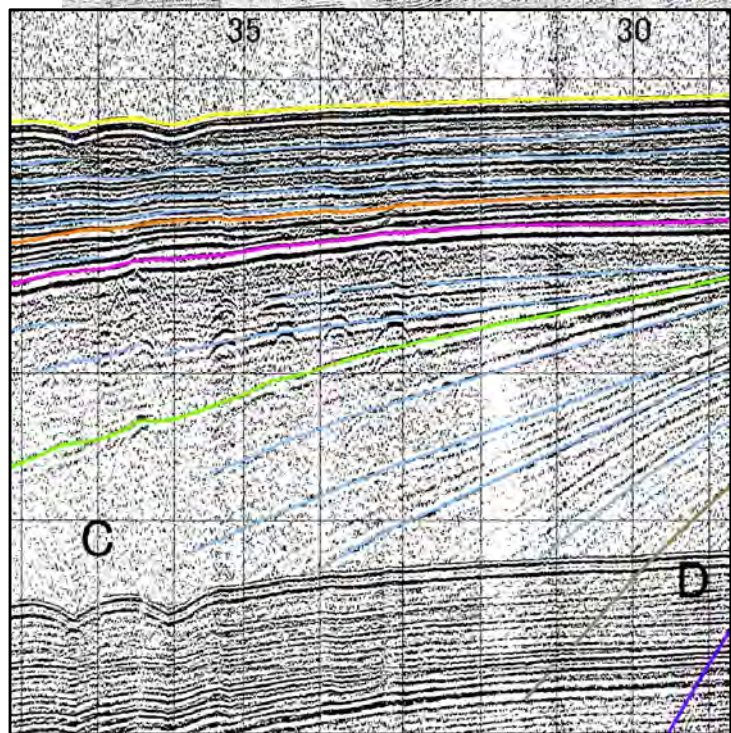
## F-16断層(南方延長部): No.15-4測線



- ▽ ( ) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層
- ▽ ( ) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置
- || ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	更新世	後期 B層
		中期 B <sub>2</sub> 層
	前期 B <sub>3</sub> 層	
第三紀	鮮新世	C層
	中新世	D層
	先新第三紀	E層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。



● F-16断層南方延長部には、C層からB<sub>1</sub>層及び海底面に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。

拡大図



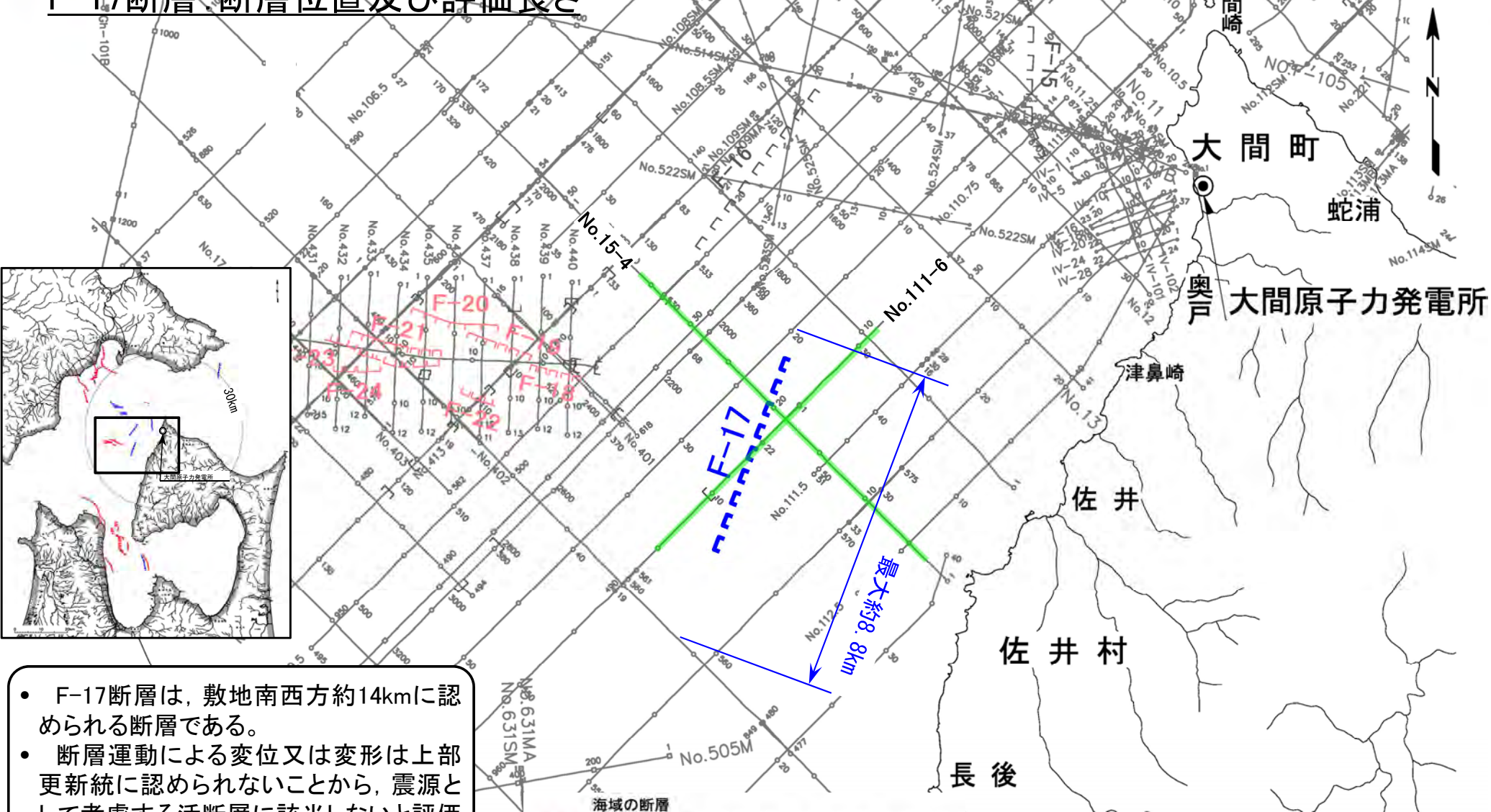
(余白)



# 6.1 個別の断層評価(46/61)



## F-17断層:断層位置及び評価長さ



- F-17断層は、敷地南西方約14kmに認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約8.8kmとする。

海域の断層

F-2 (UU) 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層(伏在断層)及び断層番号

F-7 (UU) 断層(伏在断層)及び断層番号

断層 } 連続性のない断層

伏在断層 }

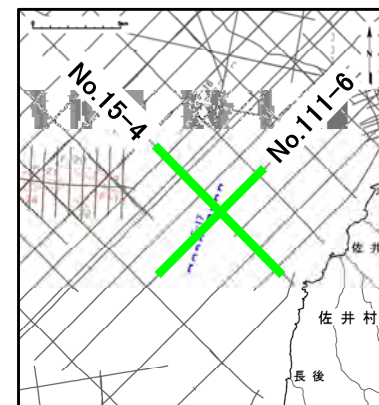
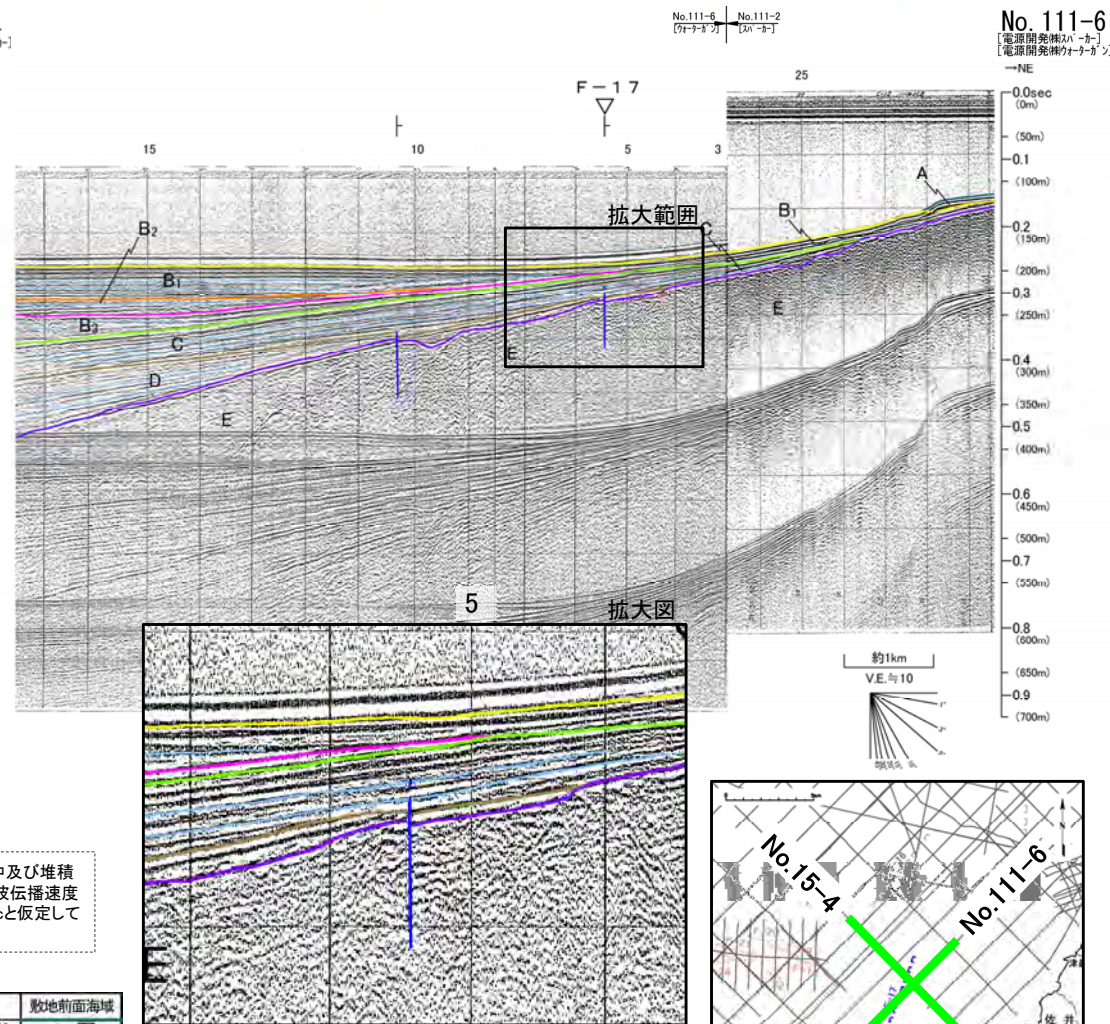
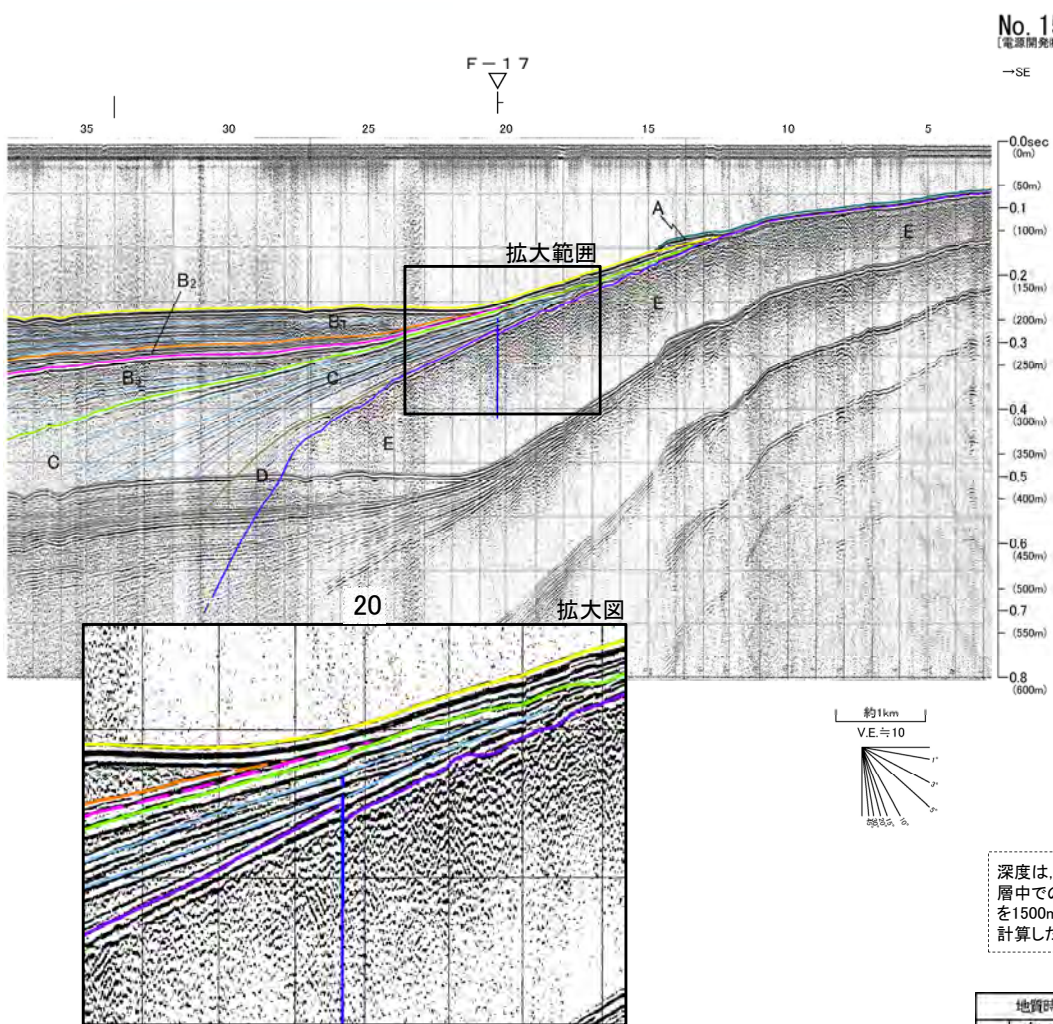
音波探査記録の添付範囲



# 6.1 個別の断層評価(47/61)



## F-17断層(主部): No.15-4測線, No.111-6測線



地質時代	数地前面海城
第四紀	A層
更新世	B <sub>1</sub> 層
更新世	B <sub>2</sub> 層
更新世	B <sub>3</sub> 層
更新世	C層
新第三紀	D層
新第三紀	E層
先新第三紀	

- No.15-4測線及びNo.111-6測線において、F-17断層による変位がE層からC層下部まで、変形がC層中部まで認められるが、C層上部以上の地層には変位・変形が認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降に及んでいないと評価する。

- ▽ (H) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層
- ▽ (I) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置
- | (:) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

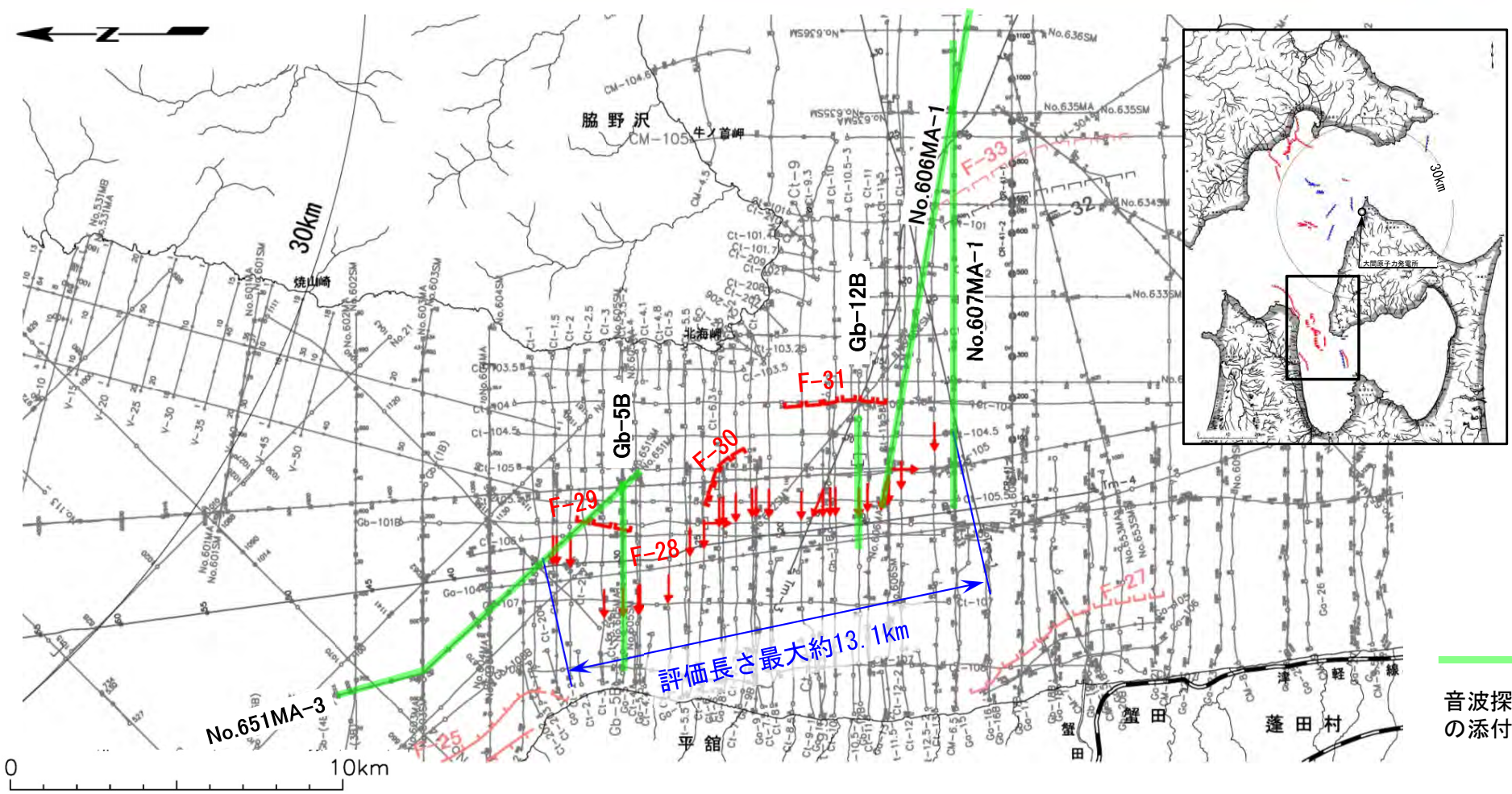
審査資料の再チェックを行い、「F-17断層に関するキャプションの誤り(「変位がE層～C層まで」を「変位がE層～C層下部まで」に修正)」を修正した。



# 6.1 個別の断層評価(48/61)



## F-28断層～F-31断層:断層位置及び評価長さ



音波探査記録の添付範囲

- 海域の断層
- F-2 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層（伏在断層）及び断層番号
  - 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する撓曲
  - F-7 断層（伏在断層）及び断層番号
  - F 断層
  - F 伏在断層
- 連続性のない断層

- 西側に撓む撓曲構造であるF-28断層と、F-28断層に沿って分布するF-29断層、F-30断層及びF-31断層は一連の「F-28断層～F-31断層」とする。
- 断層運動による変位又は変形が上部更新統に及ぶことから、震源として考慮する活断層と評価する。
- 評価長さは上部更新統以上に変位及び変形が認められない測線間の約13.1kmとする。



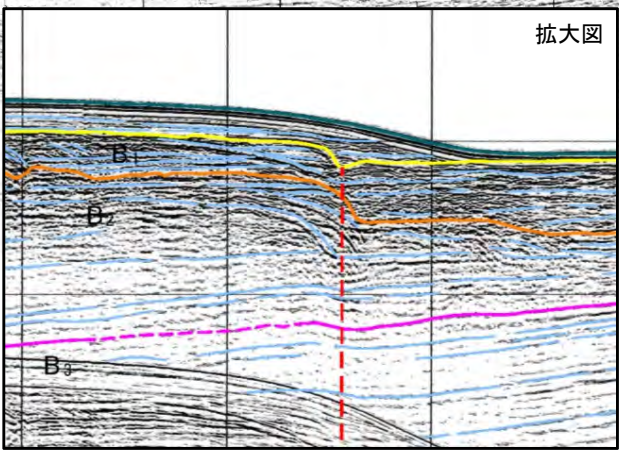
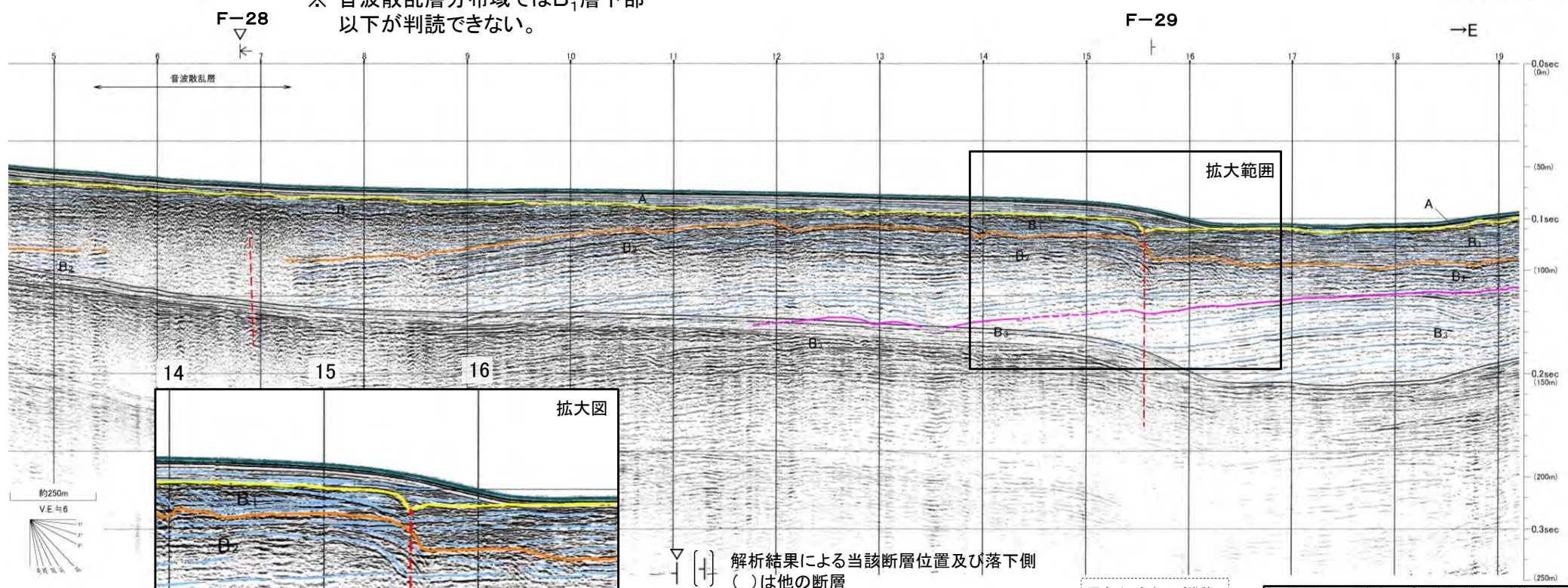
# 6.1 個別の断層評価(49/61)



## F-28断層～F-31断層(主部): Gb-5B測線(F-28断層, F-29断層)

Gb-5B  
[産総研ブーマー]

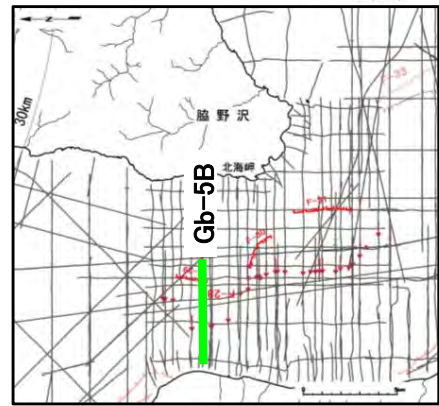
※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層下部以下が判読できない。



- ▽ ( ) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層
- ▽ ( ) 解析結果による当該撓曲位置及び落下側 ( )は他の撓曲
- || ( ) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	更新世	B <sub>1</sub> 層
		B <sub>2</sub> 層
		B <sub>3</sub> 層
前期	C層	
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		



- F-28断層は西側落下の撓曲であり, F-29断層は, F-28断層と並行する逆向き低崖と判断し, 一連の構造と評価する。
- F-28断層による変形がB<sub>2</sub>層及びB<sub>1</sub>層下部まで認められる。
- F-29断層による変形がB<sub>3</sub>層上部からB<sub>1</sub>層上部まで認められ, さらにA層基底部まで及んでいる可能性がある。
- F-28断層による断層運動は後期更新世以降に及ぶものと評価する。

審査資料の再チェックを行い、「音探断面図中のF-29断層の表示の誤り(「F-29南方延長部」を「F-29」に修正)」を修正した。

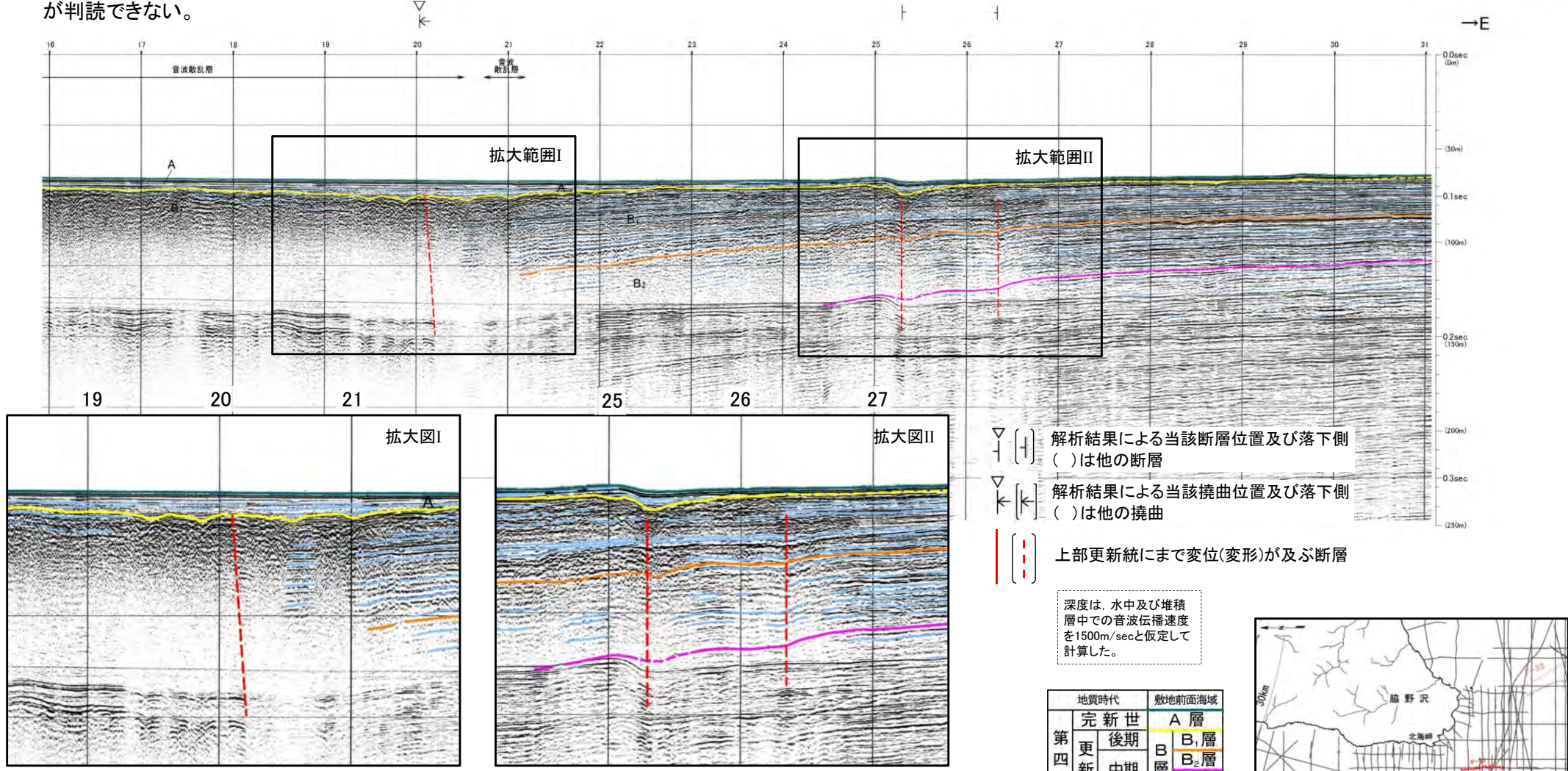


# 6.1 個別の断層評価(50/61)

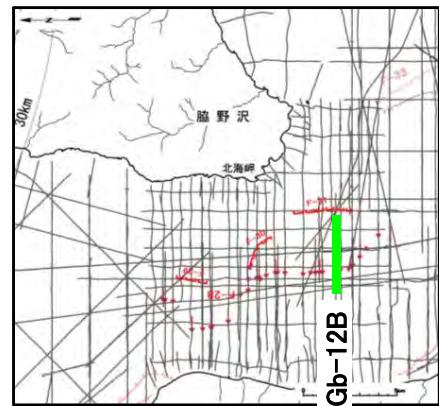
## F-28断層～F-31断層(主部): Gb-12B測線(F-28断層主部)

Gb-12B  
[産総研プーマー]

※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層下部以下 F-28 が判読できない。



- F-28断層による変形が少なくともB<sub>1</sub>層上部まで認められる。
- 2条の連続性のない断層による変形がB<sub>3</sub>層からB<sub>1</sub>層下部まで認められる。
- 2条の連続性のない断層はF-28断層と一連の構造と判断される。
- F-28断層による断層運動は後期更新世以降に及ぶものと評価する。





# 6.1 個別の断層評価(51/61)

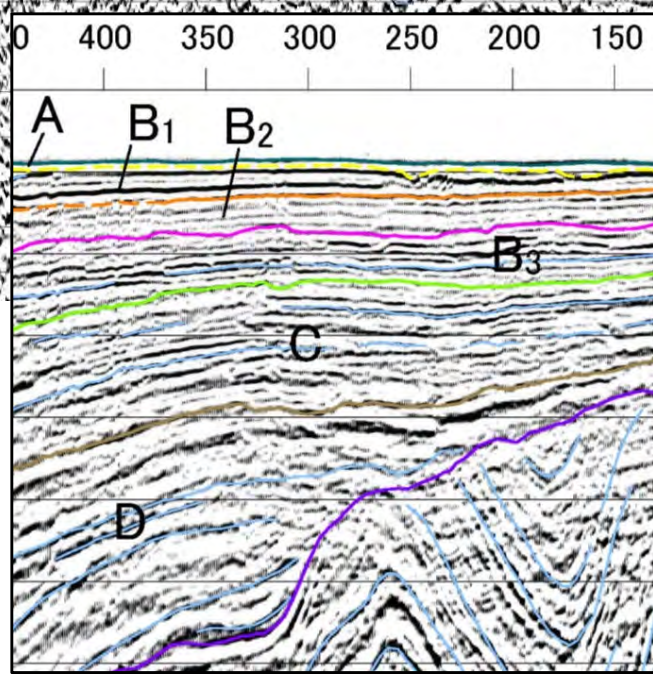
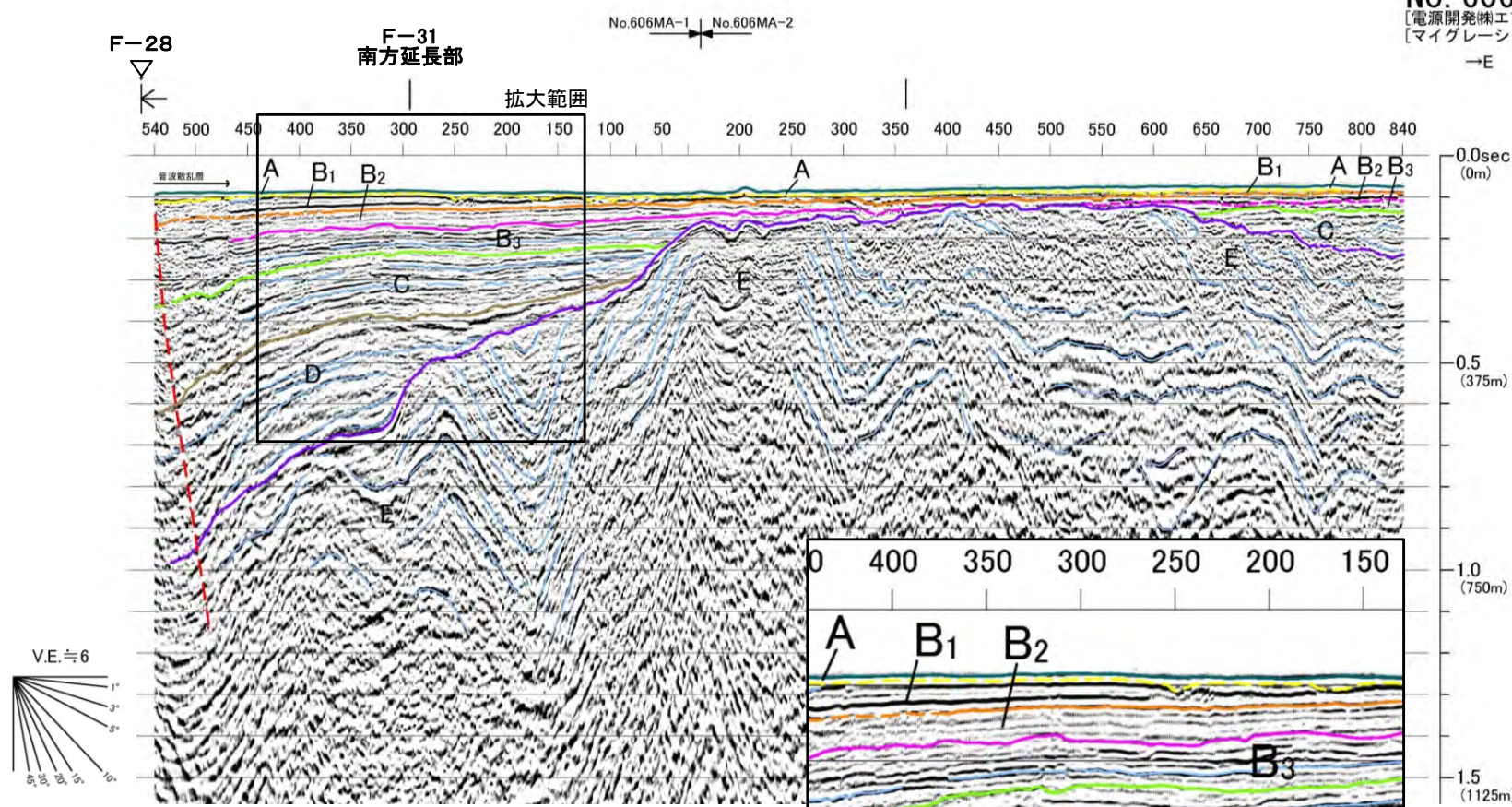


## F-28断層～F-31断層(主部及び延長部): No.606MA-1測線(F-28断層, F-31断層南方延長部)

No. 606MA  
[電源開発㈱エアガン]  
[マイグレーション]  
→E

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
鮮新世		C層
		D層
新第三紀		E層
先新第三紀		

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。



- ▽ ( ) 解析結果による当該撓曲位置及び落下側 ( )は他の撓曲
- ▽ ( || ) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置
- | ( : ) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層

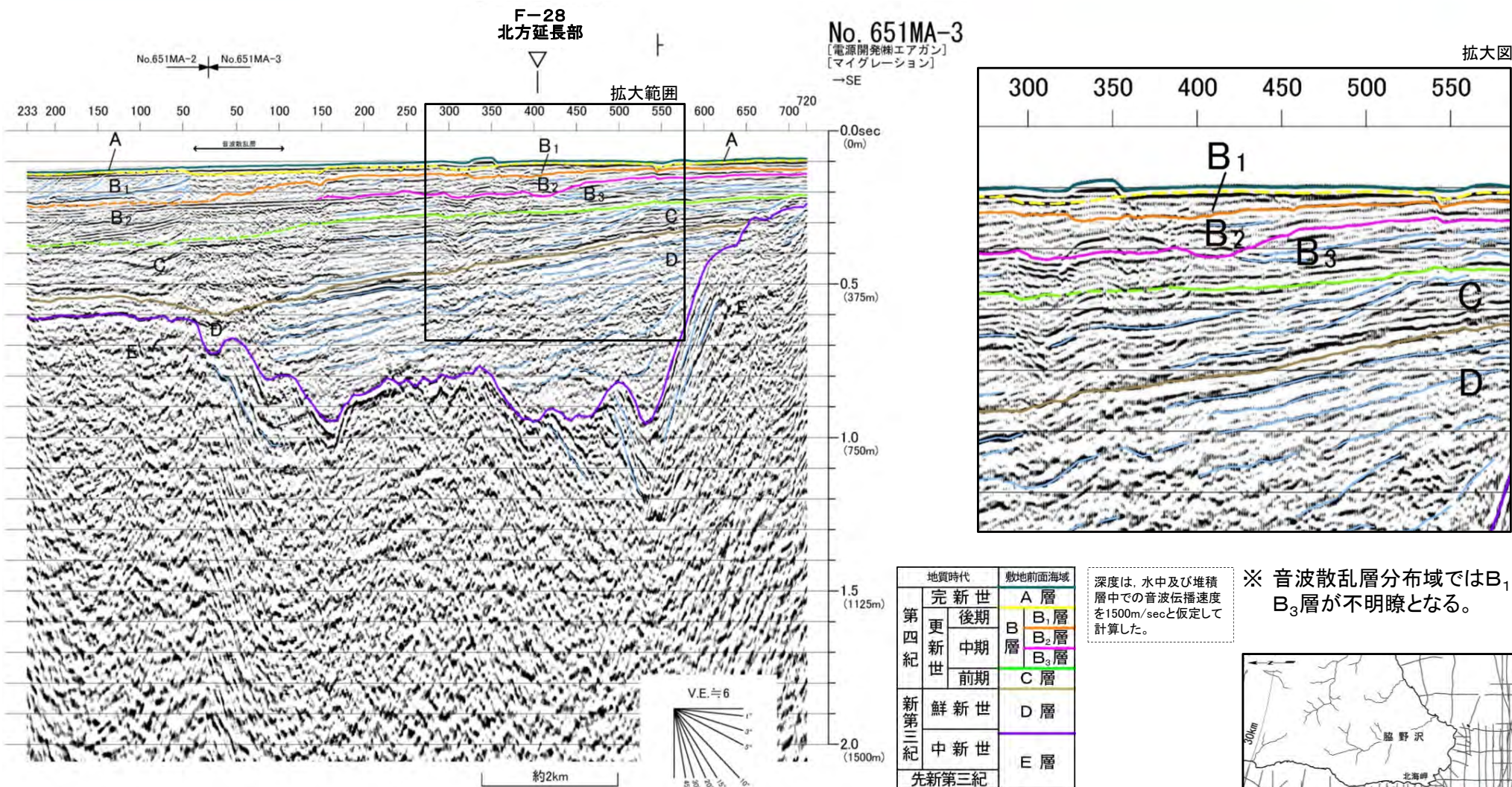
- F-28断層による変形がE層からB<sub>1</sub>層まで認められる。
- F-31断層の南方延長部にはE層からB<sub>1</sub>層に断層を示唆する変位・変形は認められない。
- F-28断層による断層運動は後期更新世以降に及ぶものと評価する。

拡大図



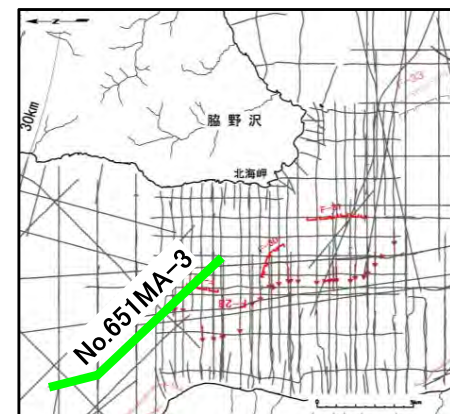
# 6.1 個別の断層評価(52/61)

## F-28断層～F-31断層(延長部): No.651MA-3測線(F-28断層 北方延長部)



- F-28断層北方延長部には、E層からB<sub>1</sub>層に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。
- F-28断層による断層運動は少なくとも後期更新世以降に及んでいないものと評価する。

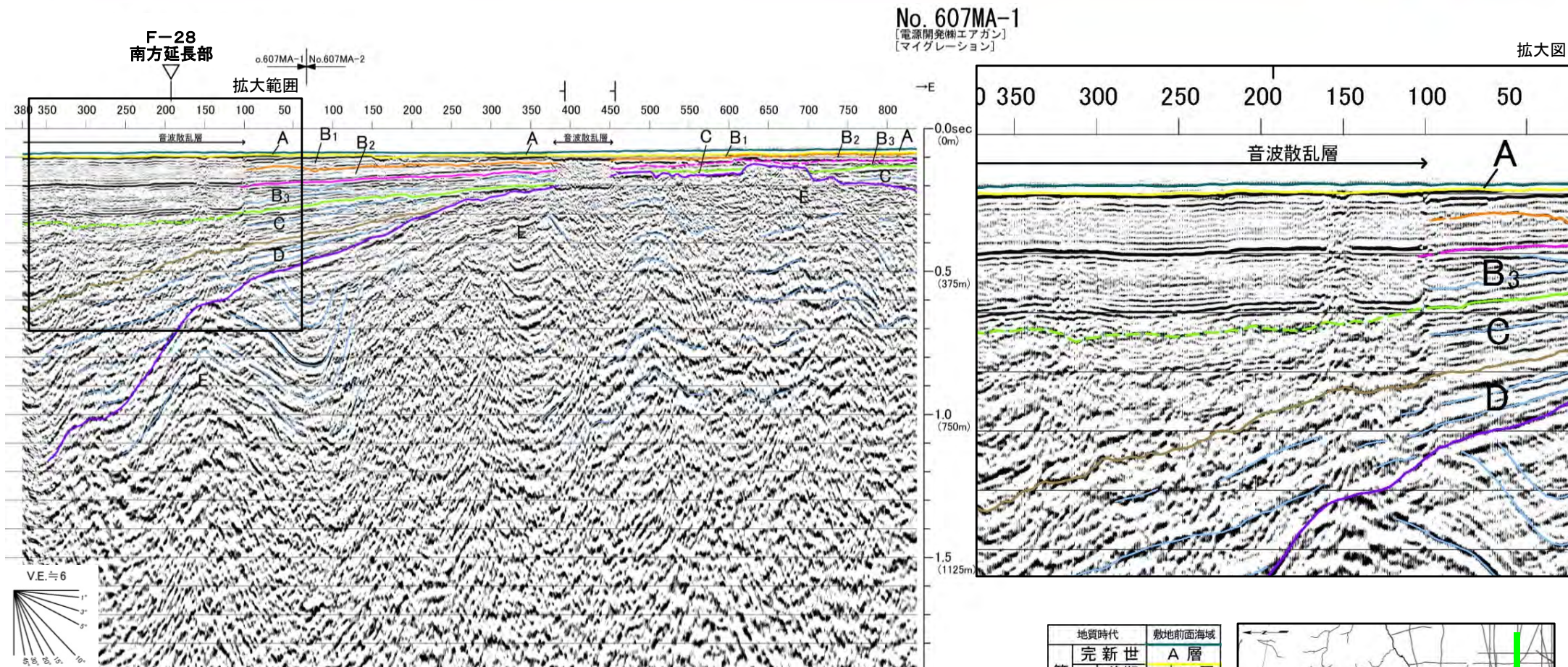
▽ (I) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層  
▽ (II) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置





# 6.1 個別の断層評価(53/61)

## F-28断層～F-31断層(延長部):No.607MA-1測線(F-28断層 南方延長部)



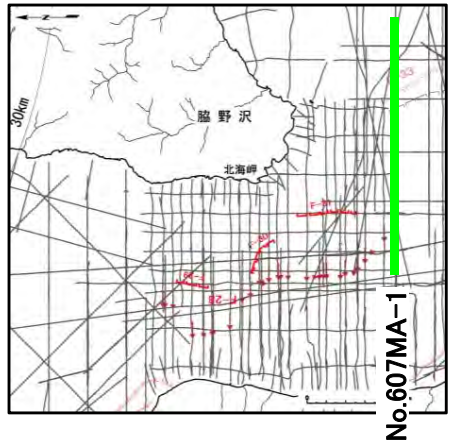
解析結果による当該断層位置及び落下側  
 ( )は他の断層

解析結果による当該断層の延長位置  
 ( )は他の断層の延長位置

- F-28断層南方延長部には、音波散乱層により不明瞭な部分が存在するが、D層及びC層に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。
- F-28断層による断層運動は少なくとも後期更新世以降に及んでいないものと評価する。

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期	B <sub>1</sub> 層
	中期	B <sub>2</sub> 層
	前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		



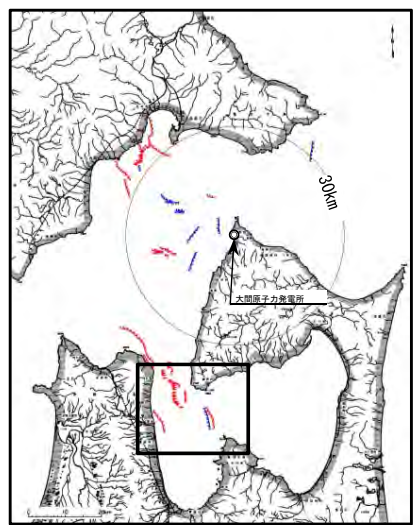
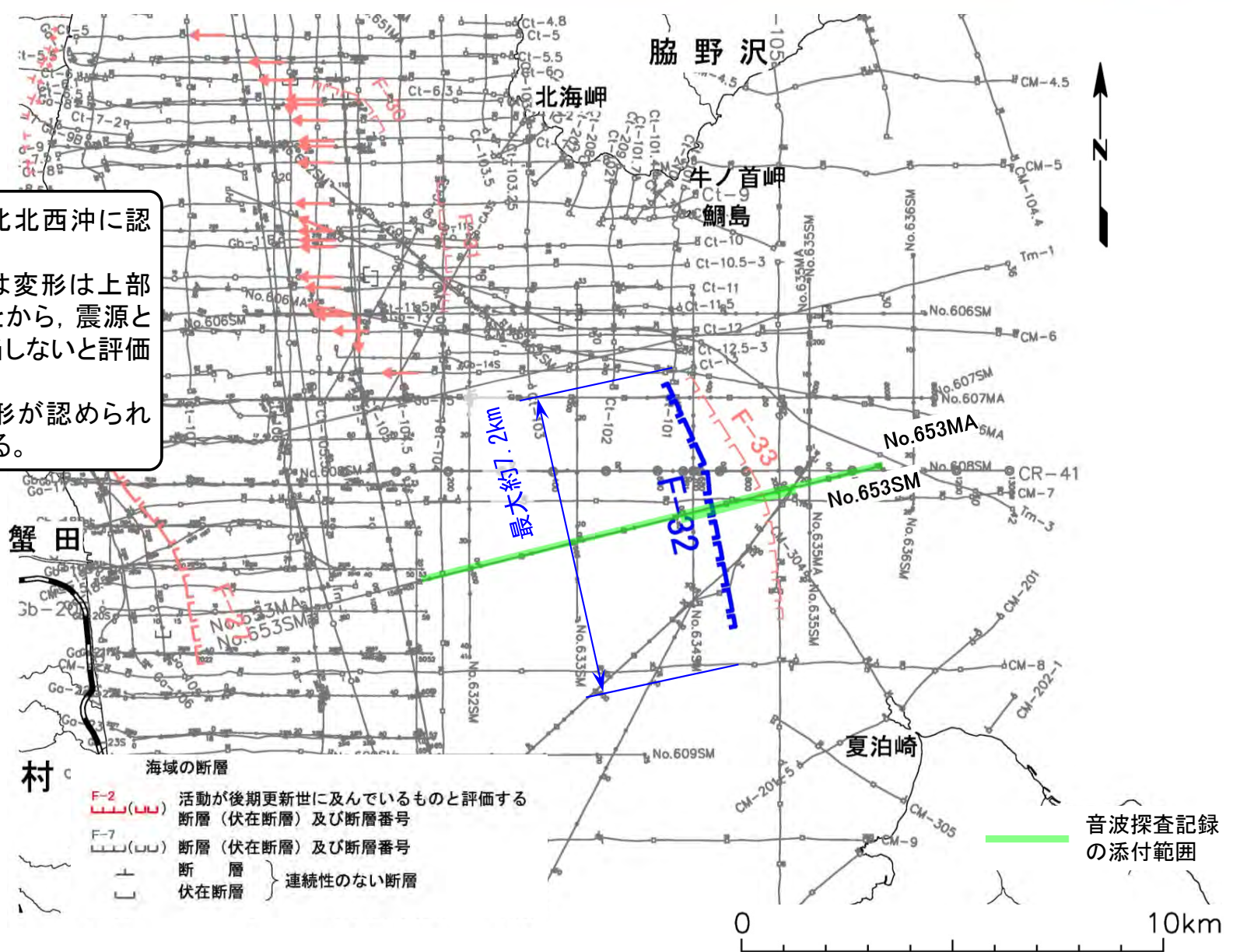
※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層からB<sub>3</sub>層が不明瞭となる。



# 6.1 個別の断層評価(54/61)

## F-32断層: 断層位置及び評価長さ

- F-32断層は、夏泊岬の北北西沖に認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約7.2kmとする。



海域の断層

F-2 (赤) 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層 (伏在断層) 及び断層番号

F-7 (青) 断層 (伏在断層) 及び断層番号

断層 } 連続性のない断層

伏在断層

音波探査記録の添付範囲

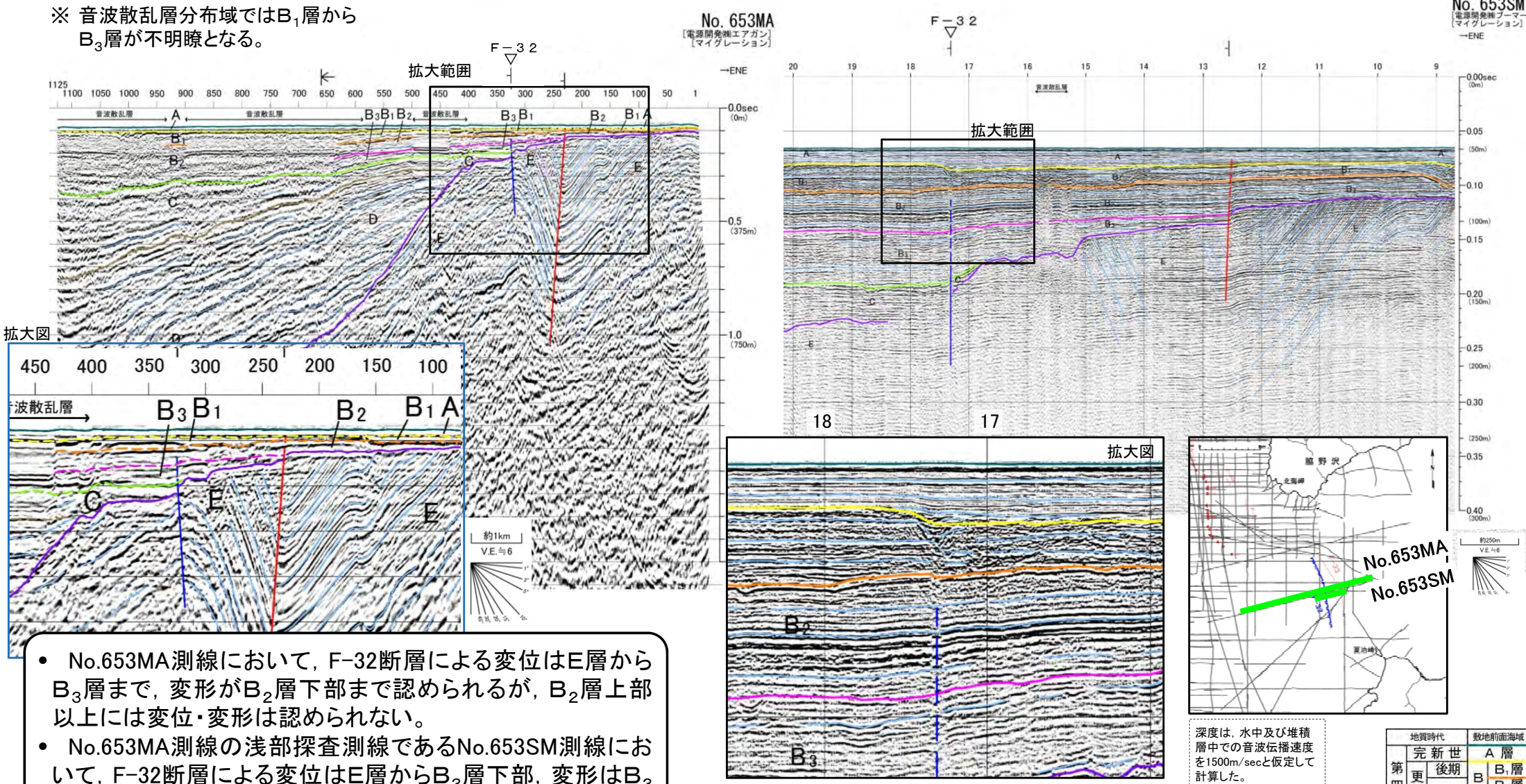




# 6.1 個別の断層評価(55/61)

## F-32断層(主部): No.653MA測線, No.653SM測線

※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層からB<sub>3</sub>層が不明瞭となる。



- No.653MA測線において、F-32断層による変位はE層からB<sub>3</sub>層まで、変形がB<sub>2</sub>層下部まで認められるが、B<sub>2</sub>層上部以上には変位・変形は認められない。
- No.653MA測線の浅部探査測線であるNo.653SM測線において、F-32断層による変位はE層からB<sub>3</sub>層下部、変形はB<sub>3</sub>層上部からB<sub>2</sub>層下部まで認められるが、B<sub>2</sub>層上部以上には変位・変形は認められない。
- 断層運動は少なくとも後期更新世以降に及んでいないと評価する。

(H) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
 ( ) は他の断層  
 (H) 解析結果による当該断層の延長位置  
 ( ) は他の断層の延長位置  
 (H) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層  
 ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

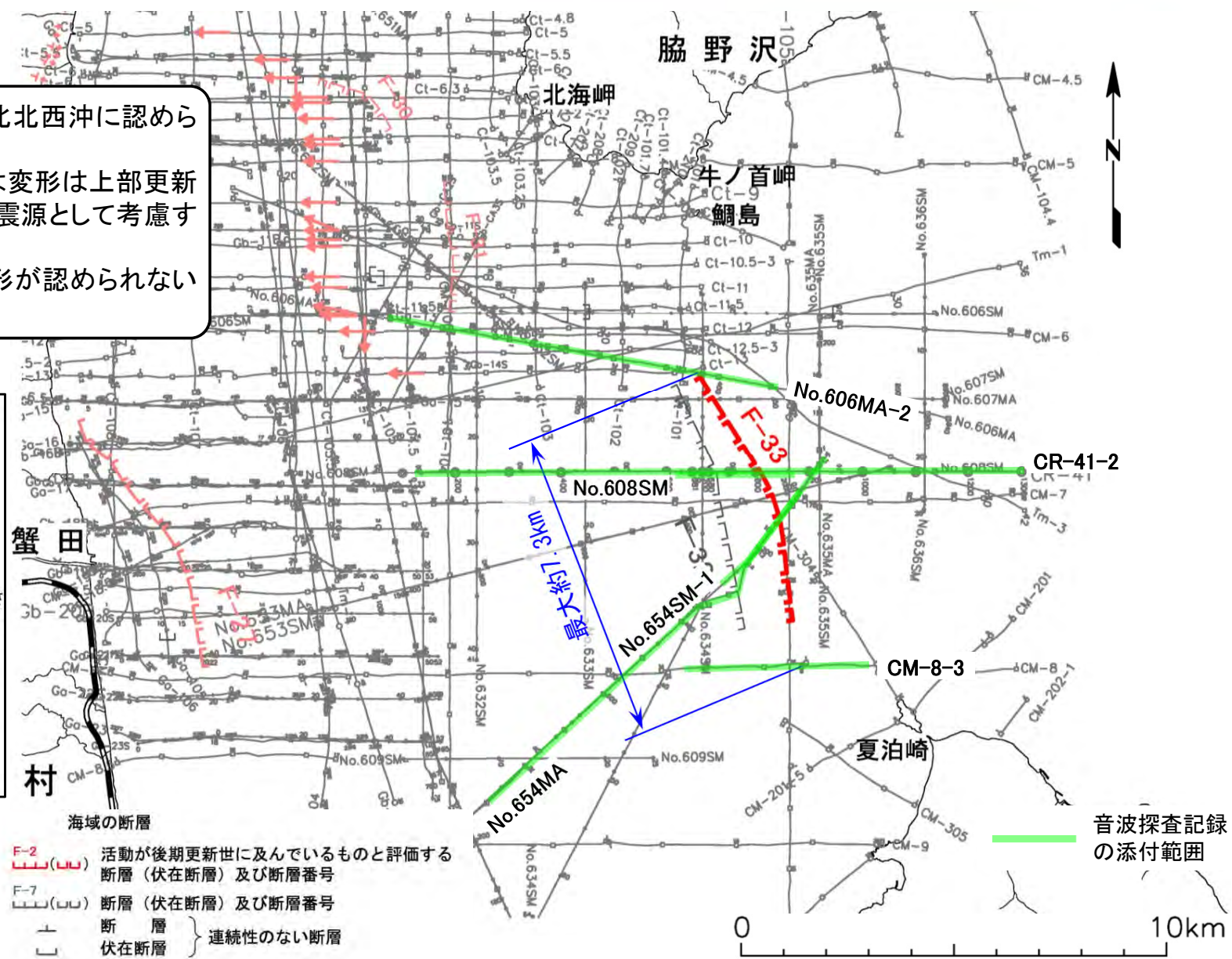
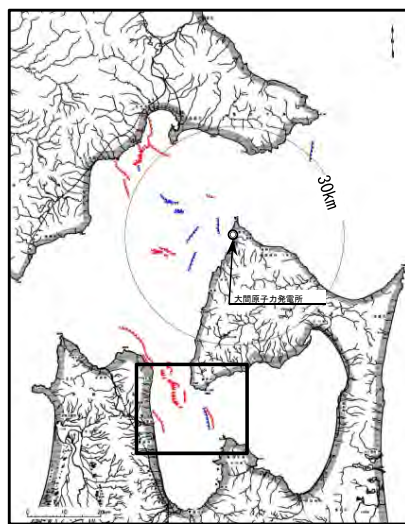
地質時代		敷地前面海域
第四紀	完新世	A層
	後期更新世	B <sub>1</sub> 層
	中期更新世	B <sub>2</sub> 層
更新世	前期	B <sub>3</sub> 層
		C層
新第三紀	鮮新世	D層
	中新世	E層
先新第三紀		



# 6.1 個別の断層評価(56/61)

## F-33断層:断層位置及び評価長さ

- F-33断層は、夏泊岬の北北西沖に認められる断層である。
- 断層運動による変位又は変形は上部更新統に認められることから、震源として考慮する活断層と評価する。
- 評価長さは変位及び変形が認められない測線間の約7.3kmとする。



海域の断層

F-2 (赤線) 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層(伏在断層)及び断層番号

F-7 (黒線) 断層(伏在断層)及び断層番号

— 断層

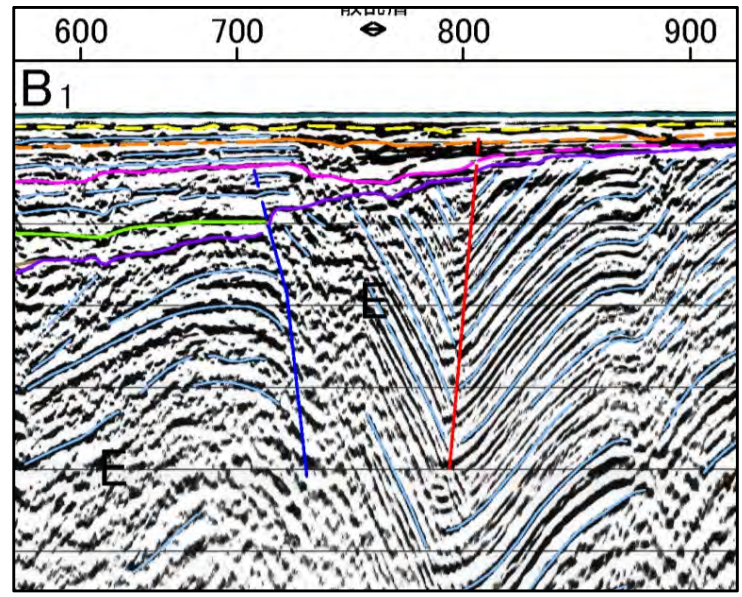
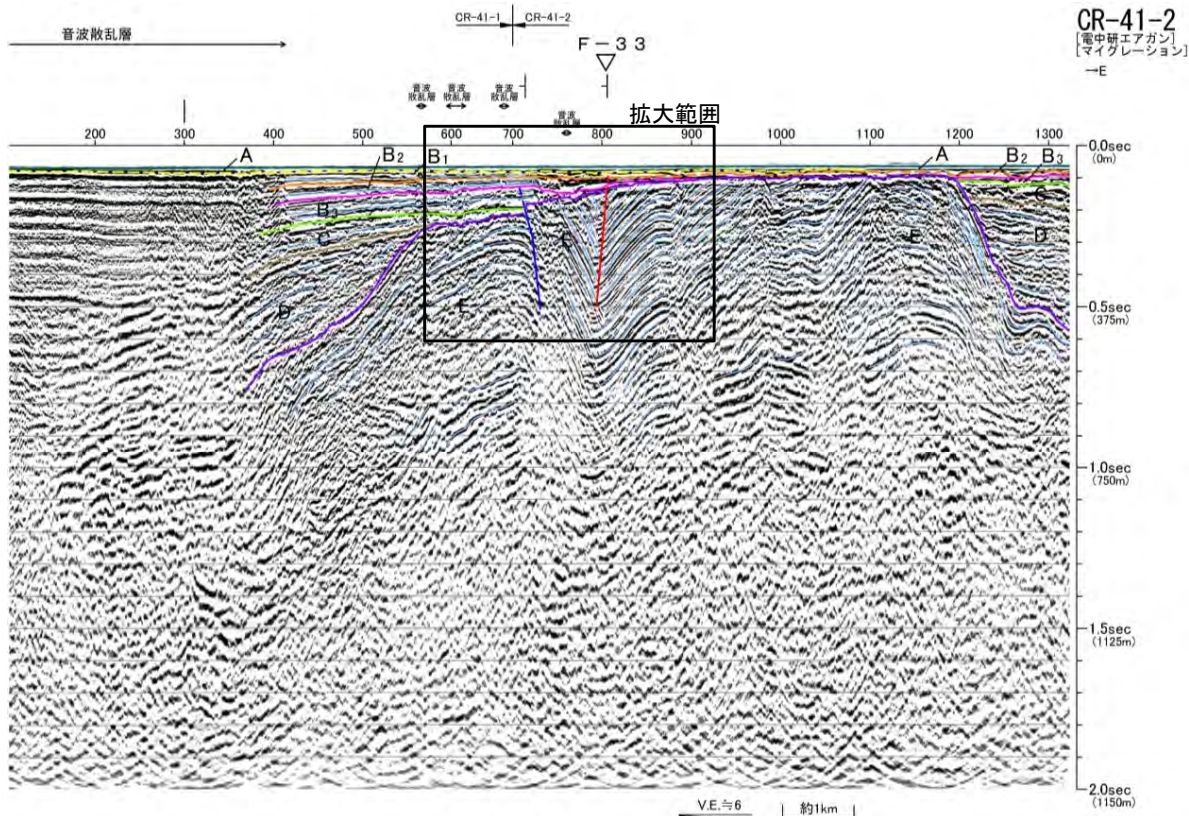
— 伏在断層 } 連続性のない断層

音波探査記録の添付範囲

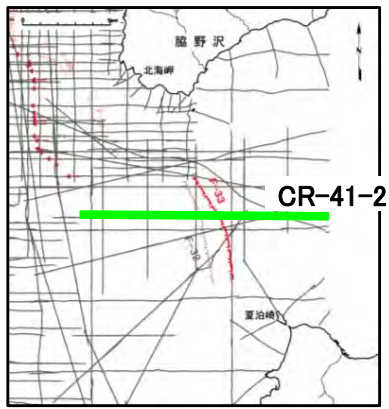


# 6.1 個別の断層評価(57/61)

## F-33断層(主部): CR-41-2測線



拡大図



- ▽(+) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( )は他の断層
- ▽(||) 解析結果による当該断層の延長位置  
( )は他の断層の延長位置
- || (:) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層
- || (:) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層下部以下が判読できない。

● F-33断層による変位がE層からB<sub>3</sub>層下部まで認められ、変形がB<sub>3</sub>層上部からB<sub>1</sub>層下部まで認められる。

● 断層運動は後期更新世以降に及ぶと評価する。

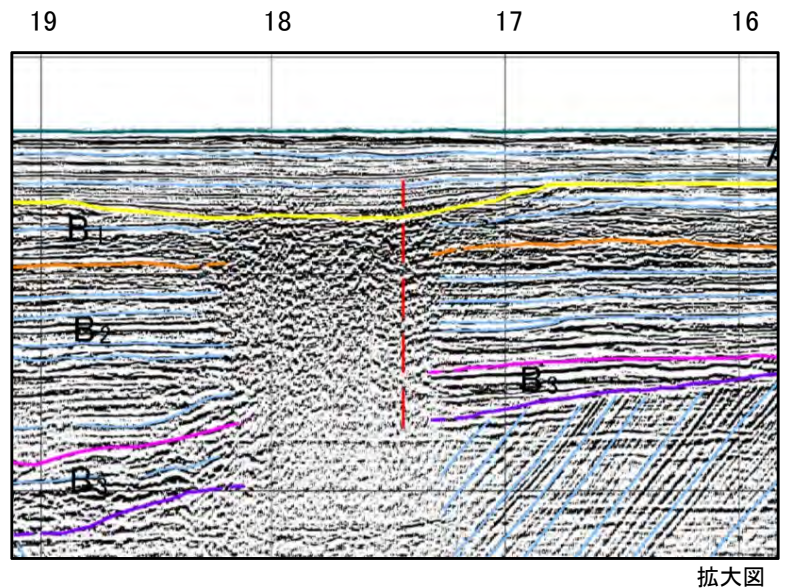
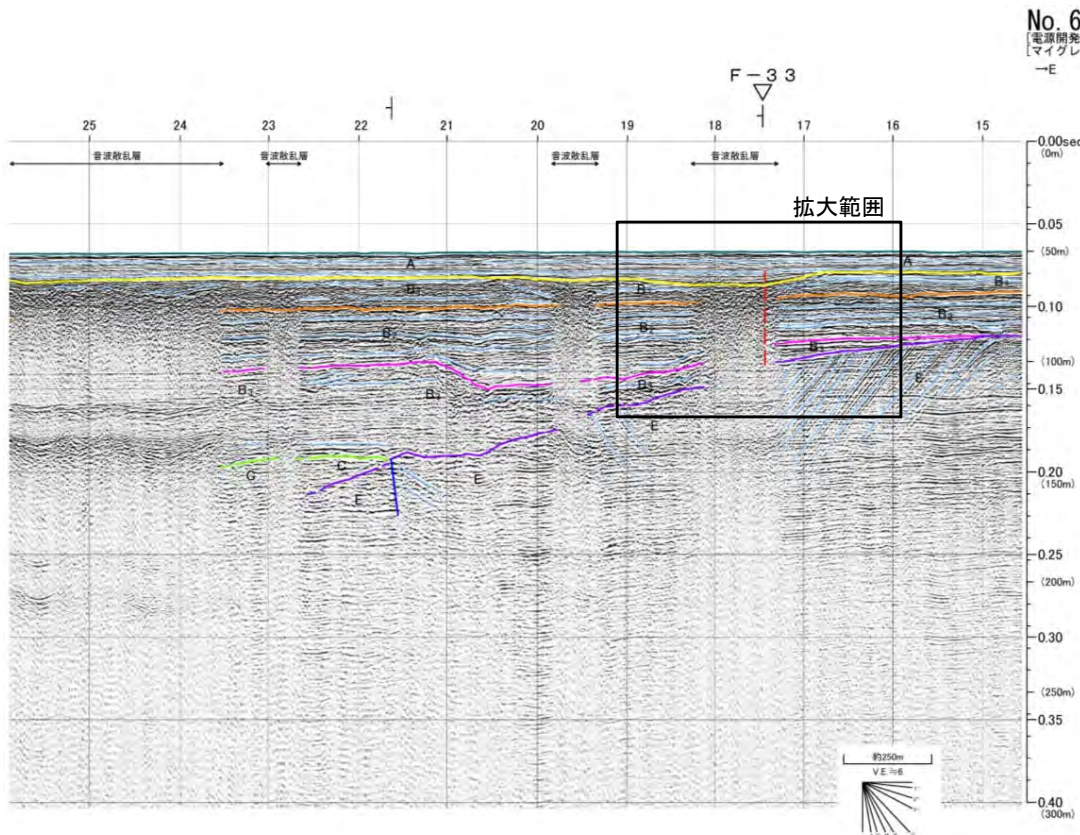
深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		E層	
先新第三紀			



# 6.1 個別の断層評価(58/61)

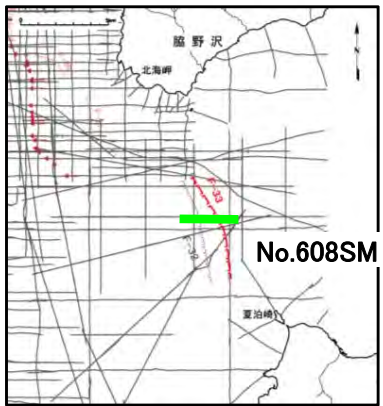
## F-33断層(主部): No.608SM測線



※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層下部以下が判読できない。

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

- No.608SM測線はCR-41-2測線の浅部探査記録である。
- F-33断層による変形が少なくともB<sub>1</sub>層からA層下部まで認められる。
- 断層運動は後期更新世以降に及ぶと評価する。



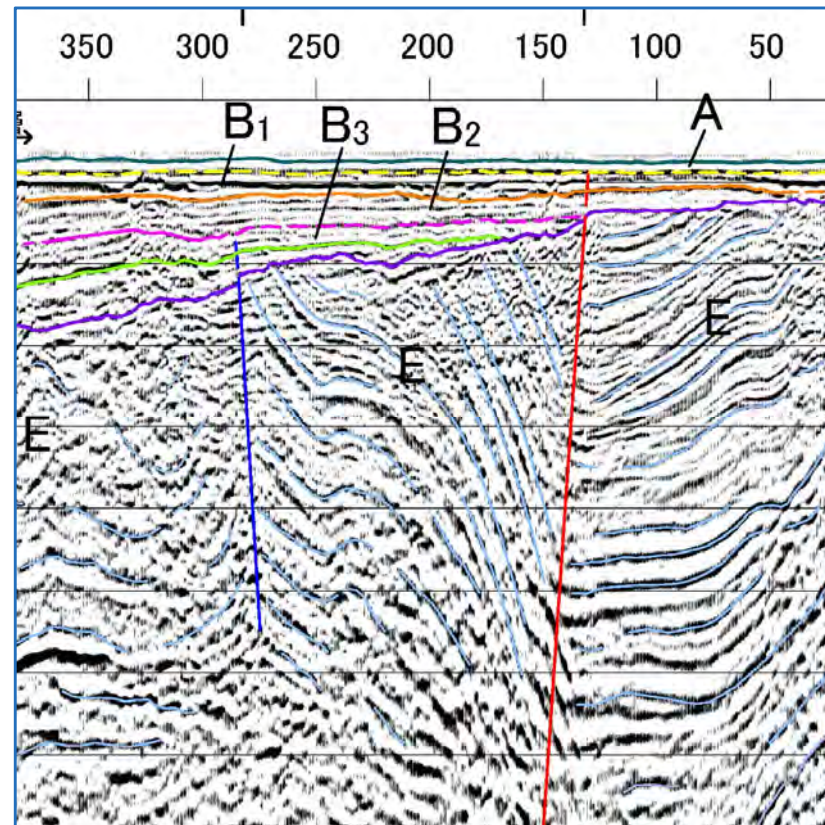
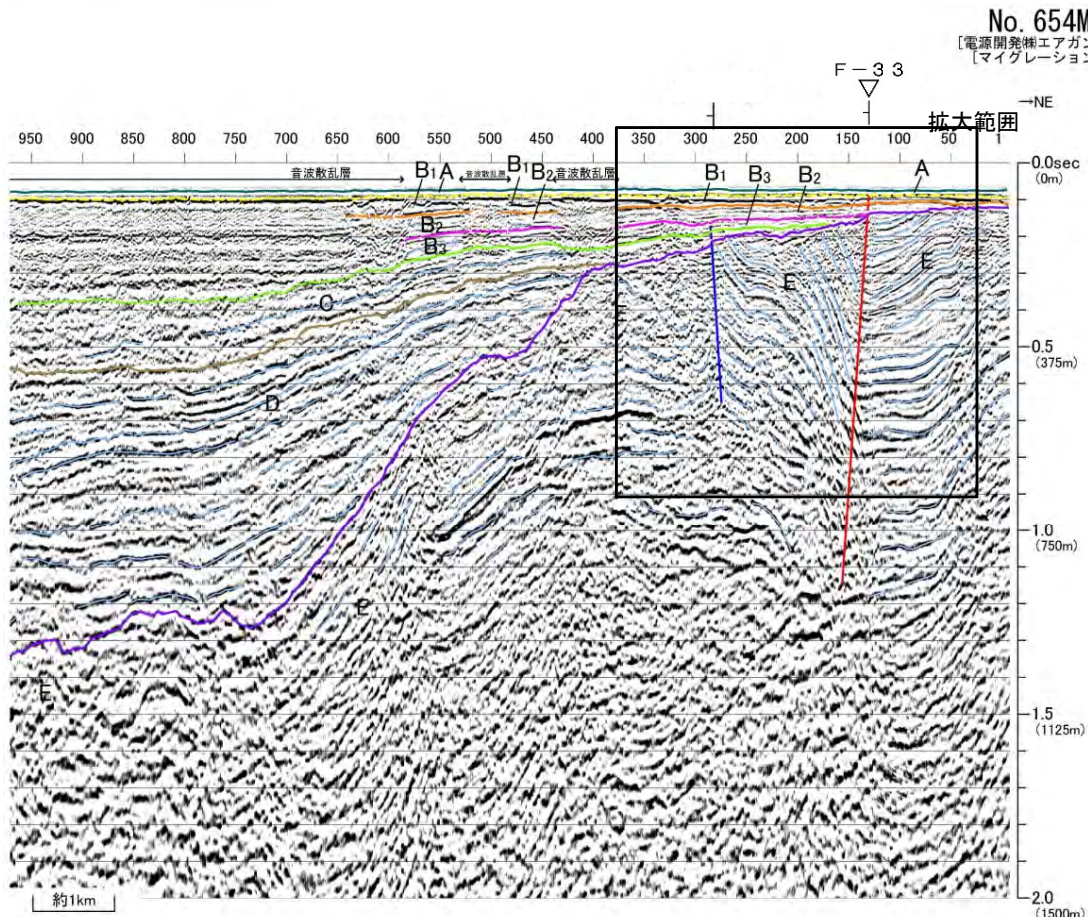
- ▽(+) 解析結果による当該断層位置及び落下側 ( )は他の断層
- ▽(||) 解析結果による当該断層の延長位置 ( )は他の断層の延長位置
- || (red) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層
- || (blue) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

地質時代	数地前面海域
第四紀	完新世 A層
	後期 B <sub>1</sub> 層
	中期 B <sub>2</sub> 層
	前期 B <sub>3</sub> 層
第三紀	C層
	D層
先第三紀	E層



# 6.1 個別の断層評価(59/61)

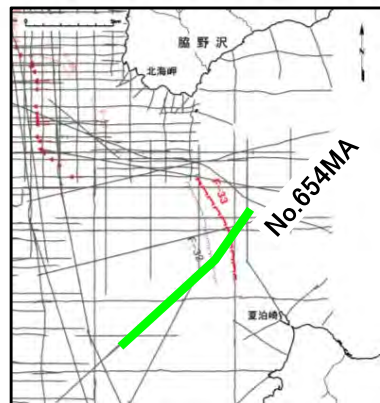
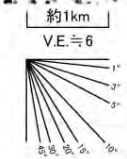
## F-33断層(主部): No.654MA測線



拡大図

※ 音波散乱層分布域ではB<sub>1</sub>層からB<sub>3</sub>層が不明瞭となる。

深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。



解析結果による当該断層位置及び落下側 ( ) は他の断層

- | 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層
- | 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

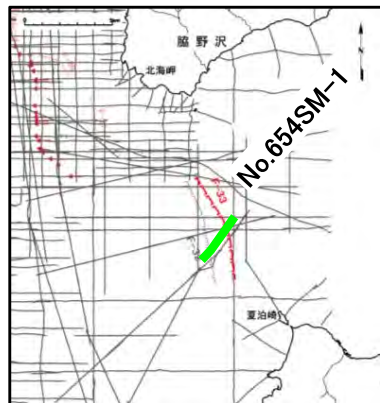
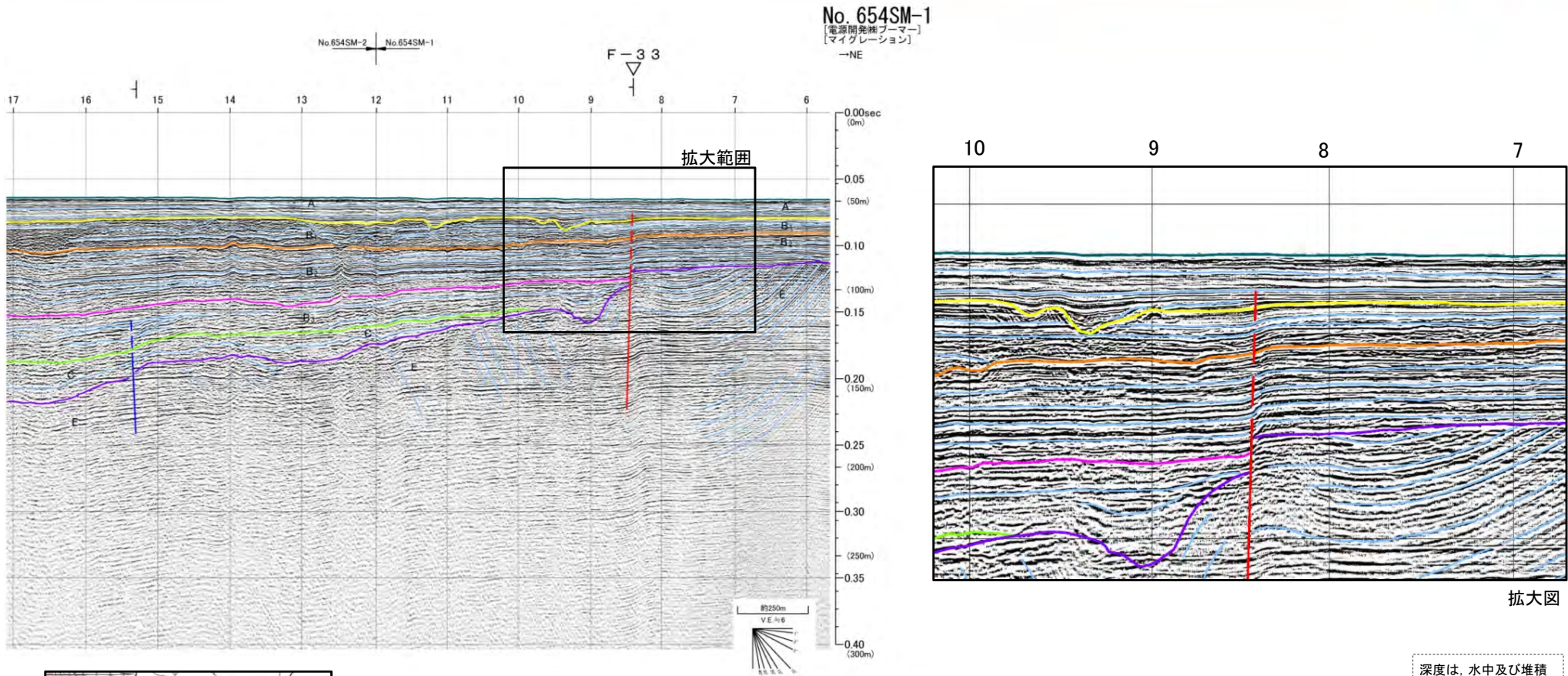
• F-33断層による変位がE層からB<sub>3</sub>層まで、変形がB<sub>2</sub>層下部からA層下部まで認められる。  
• 断層運動は後期更新世以降に及ぶと評価する。

地質時代		数地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B <sub>1</sub> 層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	C層	
	中新世	D層	
		E層	
先新第三紀			



# 6.1 個別の断層評価(60/61)

## F-33断層(主部): No.654SM-1測線



- ▽(+) 解析結果による当該断層位置及び落下側  
( )は他の断層
- || ( ) 上部更新統にまで変位(変形)が及ぶ断層
- || ( ) 上部更新統には変位(変形)が及ばない断層

- No.654SM-1測線はNo.654MA測線の浅部探査測線である。
- F-33断層による変位がE層からB<sub>2</sub>層下部まで、変形がB<sub>2</sub>層下部からA層下部まで認められる。
- 断層運動は後期更新世以降に及ぶと評価する。

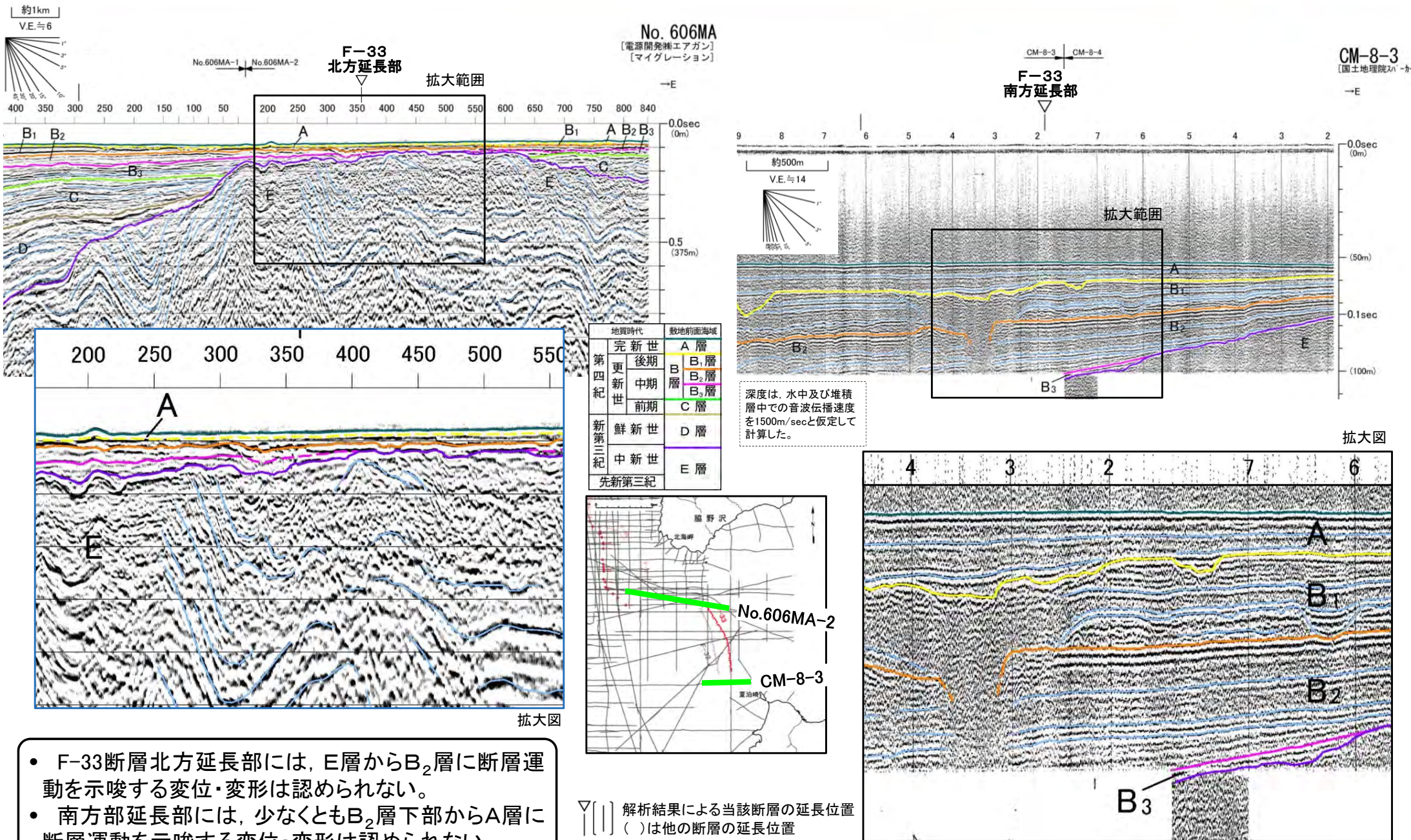
深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		敷地前面海域	
第四紀	完新世	A層	
	更新世	後期	B層
		中期	B <sub>2</sub> 層
		前期	B <sub>3</sub> 層
新第三紀	鮮新世	D層	
	中新世	E層	
			先新第三紀



# 6.1 個別の断層評価(61/61)

## F-33断層(延長部): No.606MA-2測線(北方延長部), CM-8-3測線(南方延長部)



- F-33断層北方延長部には、E層からB<sub>2</sub>層に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。
- 南方部延長部には、少なくともB<sub>2</sub>層下部からA層に断層運動を示唆する変位・変形は認められない。



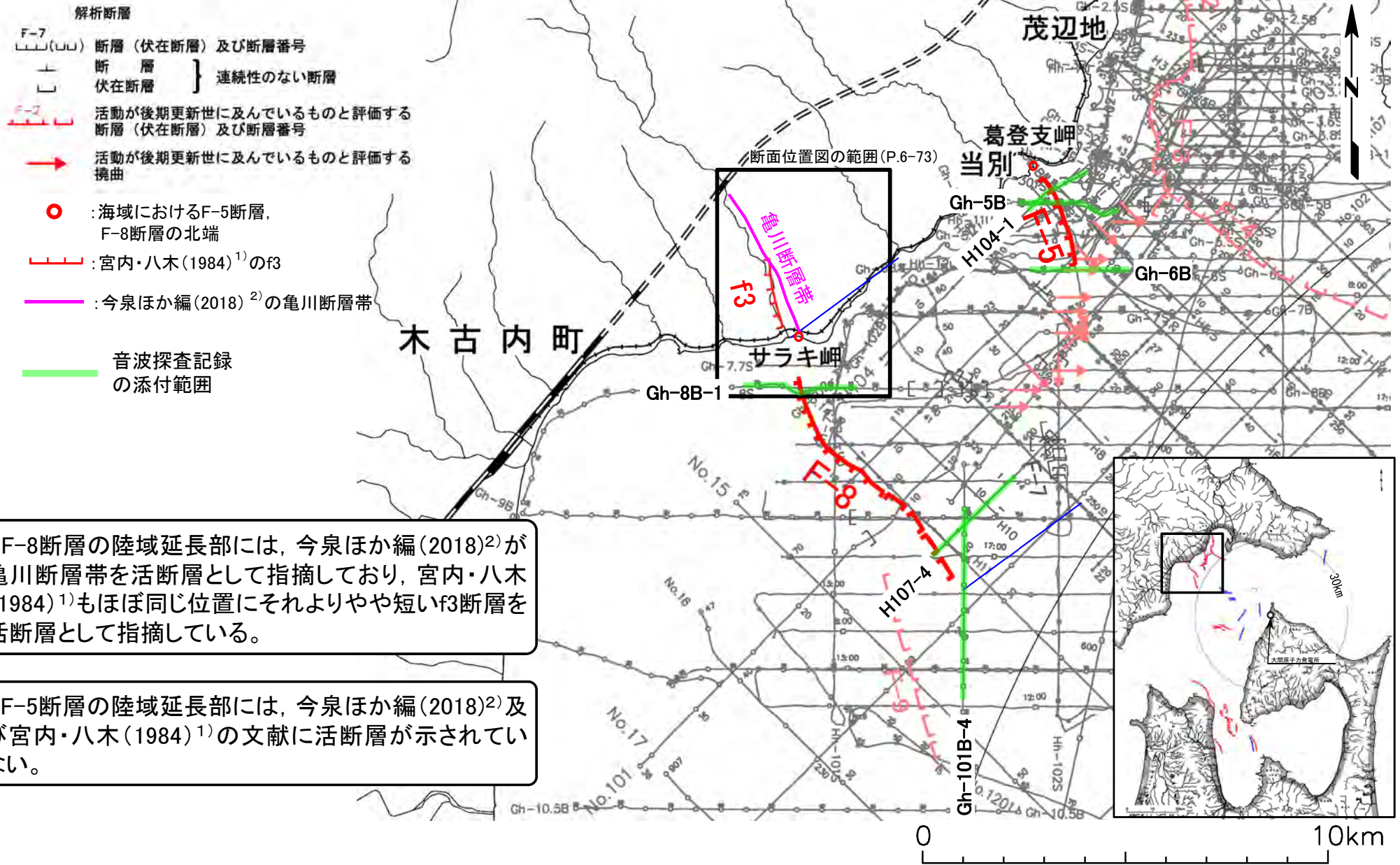
## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価

1. 地質構造に関する調査	..... 1-1	8. 沿岸の隆起傾向に関する調査	..... 8-1
2. 敷地極近傍の断層評価	..... 2-1	9. 内陸の隆起傾向に関する調査	..... 9-1
3. 敷地周辺の断層評価に係る基礎資料	..... 3-1	10. 完新世の海岸侵食地形に関する調査	.....10-1
4. 周辺陸域の断層評価(30kmまで)	..... 4-1	11. 海域の変動履歴の評価	.....11-1
5. 周辺陸域の断層評価(30km以遠)に係る基礎資料	..... 5-1	12. 地質構造発達史の評価	.....12-1
6. 敷地前面海域の断層評価(概ね30kmまで)	..... 6-1	13. 隆起のメカニズム評価	.....13-1
6.1 個別の断層評価	..... 6-1		
6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価	..... 6-69		
6.3 連続性のない断層	..... 6-77		
7. 外側海域の断層評価(概ね30km以遠)	..... 7-1		



## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価 (1/6)

### F-5断層, F-8断層: 断層位置



• F-8断層の陸域延長部には、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>が亀川断層帯を活断層として指摘しており、宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>もほぼ同じ位置にそれよりやや短いf3断層を活断層として指摘している。

• F-5断層の陸域延長部には、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>及び宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>の文献に活断層が示されていない。

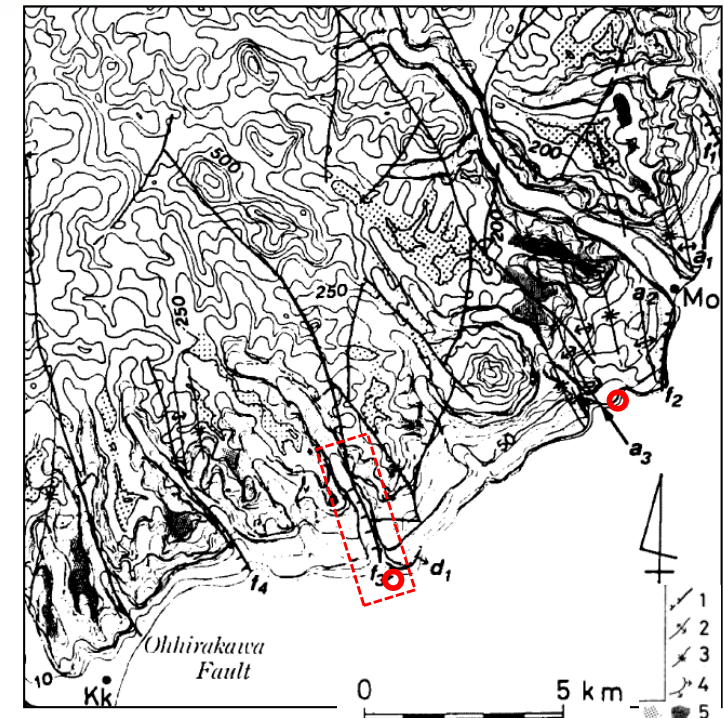


## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価 (2/6)

### 宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>「松前半島東岸の海成段丘と第四紀地殻変動」

#### V. 海成段丘の変位および基盤の地質構造と地殻変動

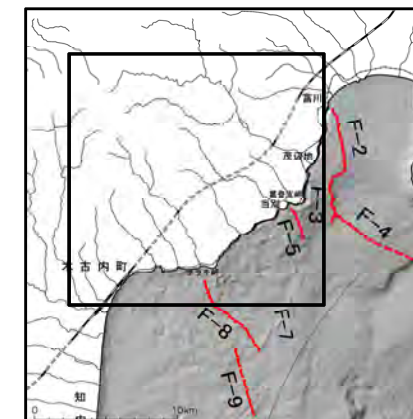
- M<sub>1</sub>面の旧汀線高度分布は、f3, f4断層をはさんでの著しい高度不連続を境として3区間に分かれる。f3断層以東の高度の大きい区間(64~80m), f4断層以南の高度の小さい区間(15~23m), f3断層とf4断層にはさまれた、段丘面が著しく西傾斜する区間(53→40m)である。このような高度分布パターンはおよそH<sub>1</sub>面にも現われ、f3断層をはさんでの著しい高度不連続はH<sub>2</sub>面、M<sub>2</sub>面にもみられる。
- f3断層, f4断層は地質調査によって知られている断層であるが、両断層をはさんで旧汀線高度に著しい不連続がみられ、段丘形成後にも活動した断層である。f3断層をはさんでの旧汀線の高度差はH<sub>1</sub>面が40m, H<sub>2</sub>面が15m, M<sub>1</sub>面が22m, M<sub>2</sub>面が17mである。M<sub>1</sub>面, M<sub>2</sub>面の高度差がH<sub>2</sub>面のそれより大きいのはサラキ岬の半ドーム状の隆起運動を被っているためであり、f3断層の活動による変位はおよそ累積してきたようである。f4断層をはさんでM<sub>1</sub>面の旧汀線には17mの高度差があるが、M<sub>1</sub>面以外に段丘が分布していないので変位の累積性等について詳しいことはわからない。



第2図 調査地域周辺の地形概要(500m埋谷接峰面, 等高線間隔は50mで、高度150m以下では10m) 1. 断層(f<sub>1</sub>~f<sub>5</sub>は活断層), 2. 背斜軸(a<sub>1</sub>~a<sub>3</sub>は活褶曲), 3. 向斜軸, 4. 半ドーム構造(d<sub>1</sub>), 5. 丘陵背面, Kk: 木古内, Mo: 茂辺地

- F-8断層の陸域延長部において、宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>は、活断層としてNNW-SSE走向のf3断層を指摘しており、f3断層を挟んで、H<sub>1</sub>面、H<sub>2</sub>面、M<sub>1</sub>面、M<sub>2</sub>面の段丘面の旧汀線高度に著しい不連続が認められるとしている。

- F-5断層の陸域延長部において、宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>は、活断層を示していない。



☐: 文献によるf3断層

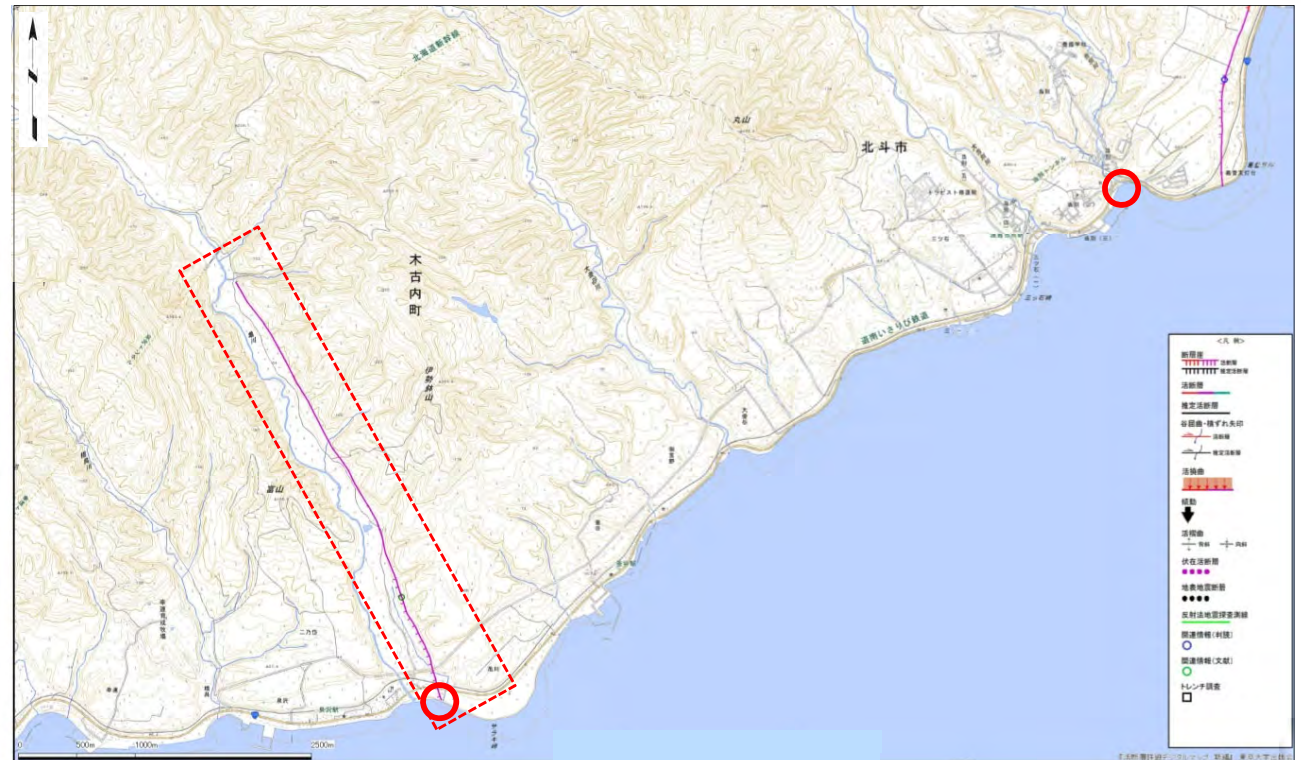
●: 海域におけるF-5断層, F-8断層の北端



## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価 (3/6)

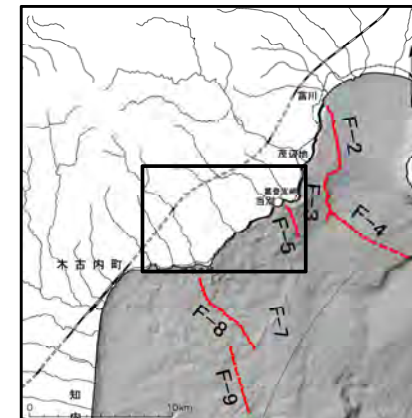
### 今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>「活断層詳細デジタルマップ[新編]」

0190 かめかわ 亀川断層帯  
きこない  
 亀川断層帯は、木古内町亀川沿いにサラキ岬付近にある、長さ約4 kmの北北西-南南東方向に延びる東側隆起の逆断層帯である。サラキ岬から南方の海底活断層に連続すると推定されている。本断層帯を境に東側と西側では海岸段丘面の高度が不連続であるが、断層の詳細な位置や活動度・活動履歴に関しては不明である。



- F-8断層の陸域延長部では、前頁の宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>のほか、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>が、活断層としてNNW-SSE走向、東側隆起の亀川断層帯を指摘しており、亀川断層帯を挟んで、東側と西側では段丘面の高度が不連続であるとしている。

- F-5断層の陸域延長部において、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>は活断層を示していない。



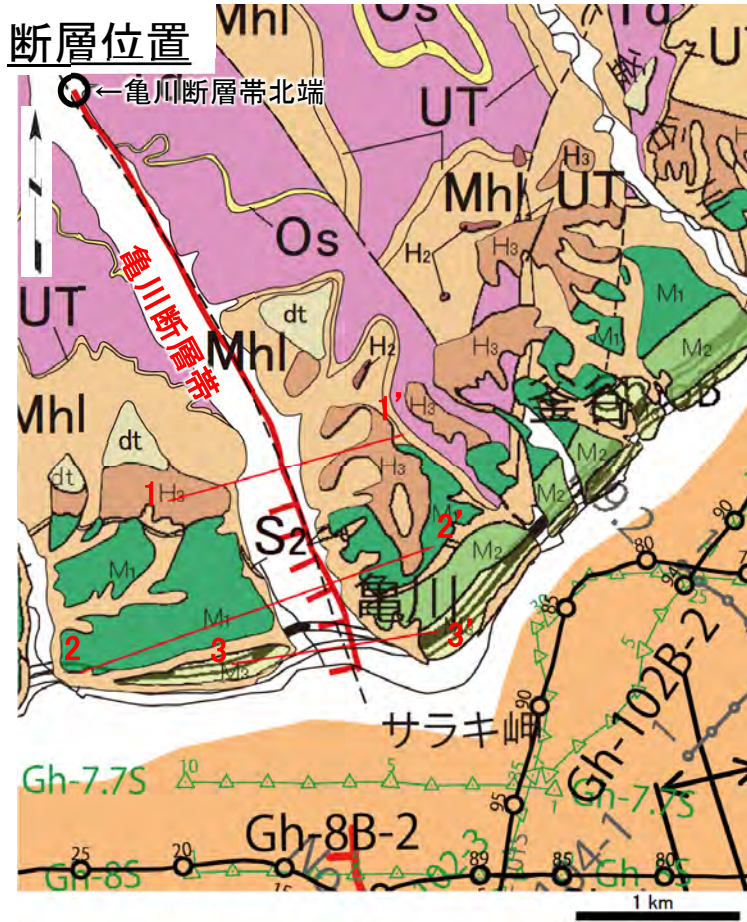
⬜ : 文献による亀川断層帯

○ : 海域におけるF-5断層, F-8断層の北端

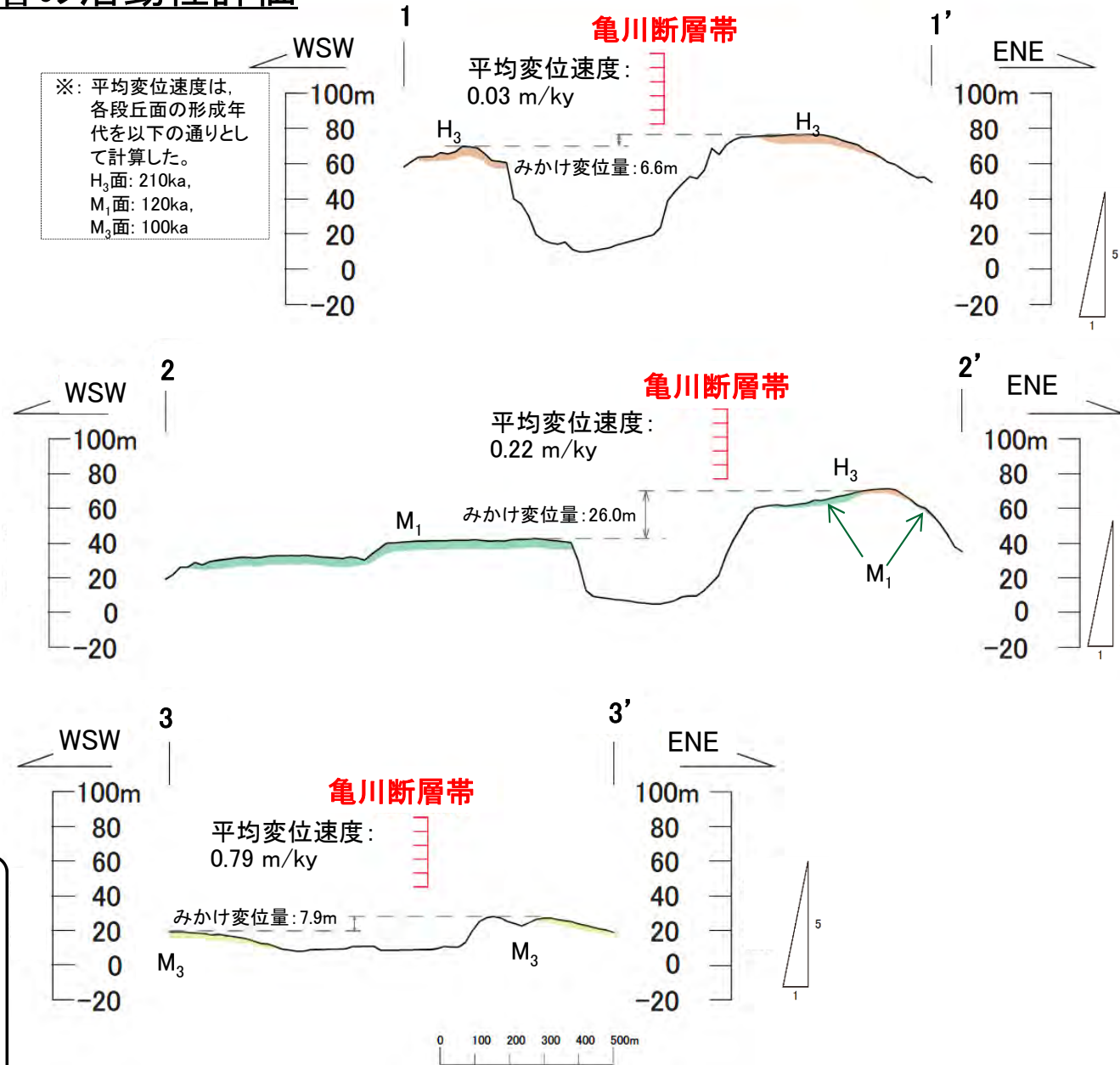


## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価 (4/6)

### F-8断層の陸域延長の評価(1/2) 断層の活動性評価



※: 平均変位速度は、各段丘面の形成年代を以下の通りとして計算した。  
 H<sub>3</sub>面: 210ka,  
 M<sub>1</sub>面: 120ka,  
 M<sub>3</sub>面: 100ka



凡例は、補足説明資料「3.4 敷地前面海域の地層の年代評価」(P.3-27)を参照。

- F-8断層の陸域延長の評価にあたり、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>の亀川断層帯を横断して地形断面を作成し、亀川断層帯を挟んだH<sub>3</sub>面、M<sub>1</sub>面及びM<sub>3</sub>面の段丘面の高度分布から平均変位速度を計算した。
- その結果、亀川断層帯の平均変位速度は、海岸のM<sub>3</sub>面で0.79m/ky、M<sub>1</sub>面で0.22m/ky、山側のH<sub>3</sub>面で0.03m/kyであり、海側から山側に向かって収束傾向が認められた。

今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>の亀川断層帯の地形断面

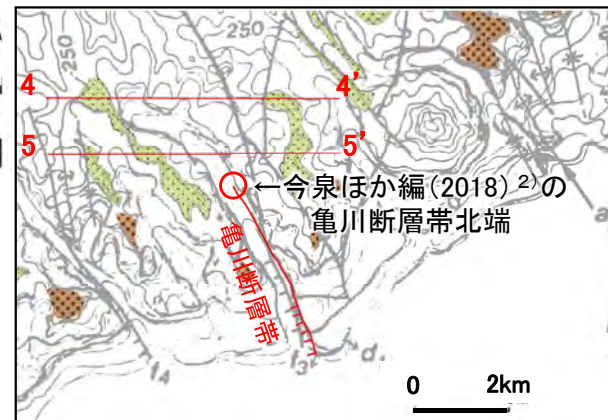


## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価 (5/6)

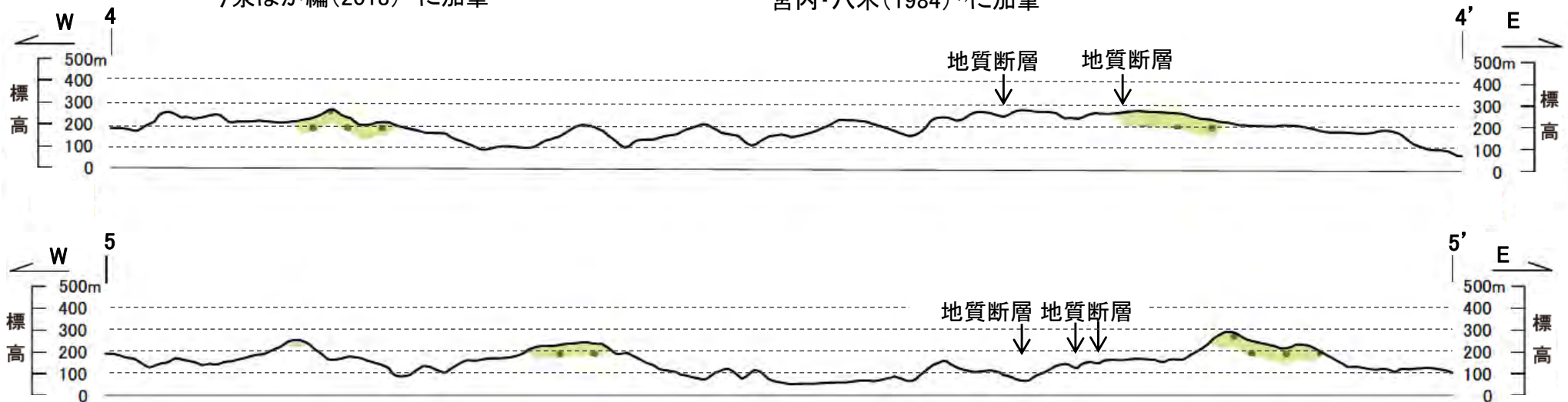
### F-8断層の陸域延長の評価(2/2) 断層北端の評価



今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>に加筆



宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>に加筆

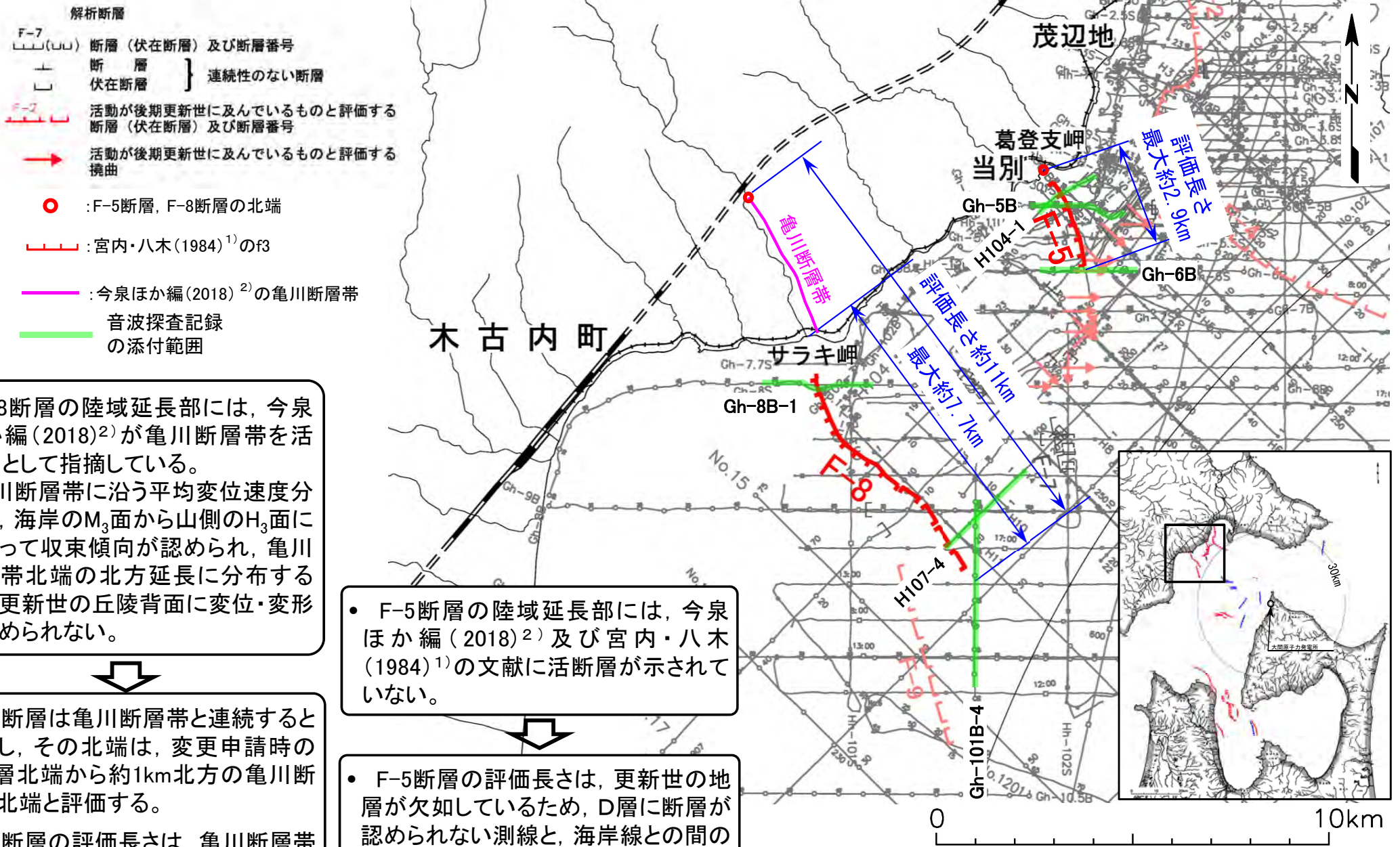


- 今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>は、亀川断層帯北端の北方に活断層を示していない。
- 宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>によると、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>の亀川断層帯北端の北方延長には、地質断層が分布し、地質断層を挟んで中期更新世に形成された起伏を伴う丘陵背面が分布するとしている。
- 丘陵背面は侵食を受けて起伏しており、その分布標高は、地質断層の西側では約200~280m, 東側では約200~300mで、概ね同じ程度と判断され、亀川断層帯のような西側が落下する変動地形は認められない。



## 6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価 (6/6)

### F-5断層, F-8断層: 断層位置及び評価長さ

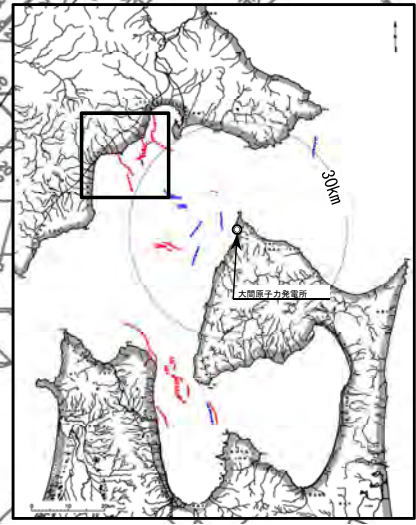


- F-8断層の陸域延長部には、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>が亀川断層帯を活断層として指摘している。
- 亀川断層帯に沿う平均変位速度分布は、海岸のM<sub>3</sub>面から山側のH<sub>3</sub>面に向かって収束傾向が認められ、亀川断層帯北端の北方延長に分布する中期更新世の丘陵背面に変位・変形は認められない。

- F-8断層は亀川断層帯と連続すると評価し、その北端は、変更申請時のf3断層北端から約1km北方の亀川断層帯北端と評価する。
- F-8断層の評価長さは、亀川断層帯を合わせた約11kmとする。

- F-5断層の陸域延長部には、今泉ほか編(2018)<sup>2)</sup>及び宮内・八木(1984)<sup>1)</sup>の文献に活断層が示されていない。

- F-5断層の評価長さは、更新世の地層が欠如しているため、D層に断層が認められない測線と、海岸線との間の約2.9kmとする。



0 10km



(余白)



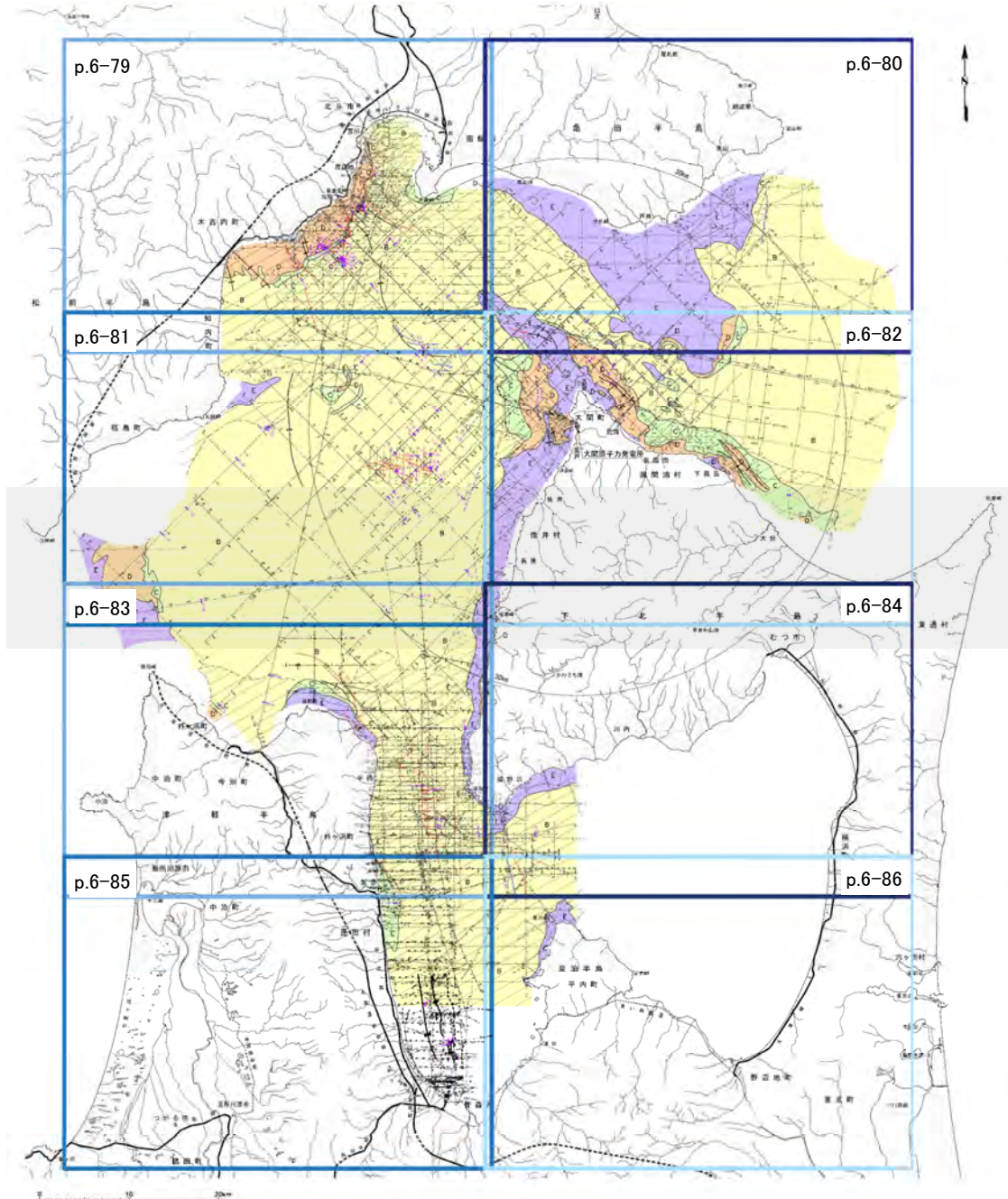
## 6.3 連続性のない断層

1. 地質構造に関する調査	..... 1-1	8. 沿岸の隆起傾向に関する調査	..... 8-1
2. 敷地極近傍の断層評価	..... 2-1	9. 内陸の隆起傾向に関する調査	..... 9-1
3. 敷地周辺の断層評価に係る基礎資料	..... 3-1	10. 完新世の海岸侵食地形に関する調査	.....10-1
4. 周辺陸域の断層評価(30kmまで)	..... 4-1	11. 海域の変動履歴の評価	.....11-1
5. 周辺陸域の断層評価(30km以遠)に係る基礎資料	..... 5-1	12. 地質構造発達史の評価	.....12-1
6. 敷地前面海域の断層評価(概ね30kmまで)	..... 6-1	13. 隆起のメカニズム評価	.....13-1
6.1 個別の断層評価	..... 6-1		
6.2 F-5断層, F-8断層の陸域延長の評価	..... 6-69		
6.3 連続性のない断層	..... 6-77		
7. 外側海域の断層評価(概ね30km以遠)	..... 7-1		



# 6.3 連続性のない断層(1/9)

## 敷地前面海域における連続性のない断層の位置:全体図



- 凡 例
- 電源開発(株)によるマルチチャンネル音波探査測線 (エアガン)
  - (定置式・エアガン、ウォーターガン) (フーマー)
  - 電源開発(株)によるシングルチャンネル音波探査測線 (スパーカー) (ウォーターガン) (フーマー、磁気操動式)
  - 電源開発(株)による屈折法探査測線 (受信点) (発探点)
  - 旧日本原子力研究開発事業団によるシングルチャンネル音波探査測線 (スパーカー)
  - 東北電力(株)・東北電力(株)によるマルチチャンネル音波探査測線 (G1ガン、ウォーターガン)
  - 地質調査所によるシングルチャンネル音波探査測線 (エアガン)
  - 海上保安庁水産部によるシングルチャンネル音波探査測線 (エアガン) (スパーカー) (ユニブーム)
  - 石油公団(石油開発公団)(現(株)石油天然ガス・金属鉱物資源機構)によるマルチチャンネル音波探査測線 (エアガン)
  - 産業技術総合研究所・北海道立総合研究機構による音波探査測線 (フーマー・マルチチャンネル) (パラメトリック・シングルチャンネル)
  - 産業技術総合研究所・東海大学による音波探査測線 (フーマー・シングルチャンネル) (パラメトリック・シングルチャンネル)
  - 産業技術総合研究所によるシングルチャンネル音波探査測線 (フーマー)
  - 国土院によるシングルチャンネル音波探査測線 (スパーカー) 『陸奥湾』 『宇都宮湾』
  - 東京大学海洋研究所によるマルチチャンネル音波探査測線 (ウォーターガン)
  - 電力中央研究所によるマルチチャンネル音波探査測線 (エアガン)
  - 採 泥 点
  - 海上ボーリング地点
- 
- A 層 分布域
  - B 層
  - C 層
  - D 層
  - E 層
  - 断 層 — 連続性のない断層
  - 伏在断層 —
  - 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する断層(伏在断層)及び断層番号
  - 活動が後期更新世に及んでいるものと評価する積層
  - 活動が後期更新世に及ばないものと評価する断層(伏在断層)及び断層番号
  - ← 積 層
  - 背 斜 軸
  - 向 斜 軸
  - 地層境界(破線は推定)
  - [A層を除いた地質図]

・敷地前面海域における連続性のない断層の分布位置を示す。  
・海上音探記録は「机上配布資料」に示す。

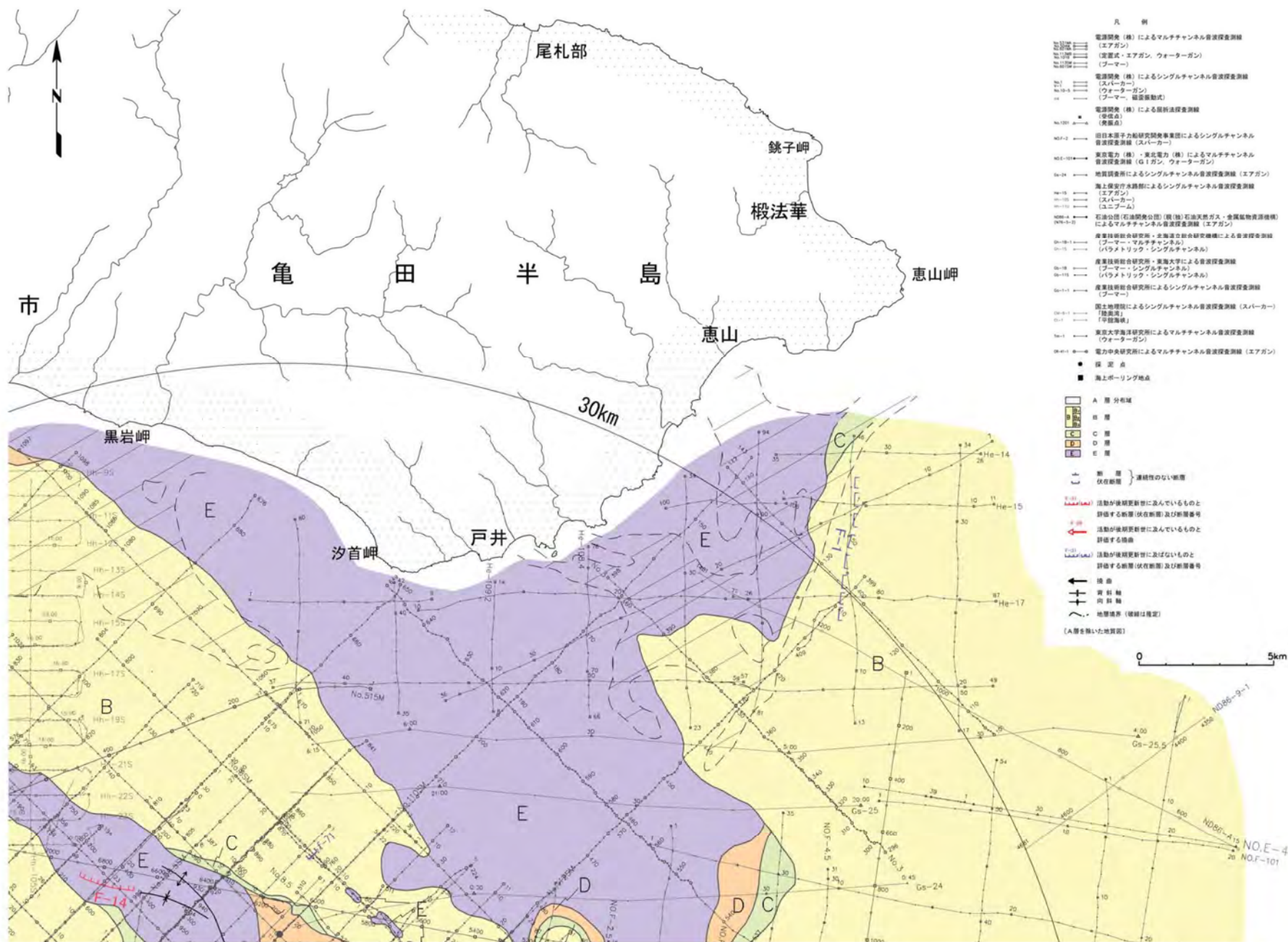






# 6.3 連続性のない断層(3/9)

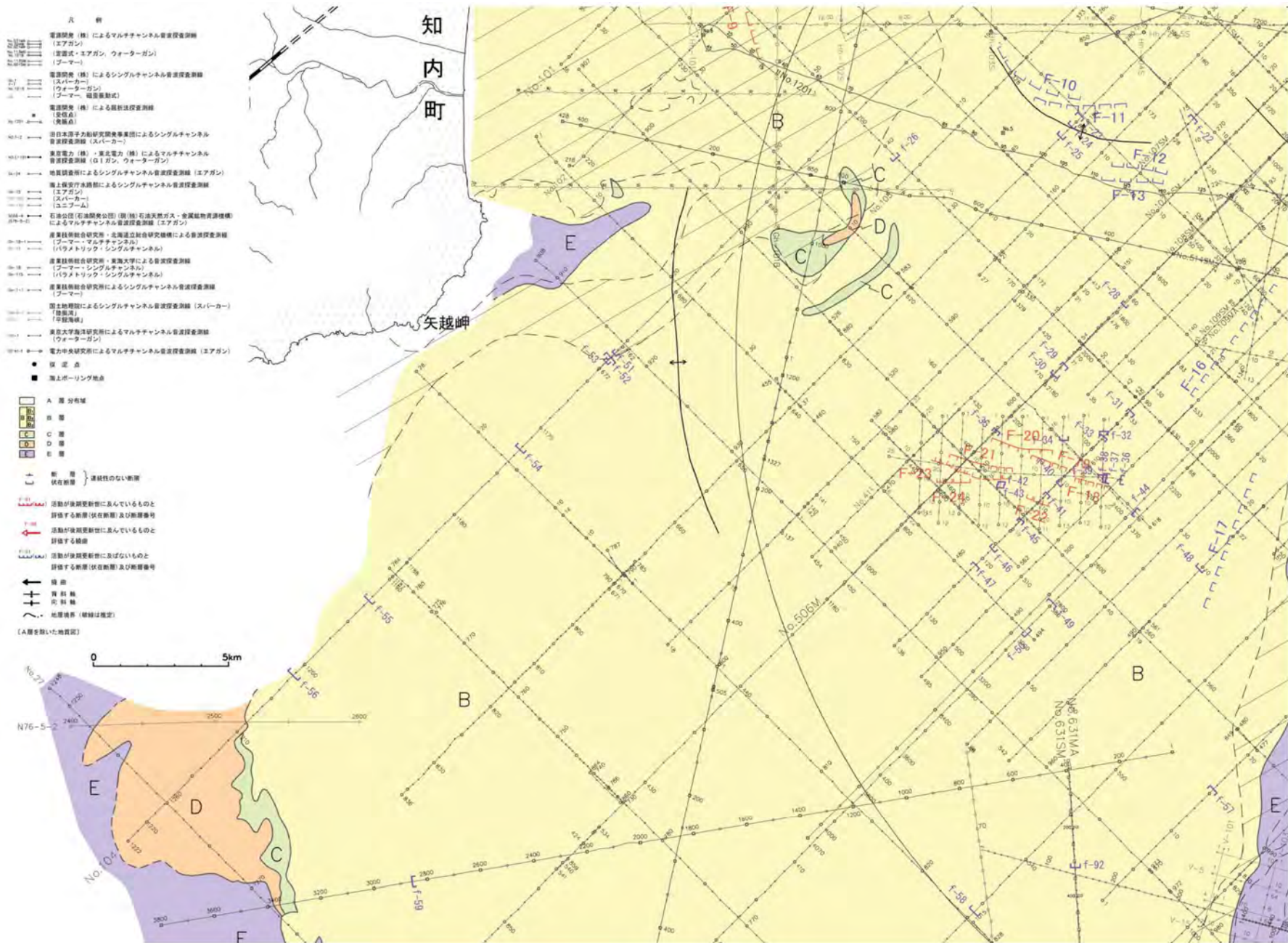
## 敷地前面海域における連続性のない断層の位置:分割図(2/8)





# 6.3 連続性のない断層(4/9)

## 敷地前面海域における連続性のない断層の位置:分割図(3/8)







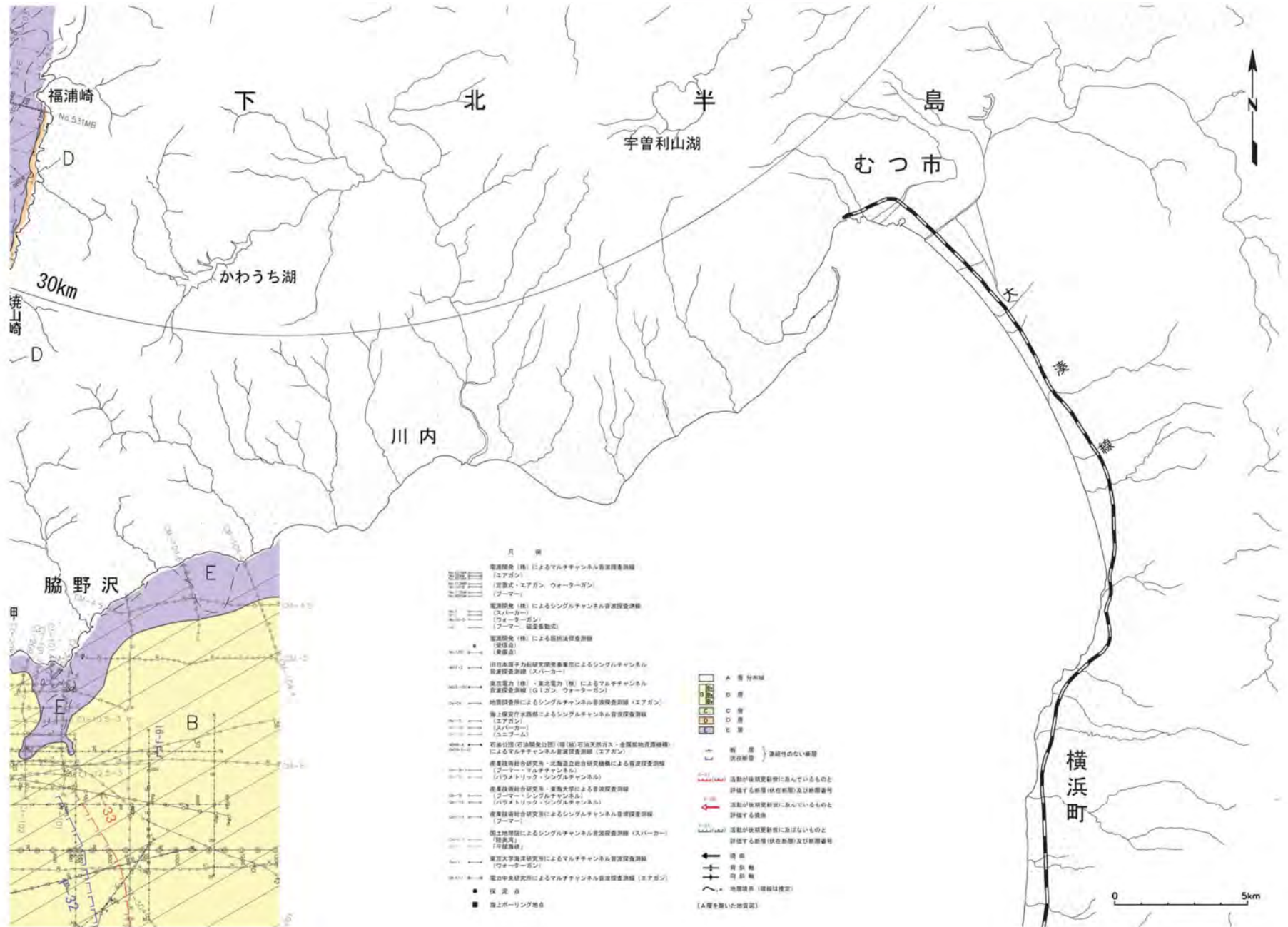






# 6.3 連続性のない断層(7/9)

## 敷地前面海域における連続性のない断層の位置:分割図(6/8)



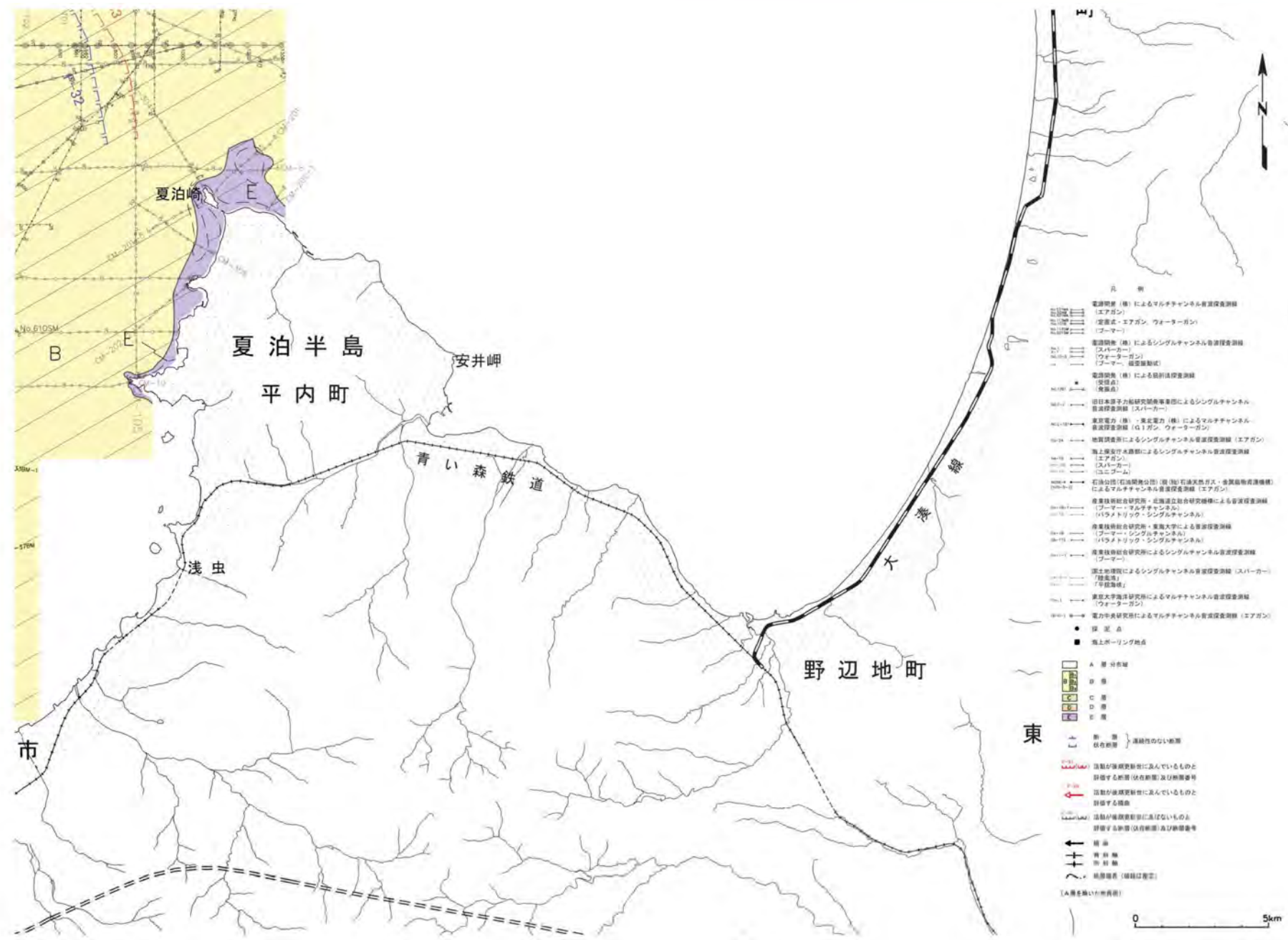






# 6.3 連続性のない断層(9/9)

## 敷地前面海域における連続性のない断層の位置:分割図(8/8)





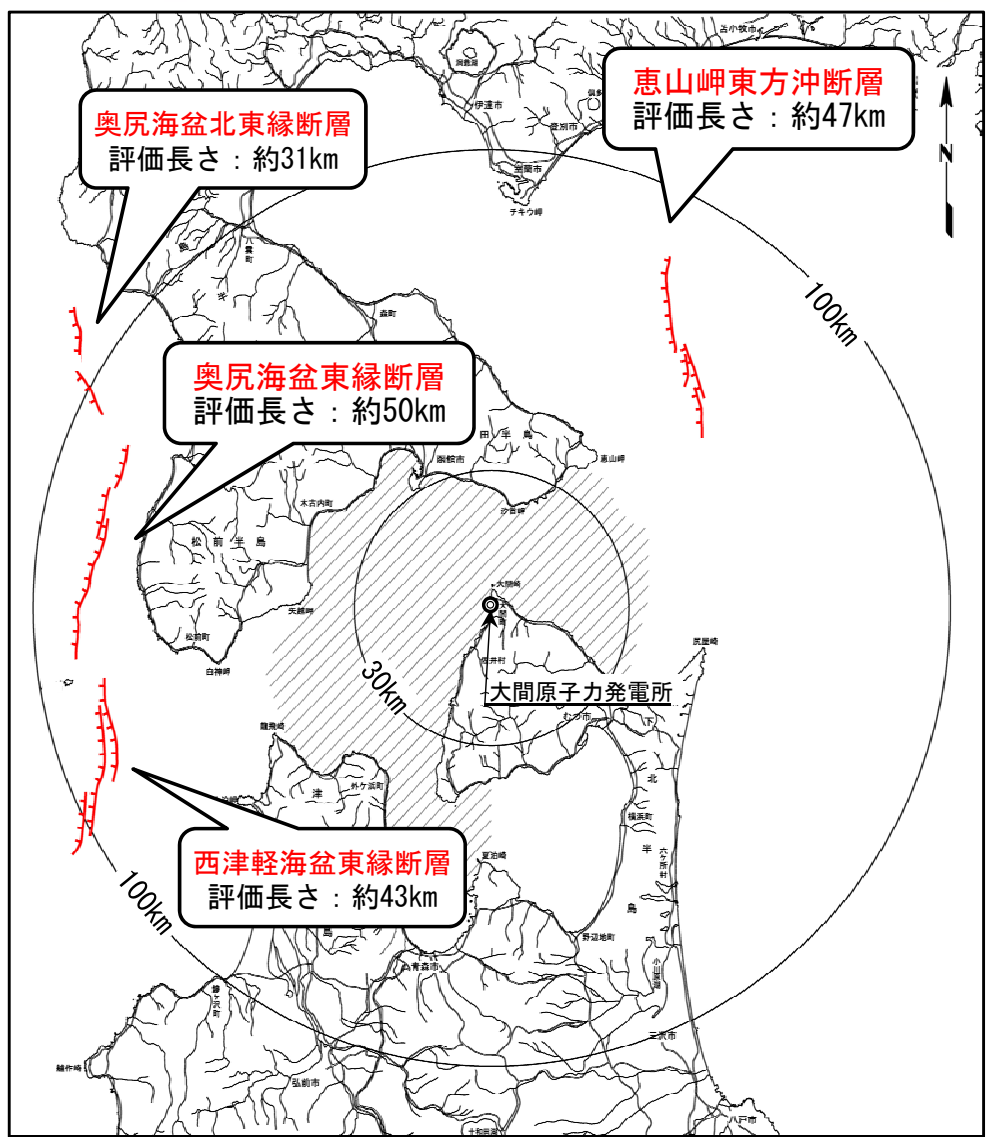
## 7. 外側海域の断層評価(概ね30km以遠) 7.1 大陸棚外縁断層

1. 地質構造に関する調査	..... 1-1	8. 沿岸の隆起傾向に関する調査	..... 8-1
2. 敷地極近傍の断層評価	..... 2-1	9. 内陸の隆起傾向に関する調査	..... 9-1
3. 敷地周辺の断層評価に係る基礎資料	..... 3-1	10. 完新世の海岸侵食地形に関する調査	.....10-1
4. 周辺陸域の断層評価(30kmまで)	..... 4-1	11. 海域の変動履歴の評価	.....11-1
5. 周辺陸域の断層評価(30km以遠)に係る基礎資料	..... 5-1	12. 地質構造発達史の評価	.....12-1
6. 敷地前面海域の断層評価(概ね30kmまで)	..... 6-1	13. 隆起のメカニズム評価	.....13-1
7. 外側海域の断層評価(概ね30km以遠)	..... 7-1		
7.1 大陸棚外縁断層	..... 7-1		
7.2 恵山岬東方沖撓曲	..... 7-7		
7.3 恵山岬北方沖撓曲	..... 7-13		
7.4 奥尻海盆北東縁断層, 奥尻海盆東縁断層, 西津軽海盆 東縁断層の連続性の検討	..... 7-19		



# 7.1 大陸棚外縁断層 (1/4)

## 外側海域における活動性評価の結果

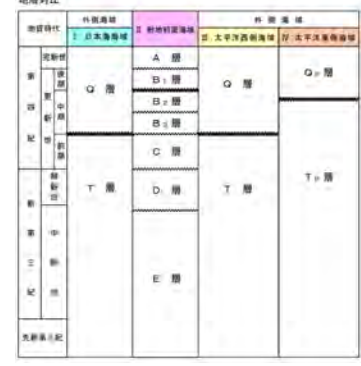


凡例  
 ( ) 震源として考慮する活断層と評価する断層（伏在断層）  
 敷地前面海域

## 活動性評価の結果

主な文献断層*1)	断層名	評価長さ	敷地からの距離	断層による変位及び変形の有無		活動性評価の結果
				可能性がある最上位層	変位変形がない地層	
①	大陸棚外縁断層	-	-	Tp	Qp	震源として考慮する活断層に該当しない。
①	恵山岬東方冲撓曲	-	-	なし	T, Q	震源として考慮する活断層に該当しない。
①	恵山岬北方冲撓曲	-	-	なし	T, Q	震源として考慮する活断層に該当しない。
②	恵山岬東方冲断層	約47km	約73km	Q	なし	文献が図示する付近及びその延長部の約47km(敷地からの距離約73km)について、震源として考慮する活断層と評価する。
③	奥尻海盆北東縁断層	約31km	約103km	Q	なし	ほぼ文献が図示する付近の長さ約31km(敷地からの距離約103km)について、震源として考慮する活断層と評価する。
③	奥尻海盆東縁断層	約50km	約86km	Q	なし	ほぼ文献が図示する付近の長さ約50km(敷地からの距離約86km)について、震源として考慮する活断層と評価する。
③	西津軽海盆東縁断層	約43km	約96km	Q	なし	文献が図示する付近の長さ約43km(敷地からの距離約96km)について、震源として考慮する活断層と評価する。

### 外側海域の地質



: 震源として考慮する活断層

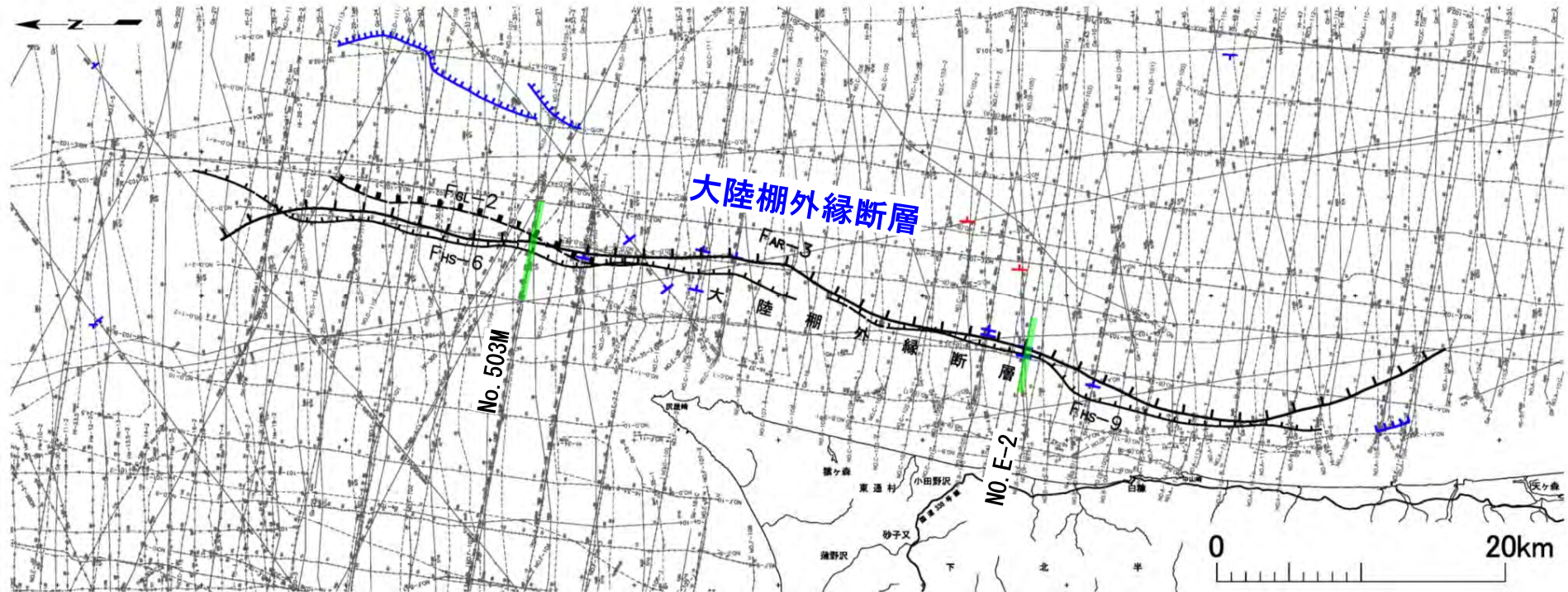
\*1: ① 活断層研究会編「[新編]日本の活断層」<sup>1)</sup>,  
 ② 地質調査所「海底地質図」<sup>2)3)</sup>,  
 ③ 国交省「日本海における大規模地震」<sup>4)</sup>

活動性調査によれば、赤で示す「恵山岬東方冲断層」、「奥尻海盆北東縁断層」、「奥尻海盆東縁断層」及び「西津軽海盆東縁断層」は後期更新世以降の活動が否定できない断層であり、震源として考慮する活断層と評価する。

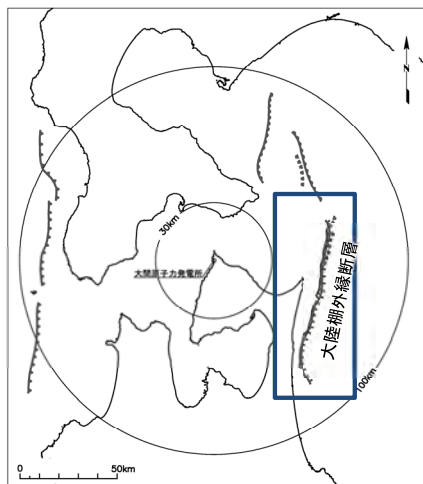


# 7.1 大陸棚外縁断層 (2/4)

## 断層位置及び評価長さ



案内図



### 文献断層

- FGL-2 地質調査所「下北半島沖海底地質図」1/20万<sup>2)</sup>による断層及び名称
- FGL-2 地質調査所「下北半島沖海底地質図」1/20万<sup>2)</sup>による伏在断層及び名称
- FHS-6 海上保安庁水路部「海底地質構造図」1/20万<sup>5)</sup>による断層及び名称
- FAR-3 活断層研究会編「〔新編〕日本の活断層」1/100万<sup>1)</sup>による活断層及び名称

### 解析断層

- 中部更新統上半部以上に影響を及ぼす断層
- 中部更新統上半部に影響を及ぼさない断層

\* 対象の文献断層に関連のない解析断層については連続性を検討していない。

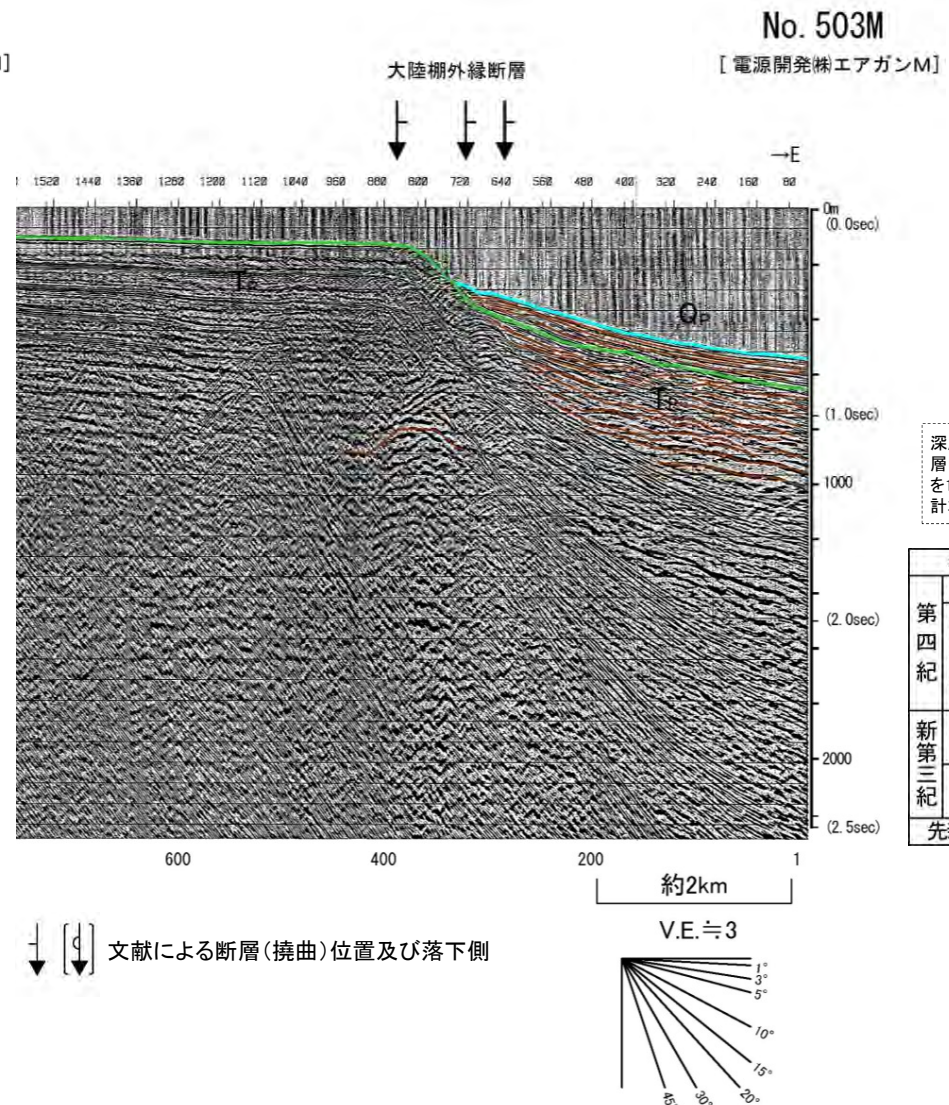
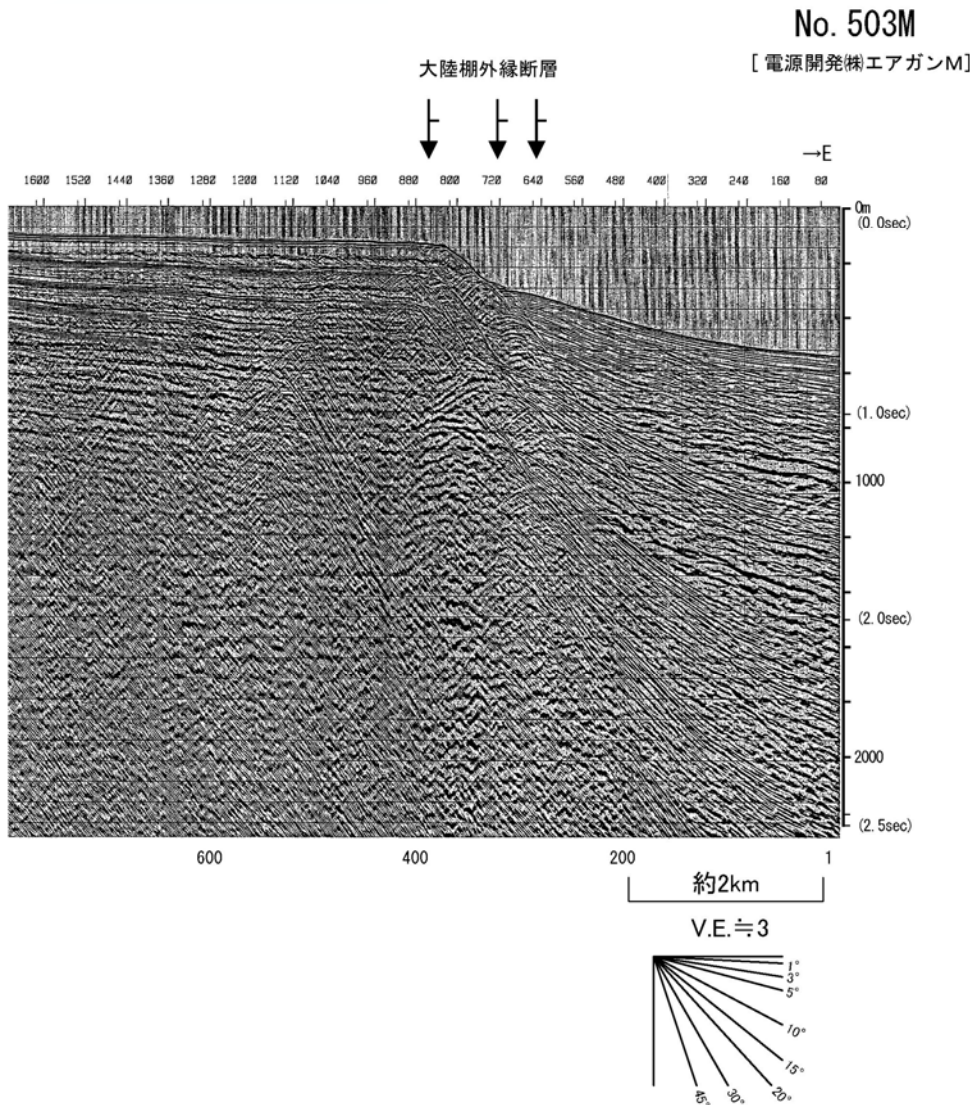
音波探査記録の添付範囲

- 文献が示す断層位置には、連続性のある断層は認められず、単独の短い断層が認められる。
- これら単独の短い断層の多くは、中期更新世以降には活動していないことから、震源として考慮する活断層に該当しないと判断される。



# 7.1 大陸棚外縁断層 (3/4)

## No.503M測線(文献による断層部)



深度は、水中及び堆積層中の音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

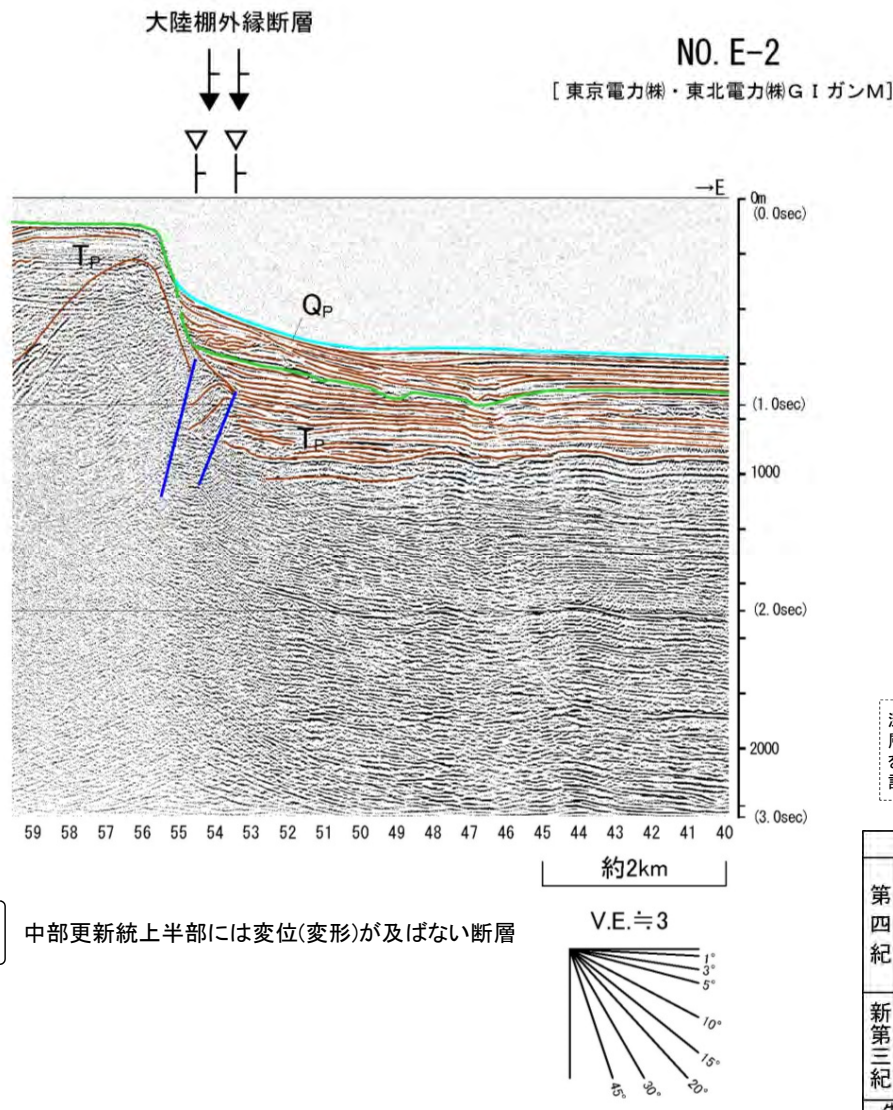
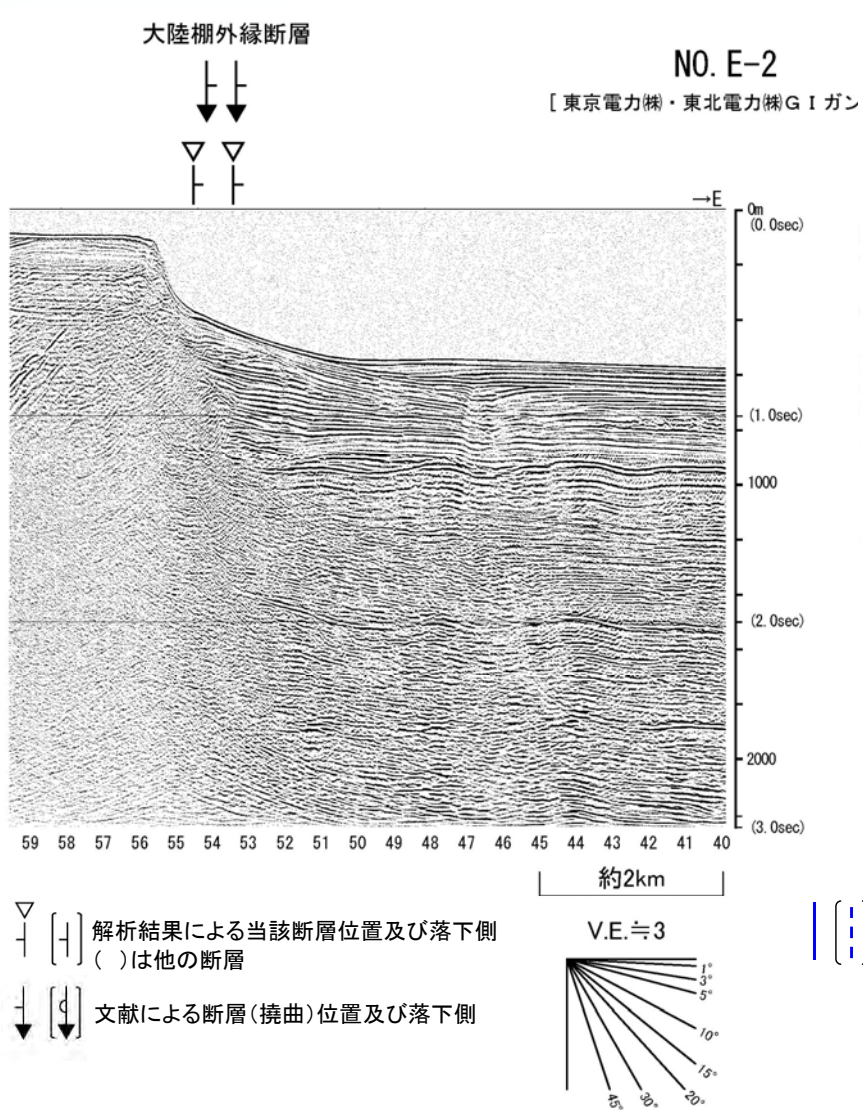
地質時代		外側海域
第四紀	完新世	Q <sub>p</sub> 層
	後期	
	中期	
更新世	前期	T <sub>p</sub> 層
新第三紀	鮮新世	
	中新世	
先新第三紀		

- 文献が示す断層付近には、断層運動を示唆する変位・変形がT<sub>p</sub>層及びQ<sub>p</sub>層に認められない。



# 7.1 大陸棚外縁断層 (4/4)

## NO.E-2測線(文献による断層部)



深度は、水中及び堆積層中での音波伝播速度を1500m/secと仮定して計算した。

地質時代		外側海域
第四紀	完新世	Q <sub>p</sub> 層
	更新世 後期	
	更新世 中期	
新第三紀	鮮新世	T <sub>p</sub> 層
	中新世	
	先新第三紀	

• 文献が示す断層付近には、断層による変位がT<sub>p</sub>層下部までに認められるが、T<sub>p</sub>層上部及びQ<sub>p</sub>層には変位・変形が認められないため、断層運動は中期更新世には及んでいないと評価する。



(余白)